



詩林良材後編

上



詩林良材後編卷一

天文

○日惣論

廣雅二日ヲ耀靈ト云一名ハ朱明一名ハ東君一名ハ大明一名ハ陽鳥ト云ヘリ詩ニ作ルニハ日落比時ヲ薄暮ト云日ノ落テ東ヲ照スヲ返照ト云反景ト云朝日ノ朝陽ト云日暮ヲ夕陽ト云春ハ遲日ト云夏ハ畏日ト云秋ハ凄日ト云冬ハ愛日ト云此外ニモ異名多クレドモ詩作ニ用ヒラダシ詩ノ題ニ日影斜陽春日秋日夏日冬日或ハ曝日或ハ負冬ト云ナト作りタル例アリ

大意

大意ハ幼学ノ人ノ詩ヲ作ルキ引リ此ノ文字ニヨリテ一句ノ趣向ヲ仕立シ日ノ詩ヲ作爲セバ喩ハ大意ノ下ノ曙光開ノ三字ヲ用ルナラハ大字ヲ加ヘヨ

雞鳴萬里曙光開
萬里曙光煙霧開

ト綴リ用ヒテ作ルシ或ハ紅輪出トアル字ヲ用ルナラハ大字ヲ加ヘテ
紅輪將出曙光開



曙光開處紅輪出

ナド作り習フメシ大意ノ下ノ文字ニカキラ
入摠ノ古詩一句片言中ニ其文字
ノ詞ヲ味フテ其時ノ風景ト我情トヲ
鍊熟シテ作り習フヘシ

日大意

曙光開明カニ日リ光 紅輪出見ユリ

紅輪 玉鑑漾玉鑑 薔葉轉薔葉

葵心傾葵心 桑榆影桑榆 惜分陰惜分陰

晚景ノ一ニ 紅影麗紅影 花弄影花弄影 露垂珠露垂珠

影ヲ惜ムトリ 花弄影花弄影 如駒隙如駒隙

一白駒ノ 隙ヲ過如

日影大意

穿竹簾蘸水

日影カ竹ヲ透リテ動 碎金波日影カ水 竹師竹徑竹師竹徑

波ノ光カ金 琉璃軟翠光搖ニ共ニ日影

ノ如クニ見ユリ 波搖淡影日ノ水ニウツリ

斜陽大意

餘光入戶

夕日ノ 殘影 嶺山上 落照

紅上 樹帶餘光上 人間駒隙日光ノ

天上鳥輪日ノ 沈紅微落日ノ殘

暮山紫夕日ノ照 半樓紅日影カ半樓

熟語 熟語ヲ舉ル古人ノ詩一句モ無用

初学ニ知シメニ為ナリ 此熟語ヲ能ク味ヒ知テ

詩ヲ作り字ノ用ヒヤウヲ知ヘシ一句ノ中

文字ニ照應ナレバ魂魄ナクテ詩弱シ且ニ

青歸柳眼窺晴晝古詩

眼ノ字窺ノ字照應ス夏日ニナレハ青々タル柳
眼カ晴タル晝ノ景ヲ窺ヒテ見ルヤウナリ
眼ト云字ニ付テ窺ノ字ヲ用ユ青ノ字ハ
眼青トモ用ユ

紅點桃唇笑煖暉 同上

唇ノ字笑ノ字照應ス春日ニテ紅ノ色桃
ノ唇ニ點シタル煖日美人カウツ夫ヲ如ク見ル
唇ノ字ニ付テウツ夫ト用ヒタリ紅ノ字紅唇
朱唇トモ用ユ

未離東海陰先伏 潜菴集

未離ノ字先伏ノ字照應ス此句ノ意ハ一夕夜
ニテアト日光ノ出ルニ東海ヲハサレ又中ニハヤ
天地ノ間ノ陰景カ伏スマラシ明ニナレトナリ

纒到中天德正明 同上

纒到ノ字正明ノ字照應ス此句ハ日色カ纒中天
ニ到シハ日光ノ德カ全クミユルトナリ

牧童眠向日 王正義

眠ノ字日ノ字照應ス此句ハ牧童ハ眠ニクモ眠
ラズノ日ニ向トナリ

望海樓明照曉霞 白居易

明ノ字曉ノ字照應ス句ノ意ハ望海樓ニ
日光カノボレハ霞ヲ照ス故樓モスル明ナリ

護江隄白踏晴沙

日色カ晴タル沙ヲ照故隄モスル白ラフ
ムトナリ

故事 陽德 春秋内事云日ハ陽
六帖云日中ニ足ノ 陽鳥 白

鳥アリ是ヲ陽鳥ト云 駒過 前漢魏豹傳云
トアリ人生ハマツ過ルハ白駒ハ日景ヲ云ソ

過ルホト間ノナイト云ソ 白駒ハ日景ヲ云ソ
連珠 淮南子云若木ト云樹建水ノ西ニアリ末ニ

ノ狀ハ連珠ノ如シ 負暄 列子曰昔宋ノ国ニ田
衣ニ冬ニ過ス春ニシヨミ耕作スル時ニ日ニ

アタリニアタカカリケレバ天下ニ綿ツムキ狐ノ裘
アドノアダカナル物ノアルヲ不知シテ吾妻ニ

カケリテ云ハ日ニテセアカラアタカク人ハ知
ナシ我君ニ此事ヲ 夸父追影 列子曰夸父ト

献ツラント云レトナリ 日景ヲ逐トテ 峒谷ノ際ニテ追カケテノ咽カ
ワキケレハ河渭ノ水ヲ飲トモ水不足ニテ渴ニテ

ワキケレハ河渭ノ水ヲ飲トモ水不足ニテ渴ニテ

死タリ其杖ヲステタレハ杖生出鄧林ト云モリ
ニナリタルトアリ 卷ノハハ神人ノ名ソ

鷄鳴 玄中記云東南ニ東都山アリ大樹アリ
テ此ヲ照セハ天鷄即チ鳴ナリ

天鷄カ鳴ニリフ天下ノ鷄カナリ 連壁 易坤
云至徳ノ朝廷ニ日月カ

半規 謝靈運詩 連壁ノ如クナリトアリ
史記漢景帝

入懷爲祥 史記漢景帝 王夫人夢ニ
圓ナルモノ半分ヲ云ソ

日が懷ニ入トミナリ 葵藿傾 活法曹植表
娠ニテ武帝ヲ生リ

太陽 麗天 易曰日月麗于天百 分陰 晉
トアリ 穀草木麗于地トアリ 書

二陶侃常ニ人ニ語テ曰大禹ハ聖人ナレハ寸陰ヲ
惜ム凡人ハ分陰ヲ惜ムメトナリ

寸晷 潘尼詩曰尺璧信易遺寸晷 再中
難可踰トアリ寸晷ハ一寸ノ日景ク

再中トハ傾タル日ノ再ニ盡ニナルソ 風俗通ニ
漢ノ成帝ノ劉向ニ問クニ昔文帝ノ即位

時ニ刻限ニ過タレハ位ニ立フナルミトアリタレハ
日ガ再中スト云ハアリヤトアリケレハ向カ言ハ文
帝少シニ位ニツキタミフ日再々中セト對
シナリ

○古詩

員外冬白

白居易

果々冬日出照我屋南隅負暄閉自
坐和風生肌膚初似飲醇醪又如執暑

蘇外融百骸暢中適一念無曠然
忘所在心與空虛俱

一三ノ句ト言ハ果々ト冬ノ日カ高クノボリタリ我
屋ノ南ノ隅ヲ照スツ三四ノ句言ハ此日ノ暄

ナルソムサニ目ヲ閉テ坐スバ和風カ肌ニ
生スルゾ五ノ句日カ暄カナレバ初ハ醇醪ト

テ味アツキ酒ヲノミタルヤウナレハ寒ニ氣モトテ
テ地下ニトチコモリタル蟲カ春暄ニ逢テヨミ

ガヘリタルヤウナリ七八ノ句外ハ此身ノ百骸
ガ暢テ竹筋骨カ柔クホドニ中心胸コロヨクテ

餘念モ無キソ九ノ句曠然トムナシクテ我
身ノアルヤラナキヤラワスレタソ此ハ此身カ心ヲ

ニ心カ空虛ト一枚ニナリタソ

返照

杜少陵

反照開巫峽寒空半有無己低魚復
暗不盡白鹽孤嶽岸如秋水松門似
畫圖牛羊識童僕既夕應傳呼

一三ノ句言ハ夕日カ返照シテ巫峽ヲ開テ見
ユルゾ然レドモ西日ノヲリナレハ寒空ニ見ユル景
物カ有トモ無トモニユルソホノカナレ意ソ三四
ノ句ハ日己ニ山ニ低レハ魚カ先クククナルワサレ
トモ光ノツキヌアケダハ白鹽山カヒトツ立テ見
ユルナリ五上ハノ句ハ荻芦ノ岸ハ秋水ノ如ク
ニ見エ松門ハ畫圖ノ如クニ日ノ返照ニミユル
七八ノ句ハ此ヲリカラ薄暮ナレ牧童ヲ牛羊
カ見シリニ歸ルトニ傳呼シテヨバ皆牧童
ニツレ行トナリ

○月摠論

雪月風花ハ相並テ古人ノ吟詠ニ甚ク多シ
月ノ題ハ春月夏月秋月冬月或ハ初月ヲ
見テハ鏡ノ匣ヲスコシ開キタルト作り或ハ銀
鉤ノ簾ニエルカト疑ヒ殘月ヲ見テハ揚柳ノ枝

ノコレ影ヲカシム或ハ待月酌月歩月賞月
ナトノ題アリ山野幽閑ノ趣ヲウツシ去來征
霸旅ノ思ヒヲノベ又ハ月ニ遊テ笙歌管絃
ノタシナミヲナス其見處ニ隨テ趣向モカレシ
詩ノ作り方大意并ニ熟語ノ辨ハ春詩
摠論ノ下ニ記ス月雨雪此ノ三ツノ題ハ一字題
ナレバ初學ノ人ハ字ニ作りカタル四時ノ部
ノ摠論ヲ見合テ作爲ス

月大意 一輪碾破 秋ノ空ニ月ノ出ルハ
車輪カ天ヲキレリ

破如 玉宇寒光 玉宇ハ月ナリ寒光
ハ光スサミギキリ 烟江

玉湧 水煙ノ立タル江ニ玉ノ
如クナル月カワキ出リ 流天素影 素影
ハ月ノ

天ニ流ルマウ 鏡光遠挂 月ハ鏡ノ遠天ニカ
ニ見ユルナリ 輪漸

清露洗來 月ノイサキヨキハ清露ノ
ツユニテアラヒタルヤナリ 輪漸

移 輪トハ月ナリ漸 萬里晴光 イツクニテモ
移ハ月カタラク

寶鑑開匣 寶ノカミノハコヲ
ヒラキタル如ナリ

新月大意 玉鉤斜倚 玉鉤ハ月
ナリ月ヲ

スダレノ中ヨリ見娥眉飛上ハ月ヲミルハ美シハ玉鉤ト思フリ
上リタ織影微茫新月ノホソキ影カカ如リ
碾輪半破月ノ車輪ノ半ハ破壁影半レタルヤウニ見ユルナリ
虧カク壁ノ如ナル月カ菱花缺菱花ハ鏡ノ
ハ鏡ノカケノ曲如鉤月ノ曲タルハ簾ノ鉤如ナルリ

月影大意 清光入戸月影カクニ

透竹玲瓏月光カ竹林ノ中光瀉波ヨリスキトナルナリ

寒月影カサセハ波ヲ滿衣水影月カ衣

水ノカゲト 遍地水光月ノ光カ地ニミケニ見ユルナリ

凌秋桂影秋ノ寒ヲ凌テ光浮練白桂ガサカヘタトナリ

月ノ影ハ白キ子リギヌ 一庭雪月月ヲ雪ヲウガメタヤウナリ
熟語

委波金不定 杜甫

委ハエタ子ルトヨミニ一カセル意ナリ 月カ波 動クニミカセバ故ニ金光カタヨヒテ不定ナリ 委ノ字不定ノ字照應ナリ

照席綺逾依 同上

月カ綺席ヲテラスニヨリ 綺席ノ色ト月 影カ光リ相ヨリニ見ユルリ照ノ字逾依ノ 字照應ナリ

香霧雲鬟濕 同上

霧ノ字雲ノ字共ニ水ヨリ出ル濕ノ字ニ照 應ス言ハ月影ノ香バシキ霧ニナノ雲ノ

清輝玉臂寒 同上

輝ノ字玉ノ字トモニイサキヨク 冷カナル意寒 ノ字ニ照應ス言ハ月ガイサキヨク照シタラハ

氣埃未淨雨湔洗 曾茶山

氣埃ノ字湔洗ノ字ニ照應ス言ハ氣埃ノ キリカスミヲ雨ノ湔洗トソキアラヒモ一月

陰翳小留風掃除 同上

陰翳ノ字掃除ノ字風ノ字ニ照應ス 言ハ陰翳ト雲ガカクミラヒタルヲ風ガハラ

月見セトヤリ 白樂天

失寵故姬歸院夜

失ノ字故ノ字照應ス言ハ君寵ヲウレナ
シトトリワキ故姫ナレハ年老タルホドニモハヤ
クノコモナキソ月影ニ院ニカヘル夜々リナ
シニアルヤシ

没蕃老将上樓時

没ノ字老ノ字照應ス言ハ戦ニウヂニシテ
正ビスニトラワレタル大將軍年老多シハモハヤ
功名ヲ立ルカタクシ只月ニ對シテ故郷
ヲ思ヒテ樓ニ上リタルトキハ悲々ベキトナリ
故事

月中、騫樹 月中ノ樹ノ名ソ其葉ヲ食フ

桂枝化吐曜 明月ノ賦ニ桂枝花 三五二八 鮑明遠

詩ニ三五二八ノ時千里與君同 丹桂參差

晁次雁力詞ニ素娥澹仙 應夢 漢ノ李夫人月ニ懷

淨可數丹桂參差トアリ 會稽 先賢傳

ニ入ト夢見ニテ元帝 夢 月中字 古詩ニ

我名ノ字ノ在ルヲ見タリ 天上 韓退之詩 新月

娥眉天上 磨鎌 初月 磨鎌トアリ

○古詩 曹希蘊

禁鼓初聞第一鼓乍看新月出林梢

誰家窗鏡新磨出匣小參差蓋不

交

禁鼓ハ禁中ノ時ノ鼓ゾ第一鼓ハ六ツ時ソ三

ノ句言ハ禁鼓ノ第一鼓ニヤ林ノ梢ヨリ新

月カ出テ見ユルゾ三四ノ句ハ誰家ノ窗

鏡ヲ新ニ磨キ出シタル月ノハビメツカタ

ナレハ圓カナラズ少シカクハシガミユルソ此ハ鏡

ノ匣カチイサクニ蓋カ參差トカタガヒニテ

アワヌエハ光カモヒテ見ユルカトナリ 盧多遜

同 太液池邊看月時好風吹動万年枝誰
家玉匣新開鏡露出清光此子兒
大液池ハ禁中ノ池ナリ漢ノ武帝建章宮
ノ北ニ池ヲホリテ太液池ト名ケタリ萬年

枝ハ冬青樹ト云木也此ノ詩ハ禁中ニテ賦
シタル詩ソ一ニノ句言ハ禁中太液池ノ邊
ニテ月ヲ見レハ好風ガ吹來ニ萬年枝ヲ勤
スソ三四ノ句ハ初月ノ跡ヲ云ソ言ハ誰家ノ
玉匣ヲ開キタルヤラン鏡ノ清光カ少シ見ユ
ルトナリ此ニ子兒ハ少シト云フナリ

月 杜甫

四更山吐月殘夜水明樓塵匣元開鏡
風簾自上鉤免應疑鶴髮蟾亦戀
貂裘對酌嫦娥寡天寒奈九秋

殘夜ハ四更ノ時ナリ一ニノ句ハ言ハ四更ノ
時分ニ山ヨリ月ヲ吐キ出シタレハ月ノ光
水ト共ニ樓ニ映メ明ナルゾ三四ノ句ハ言ハ
此月塵匣ニアルトキハ滿月ナリ此ガ此夜ニ
十六ノ夜ニナリタレハホソクナリ月簾ハ鉤
ガエリタルト見ユルソ五六ノ句言ハ免モ蟾
モ月中ニアルモノソ免ハ吾ヲ見テナニテ
此ホドミニノ衰老シテ鶴髮ノシラカナリタ
レゾト疑フメシ蟾蜍ハ我が貧窮ヲ見テ貂
裘ノヒトヘタルヲアワレムシセハノ句嫦娥ハ尙

羿カ妻ナリ仙藥ヲヌスミ月中ハレリ
ニゲタリ言ハ今斟酌トハカリ見レニ嫦娥ハ
ヤモノナリ此ホド寒クナリテ獨宿スルヲバ
九十日ノ秋ノ夜ニタベテレミジキソイガハス
ソトナリ

○雨摠論

京房ガ易候ニ太平ノ時ハ凡ソ年ゴトニ三十
六雨フルト云ヘリ雨水ハ雲ヨリ下ルル雅ニ
暴カニフルヲ凍雨ト云コサメヲ霰露沫ト云
三日己上ヲ霖雨ト云久雨ヲ淫雨ト云古今
詩ニ雨ノ一字題甚タスクナシト口詩ニ秋雨嘆
雨夜吟秋霖歌久雨喜雨ノ詩歌アリ大
意大槩雨ノ詩ニ用ベキ詩句ヲ撰ミ出ナリ

大意

陰雲掃地 雨雲ガサガリテ風引如

絲 風カ吹ニナレハ積翠濃 雨ニウルホヒノ

水散圖紋 雨カ水ノ上ヘフレハ水輕滴

庭梧 小雨ガ庭ノ梧葉ニタタ 響音入西窓 雨

遠水藏霧 遠クアハ水ハ雨ヲ 催ホストキ霧ニ

カクシニ 雲霧難開 キクモキリ毎 斜正
見エヌナリ 日ヒラカヌリ
依風 雨ガ横ニフリスグニ 老礎含潤 フルキ
ハガ久雨ニ ウルホウトニ

久雨大意 花容不乾 カクシニ
鳴蛙鼓吹 久雨ナレバ蛙カ時ヲ得テ 水落
岸崖 久雨ナレバ水カミシテ 落ルソ 簫竹立簾

衣 簫竹立ハスゲノカサ 簾衣 塔除緑滿 塔モ
久雨ナレハ 深泥没脛 久雨ニ泥カフカク
夜塔滴々 久雨ニテ夜々塔ニ 晝掩關 久雨

人ノ往來モナク 琴絲緩 久雨ニテ琴ノ
篋角細滴 檐ノスミニ日々 病吟孤雨

熟語 熟雨ニ催サレテ 豆苗欲

本為柳枝留淺色 陸放翁

却教梅葉洗幽香 同上

却教梅葉洗幽香 同上

飄零露井無桐葉 同上

斷續煙汀有鴈群 同上

此夕ノ意ハ或ハ斷又ハ續ニ 鴈群カ見ユルト云意

ナリ煙汀ノ二字ヲ問ヘハサム句法

流落雖天外

趙昌父

流落ハラチブル、ゾゾ我身ハラチブル、天
外ノ遠國ニ居ルトモ

登臨頼目前

同上

登臨シテ面白キ景ヲ見ルトナリ 雖ノ字頼
字照應スニ今貫イテ見ルヲ

破屋疎茅滴

張宛丘

破ノ字疎ノ字 滴ノ字照應ス言ハ破レ屋ハ
キタル茅モ疎ナルユニ雨モ一入シタリ漏ル屋
上茅トハ物ナリ 破疎滴ニ字ハ應ナリサレトモ
ニ字トモニ開ラハ字ハナキリ意得ナシ

空厨濕葦烟

同上

空ノ字濕ノ字烟ノ字照應ス言ハニギワ
タル厨ハ烟リフスボルキニ空厨ノ烟リ葦
ノレノリウルホヒタルヲ燒ユナリ

故事

雨土 異聞録ニ唐ノ柳毅ト云者洞ニ居テ
過ルトニ女子ノ羊ヲ牧ラ見テナニ
ユニ羊ヲ牧ソト問ハレハ羊ニハ
ナレ雨エトニ雷ノ類ト云ヘリ 香雨 元微
之詩

雨ノ香雲淡、質微和トアリ 李賀詩
依微香雨、依微トアリ 留客 留客
雨ノ機要覽ニ三月二日 濯枝 魏知詩
雨ノ雨ヲ留客雨ト云 濯枝 濯枝林香

發 鞭石 荆州記ニ佷山縣ノ山ニ石アリ
トアリ 鞭石 一ヲ陽石ト云一ヲ陰石ト名ツテ
陰石ヲ鞭ツテハ雨フリ陽石ヲ鞭ツテハ
晴ト云ヘリ

潤 社翁雨 詩幾點
潤 淮南子ニ山雲
一番サ化信 豆丹化雨 里俗八月ノ雨 簸神
目トアリ 山堂肆考ニ梵僧不空雨ヲ祈ハ三數寸
ノ木神ヲ簸旋シテ念咒シテ擲テハ
必入雨 隨車致雨 同上南陽大旱鄭
フルトス 弘行表至北所隨
車雨 林宗墊巾 山堂肆考曰郭林
宗逢雨頭巾一
角ヲシボリタルヲ時ノ人ツ字ニ頭巾
ノスミヲワザト着タリ林宗ヲ草蒸ヒニ
似セタ 紋石出津 唐蘇頌紋石ノ筆
トナリ 架アリ雨フラント
スレハ紋石ニウレハ出ルトナリ

社翁雨 詩幾點
社翁雨

豆丹化雨 里俗八月ノ雨 簸神
目トアリ

山堂肆考ニ梵僧不空雨ヲ祈ハ三數寸
ノ木神ヲ簸旋シテ念咒シテ擲テハ

必入雨 隨車致雨 同上南陽大旱鄭
弘行表至北所隨

車雨 林宗墊巾 山堂肆考曰郭林
宗逢雨頭巾一

角ヲシボリタルヲ時ノ人ツ字ニ頭巾
ノスミヲワザト着タリ林宗ヲ草蒸ヒニ

似セタ 紋石出津 唐蘇頌紋石ノ筆
トナリ 架アリ雨フラント

スレハ紋石ニウレハ出ルトナリ

七言詩

杜牧

連雲接塞添迢遞酒幕侵燈送寂
寥一夜不眠孤客耳主人窗外有
芭蕉

一三ノ夕ハ雨フリニ連雲が塞ニ接シテ見
渡セバイツクニモクモリニハルカナルゾ簾
幕ニツキテ灯ヲサカシテ旅館ノ寂寥ヲ
送ルゾ三四ノ夕ハ旅宿ニトリニ一夜ニム
ラヌハイカニトナレバ此宿ノ主人カ窓外ニ
ハタル芭蕉ニ雨カヒタリテ旅思ヲ添ルユ
ハトナリ

秋雨

趙師祭

黃菊紅蕖一向開斷雲挾雨送寒來
清愁滿目無人會只把新詩當
酒盃

一三ノ夕ハ黃菊モ紅蕖モ一向ニヒラキタルソタ
ヘシニ見ル雲カ雨ヲサシハサミツクニテアリ

來レハ冷カニナルホドニ送寒來ルト云ソ三
四ノ夕此オリカラ秋ノ愁ガアツク満目ト
テ見ル處ニ愁カアトモイツクヲサシテ
此レコソ愁ノアル處ト我モ知ラズ人ハ
會スルモノアルニジキリ酒ヲ飲テ愁ヲ
散ジタク思ヘドモ酒ナレバ新詩一首作リ
テ酒盃ニアツルトナリ當トハ代ルト云立思ッ

秋雨

陸放翁

剡曲高秋一卮亭雨來迨我醉初醒
豪吞平野宜閑望亟打虛牕入靜
聽沙上濕雲號斷鴈籬根衰艸綴
孤螢老人嬾復親燈火卧看爐香
掩素屏

一三ノ夕言ハ剡曲ト云處ニ高秋ノ時分一
卮堂ニ坐シテ居ソ秋雨カ冷カニ吹来リク
ハ我カ醉モ醒タリ三四ノ夕ハ雨カ平々
原野ノ家々香シテ閑望スルニ宜キリ雨
カムナレキ牕ヲ急ニ打テ靜ヲ耳ニ入テ面白
キノ五六ノ夕ハ遠ク見渡セバ洲沙カ天ニ

連リテ濕雲ノ中ニ友ヲ離シタル断鴈カ
サレ近ク見レバカキ子ノ衰艸ニ孤螢ガ
光リテ綴リテ満々ニアルソセハノ夕
老人ヤレハ我ハ雨中ニナスベキ業モナレ物
ムツカレクニテ灯火ノミヲ親ミテ臥シテ
炉香ノ煙ガ素屏ノシロキ屏風ヲ掩ヒ
テ見バカリソ雨中ニハ香烟モ外ハ出ヌ
ト意リ

○霜露摠論

霜露ハ古人ノ詠吟スクナレ詩經ニ兼葭蒼
々白露成霜ト云ヘリ又小雅ニ湛々露斯在
彼杞棘ト云ヘリ阮籍カ詠懐ノ詩ニ清露
被蘭皋凝霜沾野艸ナド詠シタリ霜露
ノ詩ヲ作ラハ四詩ノ秋夕ノ部ニ見ルモ
テ作爲スル大意思ノ語モ大概同意ナリ
大意 光凝紅葉 霜ヲキテ木
深黄 霜ニ木葉色 寒庭月白 霜白
ノ光リノ綴弄化 林ノ霜カ玉ヲ
如クナリ 綴弄化 綴リタル如クナリ 正月霜
正月繁霜 衆人行霜 聖人ハ水ニ行衆
霜アリナリ 人ハ霜ニ行クナリ

言ハ霜ハ踏ニテ跡ナリ 一夜嚴凝 最
故ニ衆人行トナリ 千冷未梳 霜フリ
ト云 千冷未梳 霜フリテ千ヒヤカナレハ
ツソ 早景霜白 早天ニ霜 カラキタル
鳥雀ガ寒 鳥雀愁 霜
ヲ愁ルソ

熟語

緑郊渾變白

緑ノ字白ノ字照應スニ字トモニ光彩ヲ
上下ニ用ユ此レ亦一格ナリ句立意ハ霜カ
郊ニ滿シレハ緑コトクク白ク色ニ變
ヒタリトナリ

翠葉盡凋黃

翠ノ字黃ノ字照應ス如ク別ニ此レ
句立意ハ霜ニカレテ翠ノ葉モシボコ
黃ニナリタルトナリ

重露成涓滴

重ノ字涓滴ノ字照應ス露重キホトニ
涓滴ノシタリトナリタルソ

稀星乍有無 日一

稀ノ字有無ノ字照應ス星ヲ稀ナルト
ニ作ニ有トモハハフクモナルリ

浮萍破處見山影 張宛丘

破ノ字山影ノ字照應ス夕意ハ浮萍カ
リト破ラシテノキタレハ山影ヲ見タリトナリ
山ヲ見タルニハアラズ浮萍ノ破ル故ニ水
中ノ山影ヲフト見タルナリ此蘇格詩人
常ニアルコトナリ

小艇歸時聞棹聲 同上

歸ノ字棹聲ノ字照應ス小艇ノ歸ルヲ
不知トモフト棹ノ聲カスルホドニ小艇ガ
歸リタルト知ルトナリ

故トモ

玄霜 漢武外傳西王母曰
仙藥玄霜絳雪

古今詩話ニ白鴈ノ秋深ニ來ルトト霜
カフニ其ユヘニ白鴈ノ來ルヲ霜信ト云

湘潭記ニ鷺管山ノ霜 豐鐘

鳴 豐山鐘霜フルバ 白露為霜 詩經
自鳴ルトナリ

白露為 紉碧霜 王子年拾遺記廣延因
霜トアリ

紫瓊霜 李白別傳ニ慈恩寺ニ遊時僧
献スト 豐銀 鄭谷詩ニ瓦凍ニ結玉

李白詩ニ霜結梅梢 天酒 神異記ニ王
玉陰凝竹幹銀トアリ 者德惠ヲ

施セハ甘露下ル一名ハ 口吸花露 開元
膏露一名ハ天酒トアリ

二楊太真飲酒肺熱ヲ 蟬飲 說苑蟬居
苦ハ化露ヲ吸テ肺ヲ潤ト

飲ト云 被蘭 阮籍詩ニ清 三危 呂氏
ニ伊尹湯ニ説テ曰水之 玄露 洞冥記ニ

美者有ニ三危之露 東方朔言
露ヲ得テ青瓊 蜜涼水凝 曹植銘

神漿 隋盧思道表ニ 神漿可挹トアリ

○古詩 無名氏

滴瀝明花苑 葳蕤泣竹叢 玉垂

丹棘上珠湛綠荷中夜警言千年鶴
朝零七月風願凝仙掌向長奉

未央宮

三ノ夕瀟灑ト露カレタリニ花苑ニ歲麩ト
盛リニ多クニ竹叢ニ泣ナシダノ如ク三四ノ
夕ハ丹棘ノ露ハ赤玉ヲタレ緑荷ノ中ニハ
真珠シ浮タルカ如クナリ五六ノ夕ハ霜下
ハ夜ヲ警言ニ千年ノ鶴ニ寐ルニナレ朝
ニ結ニハ七月ノ秋月ニ零ルリ願クハ金殿
ノ仙掌ノ露ト凝リニ長生ノ仙藥ヲト
ノ長ク未央宮ニ奉獻セントナリ

秋露

王半山

日月跳何急荒庭露送秋初疑宿雨
泣稍恠曉霜稠曠野將馳獵華堂
已御衣空令半夜鶴抱此一端愁
三ノ句ハ日月跳ル何ソスミヤカナル夏
過ハヤ秋トナリ一サカタル庭草ニ露路シキ

又秋ヲ送テ光陰カスミヤカナルソ三四ノ
夕ハ初ハ宿雨が草世ニ泣然ト光リアリ
カト疑ニ漸ク曉ノ霜カ稠クシキタルカ
ト恠ソ五六ノ夕ハ白ク思ハ秋深クナリテ
ヤウク曠野ニ獵人カハセテ獸ヲ逐
或ハ華堂ニ居ル人カ寒ニタヘズニ衣ヲ
御スルヲリカラソセハ夕如此秋露カ
寒キホドニ夜半ノ鶴ヲ敬言ナリ終夜イテ
ガル一端ノ愁コト抱カシムルナリ

○雪摠論

雪ハ月ニ并テ吟ノ吟詠甚多成盛ニナリ
或ハ月ニ舞ヲ柳絮ト云寒林ノ花ト詠ジ
白キヲ鶴糞ニ比シ鵝毛ニ擬ラ殿閣ニ積シ
ハ玉宇瑤塔ト云或ハ玉ヲ以テ造リタル十二樓
ト云曠野山川ニ見テハ三千世界ハ銀色ナリ
ト云其比興カキリアルベカラズ梅ト共ニ詠
ジ月ト共ニ吟テス雪ノ情景ハ大槩如此作
スニ餘ハ冬ノ大意ノ下ニテ合セ見ル可
大意

梁園落梅化

梁王ノ園ニ花木多シ
故ニ雪ヲ花ニ喻ヘテ

澤園

梨花

此モ梨花ヲ
雪ニ喻ルリ

四山如玉

四ノ方ノ山雪
ノ色如玉ナリ

拂簷點砌雪カ簷ヲ風カ送 縞帶カウ

銀盃車カ雪ノエラトシバ跡ガ白キ帶

如積玉堆銀雪ノ積リ 捲簾光光リ坐ラ動スリ

動光リ坐ラ動スリ 入戶侵寒雪光

入光リ坐ラ動スリ 庭無一點塵庭ニ雪

肌光リ坐ラ動スリ 酒松聲竹雪ノ積リ 三千銀界

雪光光リ坐ラ動スリ 不夜城不夜城ノ地常

界光リ坐ラ動スリ 頃刻花雪ニ花ノ如ク

ノ明光リ坐ラ動スリ 頃刻花雪ニ花ノ如ク

間光リ坐ラ動スリ 松無影竹有聲

頃刻光リ坐ラ動スリ 折雪ノ積リ 玉龍雪ノ色

六折雪ノ積リ 寒老樹ノ枝ニ積ル 玉樹新樹木雪ヲ

寒老樹ノ枝ニ積ル 玉樹新樹木雪ヲ

雪ノ高高キ處ニ積リタルハ 玲瓏銀闕積雪

玉ノサ高キ處ニ積リタルハ 玲瓏銀闕積雪

熟語

燭斜初近見杜少陵

斜ノ字近見ノ字照應ス夕意ハ雪ノ降

ハ見子トモ月ヲ吹テ燭ヲ斜ニシハ雪

カ近クナリテ見ユルトナリ

舟重音無間 月上

重ノ字無間ノ字照應ス夕意ハ蓬ヲ

打ツ声アリ雪ニハ声ナゲレハ舟ノ重クナリ

テモ声ハキカヌトナリ

庭虚鳥雀噪空飢

空飢ヲウヒヒニサワクトナリ

江虹明遠飲

杜少陵

虹ノ字飲字照應入句意ハ虹カ江へ
落ニ遠クミユルカ明ナリ江水ヲ飲カト
ミユルコト

峽雨落餘飛

同上

雨ノ字飛ノ字照應ス夕意ハ虹カミテ
アレバ雨ガハレベキト思フゾ其ミハレテ峽中
ニハ必バカリ飛雨カ残りタルトナリ此ニ夕
一上意ニツラ子ミルミ江ノ字ヨリ飲ト云虹ノ
字ヨリ明ト云虹明ノ二字ヨリ餘飛ト
用ヒタリ

故事

瓊絲

東坡詩枯松怪石乱瓊
絲トアリ瓊絲ハ雪ノツリ

招隱憶友

王子猷雪夜吟招隱詩雪夜戴
安道ヲ訪タルコト

滿空鸞鶴

張安國詞二千林瓊玖滿空鸞
鶴トアリ雪ノコト

駕鳳

古詩誰駕丹山
白鳳凰雪ノコト
氣蒸如炊 酉陽雜俎

蜀ノ道士アリ俗ニ灰袋ト呼フ雪中ニ布ヲ
着テ山ニ入ス人住テ道士ニシテカト見レハ
蒸如炊汗ヲ流 投炭爲銀 異人録取光
ニ寐多リトナリ

雪ヲカタメテ銀鏡トナレ出ル
火ノ中ニ投スレバ即チ爲銀アリ 前水作花
唐陸暢詩ニ仙人寧底
巧 前水作花飛

上口詩

力惟深

前水飛花着地乾 世間顏色比應難謝

家兒女空才思 只作因風柳絮看

三ノ夕雪ヲ看ルハ正ク水ヲ前ニ花トナシ
乱飛スルト見ユルノサレバ水ナレバ地ニツイテ其ミ、
カワキアトモナキノ世間ノイサギヨキ顔色モ
此雪ニハ比シカシキノ三四ノ昔シ謝守ノ家
ノ兒女アツミリテ雪ヲ擬物名トアリ其
才思人ニムクシタレトモ此雪ノ地ニツイテ乾ク
ニハ比スベキヤウキナントハ柳絮ノ風ニ舞フ如ク
ナリト云ハカリナレベキトナリ

夜雪

東坡

石泉凍合竹無風 夜色沈沈萬境空 試
向靜中閑側耳 隔窓撩亂撲飛蟲

三ノ夕石間ノ泉モ凍ニトケラレテ聲ナク竹ハ雪ニ
ヲサレテ聲ナシセハハ夕色モ沈クトシツカニカ境モ
空ニキリ三四ノ夕試ニ聲カアルベキト静中ニ耳
ヲ側テキケバ窓ヲ隔タテ擦乱トミタレテ飛
蟲ノ紙窓ヲ撲ヤウニ雪ガキコエルハカリソ

雪

尤延之

睡覺不知雪但驚窓戶明飛花厚一
尺和月照三更艸木淺深白丘塔高下
平飢民莫恣然第一念邊兵

三ノ夕三ハ睡覺ニモ雪ノフリタルヲ不知口窓ガノ
明ナルニ敬篤キテ雪フリタルトモソ三四ノ夕窓外
見レハハヤ飛花モツモリニ厚キ一尺ノリソ月
ノ光リトモ三更ノ時分ニ照シテ明カク五六ノ
夕草モ木モ淺深トナクシラクト見入丘塔モ高下
ナク一平ニ白キリ七八ノ夕雪深クハ飢民ノイトナ
ミモ自由ナラ子ハ恣然シテナケキウラモアハシ
サレトモソシテ嗟ニイトナニナシ第一ハ夷狄ノソナヘ
ニ邊塞ニ征テ成リ居ル民ノ難儀イカハカリ
アハラント思ソトナリ

○春晴秋晴摠論

晴ノ詩ニハ春晴アリ秋晴アリ春晴ノ詩リ暖
風麗日ニ柳暗花明カナルノ景ヲ連子鶯歌蝶
舞ニ意ヲ寄スルダクハ秋晴ハ邊雁ヲ聞蛩
吟ニ愁ヒテ催シ白雲黃葉ニ情ヲウツシ秋水
長天ニ懷ヒテ述ルノ作意アリ夜ハ清月素
月ニ殘暑ヲ忘ルノ意アルハ此又四時ノ摠論
大意ノ下ニ見合セテ作為ス

雲幕捲天晴テ雲ノ幕山屏開山屏開

如クナリ如クナリ數峯出雲晴テ數半江明半江明

披絮帽天晴ルハ白キ雲山誇翠山ノ

一天晴色雲スキト晴林收青靄氣晴ヒテ林ノ

竹搖殘滴雨晴テ竹ニノコリ松送晚涼松ノ

青眼開柳ノ紅

遠山如畫天晴ヒテ遠山

顏笑花ノ遠山如畫屏風畫如ナリ

蟬亂鳴雨晴ハ蟬 芳艸色雨過ハ草
江虹明雨晴ハ虹 野花乾雨ノ晴
開愁眉喜フハ意 車馬飛塵道路
晚放晴久シキ雨晴ニ夕方
熟語

嶺上晴雲披絮帽 東坡

晴ノ字絮帽ノ字照應ス天氣晴クハ嶺
上ノ晴雲ハ白クシテワタボウシヲ披キ名如
クナリ絮帽ハ晴ノ字ヨリ用タリ
樹頭初日掛 銅鉦日上
初ノ字銅鉦ノ字照應ス雨晴クハ樹頭ノ初
日モノツラシクテ銅鉦ヲカケタル如ク見ツ
銅鉦ハ初日ヨリ用ヒタリ 古詩
有情芍藥含春淚 古詩
情ノ字含ノ字淚ノ字照應ス芍藥ニ露ガ
アリハ春淚ヲ含ミタルト見ユルリ然ルニハ有情云
無力葦蕪微臥曉枝 日一

カノ字臥ノ字枝ノ字照應ス葦蕪多クヤ
カナルモノナレハ曉枝ノ臥タルヲ見レハ無力ヤウニ思フ
藍綠ノ字水ノ字照應ス 藍ノ如クニ緑ニ人
日ノ比水ガ春ヲ得テ出タリ

黛青不改舊時山 日一

黛青ノ字山ノ字照應ス黛ノ如ク青ク
舊時ノ山カ昔ニカワラス青々ト見ユルリ
故事 農欣魏繆襲賦農 雲斂庾信
花飛未遠陰雲 浮雲薄杜詩返照斜初
斂尚低トアリ 散浮雲薄未飯
收霓潘岳苦雨賦收絳霓於漢陰月令虹霓
鞭石山川記宜都郡三石大石アリ一ハ陽トス
新晴杜詩不勞鐘鼓
報新晴トアリ

○古詩
晴 潘紫巖

西風一夜與晴期紅日當天曉陸離雲
似敗碁無着處山如宿酒頓醒時

二三夕言ハ連日雨フリタレ西風カ晴上期約
シタルヤフニ吹テ一夜ノ中ニ雨ヲ晴シタソサテ曉
天ヨリ紅日カ出テ陸離トノボリ明ナルソ
三四夕空ヲ見シハ殘雲カ處々夕ヘクニナリ
テ碁盤ニ打チテシタル黑白ノ石ノキレクニ
ナリテキヲ著ベキ處モナク山ハ昨日ニテ朦
朧ト見ヘタルカサツハリトシテ宿酒ノ二日醉
ノ頓ニ醒メタルヤウニ見ユルソ

晚晴吳郎見過北舍 杜少陵

圃畦新雨潤愧子廢鉏來竹杖交頭
拄柴扉隔徑開欲棲群鳥乱未去小
童催明日重陽酒相迎自醞醕

一三夕雨晴タレ畦圃モ新雨ニウルホフタリ蔬
菜ヲ鉏テヨキ時分ナルニ我ヲ訪ニトテ鉏ヲ
ステテ吳郎カ來ラシハ我身ニトリテ愧ベキ意
ソ三四夕然ホドニ其ニ門ニ迎ニト竹杖ノ頭ヲ

一三夕雨晴タレ畦圃モ新雨ニウルホフタリ蔬
菜ヲ鉏テヨキ時分ナルニ我ヲ訪ニトテ鉏ヲ
ステテ吳郎カ來ラシハ我身ニトリテ愧ベキ意
ソ三四夕然ホドニ其ニ門ニ迎ニト竹杖ノ頭ヲ

○學五七言絕句說

凡ソ五七言共ニ律詩ハ易ク絶句ハカクシ
七言絶句ヨリ五言絶句ナラ難シ此レ古人
ノ遺教ナリ然ルニハ文字ノ少キユヘニ見ルケ
イテ寫スルモ又述ニトスル情モ共ニ言テ足ラズシ
テ思フ様ニ謂ヒドサルユヘ少ニテモ文字ノ不足
程詩ハ作り得ルダシハ夕ノ律ハ文字數多ク
ユヘ心モ迫ラズ作りヤスシ絶句ハ文字少クニテモ
惡ケルハ全篇ノ意味カ損ズルソ前ハ律詩碁
ノ如ク絶句ハ將碁ノ如シト云ヘリ碁ハ一子二子
ノ打チ損ジモ若シカラズ死シタル石ト思ヘト後ハ

却ノ種ニモナルヲ將基ハ駟數少キニハ駒一枚ノ
損ヲ為セバ指直サレヌカ如シ是ニテ了簡工夫
スル本是レ駒數甚石ノ數ヨリ少クハナリ
詩ハ絶ヤカニ意深キニ非レハ妙ナラズトヨリ
五言。絶ノ全篇ヨキハ稀ナリ此レ文字少キ
トイヘトモソレクノ諸体ハ同シカルヘシ
○第一ニハ先ツ一意ノ格ト謂テ思ヒ起テ言ハ
思フコトヲ一ノ句ヨリ言テ四ノ句ヨリ言テ述ル
リレモ句ヲ作ル妙ニ情モ妙ナル体ヲ佳ト
謂ツマシ是レ流水直下トモ又聯珠ノ格云
言ハ一ノ句ヨリ四ノ句ヨリ水ノ流ルヤウニ
下ルヤウニ又玉ヲ聯子タルヤウニ謂テ下スリ
伊州歌 無名氏

打起黃鸝兒莫教枝上啼啼時驚妾夢
不得到遼西
此ノ詩ノ体ナリ是ハ至テ切者ノ所為ナリ後
生ノ作ニハ叶ヒガタシサレトモ學ブトハ斯ク格
式トスベシト意ハ明ナリ七言ニモ此体ヲ好
同レ宮詞ノ題ニテ王建カ作ニ鸞鴛瓦上聲
然聲畫寢宮娥夢裏驚元是君王金彈子
海棠窠下打流鶯ト作り此レ同格ナリ此
体願テモ作ルヘシ又古風ニハ五言絶ヲ短
篇ト云フ是ハ韻字ヲ押テ平仄ヲ分クズ作
サレトモ格ハ相違スルヲナシ李群玉カ古詩ト云題

ニテ作ル詩ニ合相思淚臨江洒素秋碧波
如會意却與向西流ト作り此レ同格ニメ意
味深遠ナリ又短篇ニ此格多シ僧ノ無本ノ訪
道者不遇詩ニ松下問童子言師採藥去
只在此山中雲深不知處ト皆直ニ流レ下テ
滯ラズ意思モ十分ニ云ヒオセタリ許ノ如キ
詩五言絶ノ祖タルヘシ熟味スル心ハ何レモ
明ラカナリ

○第二ニハ四異ノ格ト一ノ句ツノ言ヒ切ツテ連續
セス何トナク全篇都合スルヤリニ作ル一意ノ格
ト表裏ナリ大槪ハ全對ノ格ト意ハ同シキリ
一ノ句ツノ意ハナルヤウニ作レハ何レニテモ四異
ナリ

絶句 杜子美
江動月移石溪虛雲倚花鳥棲知古道帆
過宿誰家 是モ一ノ句ツノ意別ナリ江動
一ノ月影ノ石ニ移リ谷虛ニノ雲ノ多キヲ
花ヲ倚ルト見ル意ハ巧ナリ鳥棲テ古道ヲ
知リト云ヒ帆過テ何カノ誰カ家ニカ宿セ
ント云ヒ開合アリ見ル景ヲ描スニモ結處
アルベキナリ

又 同前
遲日江山麗春風花柳香泥融飛燕子沙暖
睡鴛鴦
此詩ニ全對ナリ春時溫和

初ニ人欲ノ雲モナクノ私欲ノ霧モタヌ時
清意味ヲ知得スルノ中和ノ全体ハ此凡致
ニ逢子バ感發スルヲナシトノ作ナリ然レ時ハ
深遠ニ寫シ得タル詩ゾ文字少クシテ此ノ
トノ形容ハナリ難シサレバ晋ノ吳隱之カ
廣州ノ太守タリシ時州ノ領泉ヲ見テ
題シテ云リ古人云此水一畝懷千金
試使夷齊飲終當不易心ト故人ノ詩ハ
カリ言ヒ棄ル詞ニ人ノ敬言戒トナリ後
世ニ一傳來ス君子ノ一言ヲ謹ム信ヒ哉
○第五ハ景ニ觸レ情ニ隨テ心アルキ体ヲ偶
興ス又羨刺モ言外ニ顯ヒテ人ヲメ一タヒ
讀バ懣愴メ感テ催スハ又空言ニ非ル也
殊ニ短篇ニ此ゴトキ詩ハ功アリト謂ツマシ

登樂遊原

李商隱

向晚意不適 驅車登古原 夕陽無限好 只
是近黃昏 此ノ如キ詩ハ讀ニ見ルト
心ヲ含ムト知ルシ天下ノ勢ヲ云ナルト唐
ノ世モハヤ晚景ニ及ニタルヲ 諷スルナラニ句
ノ面ハ夕、夕陽ノ景小限リナク好ク凡天カ黃
昏ニ近キホトニ吟賞スル間モナク早ク暮ナ
ント云趣向ナレバ 諷刺ヲ含蓄シテ深遠ナリ
句意迫ラズ佳ト謂ツマシ又樂天カ高山ノ
路ニ感アル詩ニ 万里路長在 六年今始

歸所經多舊館 大半主人非ナリト作リシ
モ哀シク体尤モ人ノ感ヲ促サシ然レトモ言ハ
アラハレニ含蓄セヌ一見シテ意味盡
高隱トハ各別ナリ詩ノ優劣此ニハハナシ
以前作ハ晚ニ向トシテ立息ニ適セヌヲ有ツテ
心ニ苦カ生シタルホトニサラハ古原ノ邊へ出ニ
心ヲ慰セシト思ヒテ車ヲ驅セテ家ヲ離
レタレハ古原へ夕陽ノ移ル体一段興アリテ
在リシ不適ノ情モ慰スベキ景ヲ色ナシトモ
是モ忽チ日夕色山ノ端へ隱レナバ何ノ興モ
ナクナラント思ハレバ此モ心ニ適セザルトナリ
小詩ノ内ニ含蓄ニ情ヲ述テ種々ノ意味
ヲ含ミタリ此体ヲ學フマシ末夕及ザル
人ハ樂天ヲ先ツ學ブマシ

○右五等ノ格ヲ述レトモ摠シテ絶句ノ格式
ハ五七言トモニ詩冊ノ類ニ詳明ニス贅スルニ
及ハスタゞ詩ノ作例ヲ云ニトシテ此ノコトシ
五言絶モ昔ハ五言短篇ト云シガ唐ヨリ
以來韻字ヲ押スバカリテ平ハフハタス
作レルヲ古風短篇ト云韻字モ押シ平仄モ
分テルヲ絶句ト云フ是ハ古今ノ異ナリ
七言モ相同シ五言絶ニ巧ミナル人ハ異朝ニ
ハ稀少ナレバ本朝ニテハ強サレトシリマ
ナレ大槩ハ右ノ例ヲ考ヘテ學フマシ絶句ニ

達る程ノ作者ハ律詩ノ宜カレシ短篇ニ達
セバ長篇ハ益巧ニテラント知リヌシ律ヤ長篇
ニ巧ミナル分ニテハ絶句ニハ達シカタト知リヌ
メシ此レ絶句ノ作者ナキ所以ニテハ五七言絶句
ノ内五言絶句ハ七言絶句ヨリ難ケレト初學
ト云ハ七言絶句ヨリ學フベシ能煉入ニ自
得セサレハ一切ノ詩作ルトイヘ任住境ハ入ガ
クシ故ニ唐朝一代先ツ七言絶句重ニス此体
サハ功カ入レハ五言絶句能入況ヤハク長篇ニヤ
ハク長篇ハ大体ニハ作ラレ物ソ七言絶句
ハ大體ニモ作ル難シト知ヌレハクカラハ
文字クバリヨシ又一夕ニテ心カツラヌエハ
作リヨシ長篇ハ篇章ノ永キユヘ全首ニ
言コ述ル一易シ故ニ起承轉合モ五七言
絶句ノ法トナレリ大法ハ七言モ此五言ノ
格ニテ作ルメシ故ニ七言ニ於テ別ニ記セス
○大体七言絶句ヲ學ブノ法五言ニ異ナル
ナレ然レトモ大法ニ小異ハコレアルメ先ツ絶句ニ
ハ殊ニ体格多ク其ノ凡定ヲカクシ起承轉合
ノ法ヲ以テテ要トスト見ヘタリ此法ヲ然
ト了悟セシ人稀ナレ先ツ起承轉合ト云
凡ソ懷古羈旅遊宴詠物景情ノ作ニモ
ヨラズ發シ初ルヲ起ト云起々承々第
ニクヲ作ルヲ承ト云第三クニ轉換スルヲ

轉ト云第四クニテ一首ノ心ヲ結合スルヲ合
ト云杜常カ華清宮ノ詩ニテ例ヲ推セハ
華清宮ニテ詩ヲ作ラント趣ヲ求メクヲ
設ケテ一 行盡江南數十程 ト云ハ是
起ナリ次ニ其ク承ニ曉風殘月入華
清ト作心ハ江南ノ驛路ヲ行盡ヒテ曉風
殘月ノアル時節漸ク華清宮ヘ入りト
起々ヨリ承ニ云一説ニ華清ハ皇居
跡ナルホドニ繁榮多榮ノ地ニ早景物モ豊
麗ナルベキト思ヒシニカク世風涼クニトハ覺
悟セス事ヲ問フヘキ人モナク只曉ノ風ヲ
殘月ノ影ノ入ル計リト感ツ生シタルヲ
此説ニテモ起々承々兼ル心ハ齊シ此クテ
華清ヘ著見シタル景ハ言ヒツメタリ此ニテ
一轉スルヲ 長元閣上西風急ト作ル心
ハ一覽ノ次ニ長元閣ヲ見ント思ヒテ尋
子登リタルバ存外ニ西風カ強ク吹タゾ
何レニ此ノ西風ハ名ニ吹ク由來ガ有ベト
了竹間スルヲ是レ各別ノ早景多ク賦メ
一轉ヲ設クルヲ 都入長揚成雨聲ト
三ノク由來ヲ述ルリ此ノ西風ノ急ナルハ
雨カ瀟瀟リ來ニトノ前表ナルヲ時望來
ハ長揚宮ノ邊ハ黑雲籠リテ雨ノ降ル
体見ヘタリ此ノ故ニ閣上ニハ此ノコトク西風カ

吹々ヨト識察せしナリ 暴雨ノ降來先
ハ必ス飄風カ吹物ナリ 四ノ夕ニテ三ノ
夕ヲ占合セテ全首ヲ結フソ是レハ
合ト云右ノ一首ノ格ニテ千萬首ノ例悉
ク知リヌメシ

○私ニ安ホスルニ此ノ起承轉合ノ格絶々ニ
限リタルヤウニ謂フハ非ラシ絶々ハ勿論
前對ニモ此ノ格アリ 陸龜蒙カ江南道
中ノ作ニ

紅梨葉戰初莫怪煙中重 回頭酒旗青
紵一行書 又高瞻カ旅夕ノ作ニ 月散古
彼驚宿雁月臨荒戌起暮鴉不堪吟斷
無人見時復寒燈落一花ト作りタルニモ皆

起承モアリ轉合モアリ 熟吟スルハ知リヌ
又後對ニモ同前ナリ 但後對ノ手段ハ一
入ムツカシハ夕ノ律詩ノ前ノ四句ヲ截スル
如クニ對ニテハ詮ナレ後對ノ内ニ轉合ノ氣

味ヲ作ルヲ真ノ後對ノ格トス杜甫カ秋
興八首ノ内ニ 請看石上藤蘿月已曠
洲前蘆荻花 此ノ夕是レ不對ノヤウニテ

能ク對セリコレ後對ノ準則ナリ 此体
ヲ王荊公カ感子ニテ見レドモ能セストテ徐
師川カ譏リテ殘セシナリ 故ニ周弼モ劉
長卿カ 落花生芳艸無尋處 万壑千峯獨

閉門ト 又韓偓カ 曉月斬飛千樹

裏秋河隔在數峯西 等ノ夕ヲ選舉
セリ 此皆後對轉合ノ格ニ能ク叶ハル詩
ナリ 此心得ニテ悟入スレ五七言絶句ヨリ

古月長篇排律ハ夕等ニ至ルニ全首
ニ起承ト轉合ヲ遁レ得入最モ詩篇ト
ニ格ハ種々ニ變易スレバ品題ニ成テ其
月体ヲ學子フヘシ今論スル處ハ詩ノ大段

總括ヲ云ナルニ先ツ大法ヲ辨ヘカシ變
ニ應スルニモ成得ルニ猶至テ此格ヲ論
バ元來此レ天地造化ノ道理ナリ 如何ト云

ハ起テリ夏ハ承ナリ秋ハ轉ナリ冬ハ
合ナリ 先ツ春ノ溫暖ノ一氣ニ非レバ
万物育生ニテ起發スルヲ得ズ夏ノ

暑熱ノ化ニ非レバ万物茂盛スルヲ得
春發生スルヲ承テ成長スルハ夏ノ
然レトモ秋ニ至ツテ春夏ニ生長セシ
ト物コトクク收歛シテ或ハ實ナリ或ハ衰落

シテ此ノ物一轉ナリ冬ニ至レバ万物一齊
ニ合シテ春夏秋三時ノ氣皆同ク藏ルニ
冬ノ合藏スルニ力又來年發生ノ根トナ
ルナリ 是レ造化一周ノ起承轉合ナリ 此
以テ推シテ知ハ一歲ノ造化ニ此法アリ

一月ノ行ニモ又コレアリ一月ノ行此ノ如ク
ナレハ一日ニモ又コレアリ一日ノ行此ノ如クナレハ
一時ノ行此ノ同シ何モ起承轉合ヲ通ヒス天
道ノ流行此ノコトクナレハ人事モ亦然リ人
事ニ就テ論スレハ縦令ハ家ニ一客ノ來
訪セシ時主人出テ相逢ハ是起ナリ其ノ
後天ノ陰晴ヤ時節ノ寒暄ヲ談シ
或ハ疎濶ノ情ヲ述ベ或ハ共ニ健康ナルヲ賀
スルハ承ナリ斬ククアツテ茶ヲ喫シ菓ヲ食
シ隨事ノ諸用ヲ談シ出ス轉ナリ用
事モ己ニ畢テ賓ハ退去シ主人ハ休息ス
ルハ合ナリト知リヌヤ一事ニ此ノゴトクナレ
ハ事ニ至ルトイヘトモ又此ノゴトシ人事ニ
就テ此法アレハ万物ニ至ルニ同ジ理ナレ
凡ソ禽獸草木等ニ至ルニ同ジ然ラズト云
フナレハ素ヲヨリ天地ノ道理ナレバナリ詩ニ
此ノ法有ト云モ詩モ人生ノ中ノ一藝ニシテ
天地ノ際ニ流行スル物ナレハ此理此法自
然ト備レリ然レ所以テ詩ノ起承轉
合アリト論ズル未練ノ説ナレバ殊ニ七言
絶ニ就テ謂フ此ノ法ハ字ニト欲セヌ人モ
第一詩ニ巧アレハ句ノ意ノ首尾都合シテ
自然ト此法ニ成ラズト云フナレハ元來
道理此ノコトクナレバナリ然レハ初學未熟

ノ間ハ起テ法ヲ失ヒ起ノ場ハ承ノ句
法ヲ交ヘ轉ノ處ヘ合ノ句法ヲ入ル故ニ前
後ノ句シテラス一篇連續セヌ一ウ碎クテ
好詩ナラス古人夕、初學ノ者ノ爲ニ此
法ヲ立テテ教トセルノミナラシ
凡ソ七言絶句ハ古ハ梁ノ元帝ノ烏棲
曲江惣ク然時行ノ詩ヨリ始ルトイヘトモ未
夕古風ノ体ヲ離レス七言四句ト云ニテニ
唐ノ世ニ至リテ聲律モ調リ諸体モ
各ハ分レタリ故ニ凡体格法悉ク唐ヲ以
テ鑑トセリ唐ノ詩サヘ末ニ至リテ凡
体次第ニ衰微シテ格法モ鄙クナレハ
盛唐ヨリ中唐ニテテ賦子ニテ晚唐ヲ取
ル意味薄クシテ蛭蛤ノ人良フニ台人モ喻ヘ
タリ宋朝ニ至リテ又詩體ニ達セル人多
ク出生ス名士家モ繁多ニ然レハ詩ノ体
一變シテ改リヌソレヨリ元朝ニ至リテモ
作者ナキニモ有ラ子氏詩ヲ以テ專門ノ
學ト成ガレユヘ盛ニハアラス明朝ニ又作者
多クオチテ乏シカラズ悲壯慷慨ノ作多
ク見ヘタリ然レトモ氣象ハ漸ク衰ヤス
尤モ佳作尙多ク少カラス間アリトイハレ大
体ノ風俗ヲ論ス晚唐ニモ盛唐ニ減セサル
詩アリ又盛唐ノ中ニモ晚唐ノ詩ニ劣ル

モコレアリ元ノ世明ノ世トモ此ノコトシ
然レ凡詩ノ凡体格律ノ天下ト共ニ興廢
因革セル大略ヲ云ナラシ

凡五七言絶句ヲ法ハ先ツ三四ノ句ヨリ
求メテ一ニノ句ハ後ニ作ルハ一ニノ句ハ皮
膚ノ如シ三四ノ句ハ肉骨ノ如シ又身ニ喻
フルニ此ノ如シ然レ凡一意ノ格マ順流直下
ノ格ナドク作ル時ハ各別ノ事ナリ大体ノ
格ハ右ノコトシ一ニノ句ヨリ作ラントレテ三
四ノ句ニ至リテ一必ス空塞シテ詩トナラズ
韻字ヲ押ニテ成カケル故ニ異朝ノ教
ヘモ律詩ハ中ノ二聯ヨリ作り絶句ハ
三四ヨリ作レト云是レ第一ノ義ナリ抱
シテ絶句ハ律詩ト異ニメ文中ノ下レヤウ
アリ先ツ開字剩字ヲ嫌フ開字トハ有
テモ無クニモムダ字ヲ云開ハイクツラト
訓セリ剩字トハ何ノ用ナキト云余ハ
云フ剩ハアハルト云訓ナリ律詩ハ二聯ヲ
結ヒ合セテ情ヲ述ベ思ハク賦スルハ開字モ
剩字モサノ目タヌナリ絶句ハ一ノ句ニ断
リ盡スユ一ノ字ノ用ナキモ一ノ字ノ餘ルモ顯然
著シ本朝ノ詩ニハ多ク此ノ疵ヲ侵セリ絶句
ハ全篇ヨリ一ノ字ニ偏ク眼ヲ注キ思フ著
沈吟セサレハ動モスレハ此ノ病ヲ免レヌ故ニ作

リ得カクシ糺字ヲ御音字ヲ干要トス糺字ト
ト女子ノ假糺ヲ施スガトク文字ノ潤光ニテ
一ノ句ヲ糺シ立ル如クニ綴ルハ一ノ字ノ僅キニ由テ
一ノ句天地懸隔ノ違アリ御音字ト云ハ一ノ字ニ
兩意ヲコムルヲ云フ杜カクニ 返照入
江翻石壁歸雲擁樹失山村ト云句ノ翻
ト失トノ字ヲ比上ノ返照入江ノ字ト歸
雲擁樹トノ四字ハ御音セタソ尤モ律詩ニ
モ用レトモ第一ハ絶句ニ專ラ用ルソ此ノ如
ク糺字御音字ヲ用テ意ヲ著サレバ或ハ
一ノ句カ浮キタリ或ハ一ノ句カ率直ニ過テ
曲節少ナケレハナリ間ニ髪ヲ容サルヤウニ
クソ作り成スベキナリ 僅ニ五ノ字ヤ七ノ字
ノ間ニ開字ヤ剩字ヲ置ニハ無念ノ一
且ツ又句脚ニ牽レニ思情ヲ盡サズ平
仄ニ拘テ句法正カラズ此ノゴトキ疵多
シテ全カラズ韻字ノ押ニヤウモ律詩ヤ長
篇ト替リテ一字ノ謬誤ニテ明白ナリ
故ニ全篇佳ナ絶句ハ五七言トモニ稀ナト
諸書ニモ評ゼリ格ハイツレノ格ニテモ凡ハ
何レノ風ヲ作ラントモ全篇ヨリ連續
シテ主立意ヨリ貫キ又キ詞ニ疵ナクシテ語
路ノ下リニ難ナク韻脚穩安ニテ音律乱
レヌ格法高ク含蓄シテ意顯レヌヲ佳作ト

云フ絶句ハ五七言トモニ杜子美ヨリ李白
ヲ學ビハクノ律詩ハ五七言共ニ李白ヨリ
ハ子美ヲ學ブメシト古人ノ遺教ナリ
其外杜牧之吳融王建孟浩然崔魯ガ
類ニ絶句ニエテ選ニテ學フメシ絶句ノ
全篇ノ格ハ詩冊ニ記セル通リナレ謂及
バ入故ニ各セリク、人全篇ノ關環ト語
路ノ下シヤウニ工夫ハアルベシ

○學五七言八律說

五七言ノ律詩ハ唐ニ始ト雖凡孟其源
梁陳ノ代ヨリ以降儂ク對偶ノ漸ナリ
古昔ヲ尋レハ詩經ノ邶風ノ篇ニ觀閱既
多ク受侮不少カラフクニ屬對ニ巧ナリ甚
典ニ聲律依リ永律和聲ノ語ニ詳ニ平
仄ヲ分テリ爾來梁陳ノ諸家又多
對偶ヲ好ム古詩ノ名アリ實ハ律體
似クハシ梁ホノ元帝ノ五言ハク己ニ律體
ニ近シ相續ク庾肩吾徐陵庾信ガ
輩出テ對律頗ニ精切ナリ唐ニ至テ神
龍ヨリ後成盛ニテ沈佺期宋之問カ流
ニ研練ノ聲調相叶ヲ号メ律詩ト云
ソレヨリ連綿シテ李杜カ輩ヲ及テ
其衰ヲ極ムト云此體一二句ヲ破題ト云發
句トモ云フ又對偶ナル起聯初聯ト云三四ノ

句ヲ領聯ト云フ五六ノ句ヲ頸聯ト云フ七八ノ
句ヲ結句ト云フ落句トモ云フ對偶ナル尾聯末
聯ト云フ是レ異朝ノ名目ナリ先ツ律詩
ヲ作ラニハ中ノ二聯ヨリ煉リ出シテ後
十結句ヲ案シ起句ヲ吟シテ一首ヲ
終フ是レ大法ナリ然レ凡偶起句ヨリ起向
ノ發スルモアリ又結句ヨリ作意ノ初モ
有レ凡是ハ稀ナルヘシ生ツ大休ヲ辨ヘシ五
言ハ上ニ二ノ字添テ七言ニ成サルヤウニ作ル
李嘉祐カ 水由飛白鷺夏木轉黃鸝
ト云五言ノクニ五維カ漢ク陰クト上ニ二ノ字付テ
形容各別ニナレ類ナリ又七言ハ上ノ二ノ字ヲ
減シテ五言ニナラヌヤウニ作ルヤ王方平カ
詩ニ雙瓦雀連書案點々楊花入硯池
獨坐小窓讀周易不知春去幾多時此
詩意ハ佳ナリト雖トモ上ノ二ノ字ヲ四句共ニ
去テ五言ト成シテ吟詠ニ調シテモ心ハ足レル
類ヲ云フ摠シテハ八句ハ中ノ對句ハ上ニ為ヤス
ク結句ハ巧ニ難シ結句ヨリ又起句ハ尤モ
作り難シ七言ノ律ハ五言律ヨリ難シ何ト
ナレハ七言ハ字ヲ下スル尤飽滿ニ難ク疎弱
ナリ易シ五言ハ又字ヲ下スル細嫩ナリ故ニ
句ヲ作ルニ相密ナリ易シ絶句ハ七言ヨリ
五言絶ハ難トトシラフヘシ

先ッ律詩ヲ作ラシハ中聯ヲ能煉テ起末ヲ合ス
サハ對ニ成リ格法多シ是レ散々ト相違リ
對ノ格法アリ先ッ大格ハ正對假對ト又字
對ト意對トノ辨ハ第一アリ其外ハ二句一
意ノ對アリ二句同意ノ對アリ此外對ノ
格ハ各別シレシ此ノ法ニ過ルナシ正對ト假
對如何ト云ニ正對ハ常ノ如ク天地ト云ニ風雲
ト對シ龍虎ト云ニ馬牛ト對ス凡ソ乾坤ノ
字ハ乾坤ノ字ニ對ス時假ノ字ハ時假ノ字ニ
對ス其他ノ字ハ形 光彩 數量 人身 服飾 等ニ對
ス二句又ハ八ツツニ對スルヲ云 假令ハ 野寺
山邊斜有徑漁家竹裏半開門又サ行泥隨
燕嘴サ伏蕊上蜂影頻等ノ常對ナリ假對ハ
意ハ各別ニ他ノ字ヲ借テ字對スルヲ云
退之ヲ詩ニ 眼穿長訝雙魚斷耳熱
何待數番頻 杜甫カクニ 本無丹竈術
那免白頭翁 是レ對ノ魚ニ對シ丹ヲ白ニ
對ス此レ始リ求メテ句ヲ作スルニ非ス偶
然トメ自ラ此ノ格ニ相值ナリ對ハスミト
讀ムユヘニ此ノ形ノ字ニ魚ト云字ニ對スルソ
此ノ如キ對後來甚ク多シ故ニ別ニ一格トシ
用ルナリ假對ニ三種ノ作リヤウ有ツテ
逐一ニ述カタル正對ニ合ズレテ對シタルハ
皆假對ナリト知リヨメテ次ニ字對ト意對

辨ハ先ッ字對ト云ハ意ハ二句ハ離スレバタ
文字ノ上ニ此ノ能ク文字ノ上ニ對偶セリ
ニフ 荆公カ 平昔離愁實帶眼 迄今歸
思滿琴心ト云カコトシ帶眼ノ字ヲ琴心ノ字ニ
對スルヲ巧トセザ 晉公ノ句ニ 綠楊垂
手舞 黃鳥緩聲歌 是モ垂手ニ緩聲
ヲ對スルヲ以テ音特トセリ樂府ニ 大
垂手小垂手前緩聲後緩聲ト云アリ
故ニ用ユ皆文字ヲ專トシテ作り立ナリ
意對ト云ハ意ヲ貫クヲ專トシテ文字ヲ拘
ハラズレテ一聯トスルヲ云崔顥カクニ
黃鶴一去不復返 白雲千載空悠悠
顧況カ 一家千里外 万古五更頭ト云類
一去ト云ニ千載モ文字對セズ一家ト云ニ
百舌モ字ハ對セザレトモ立意ハ能ク母貝ヲ
此ハ文字ノ對ニ拘ラヌ格リ此ノ類枚舉ス
ヘラフス然ルニ正對ト字對ト相違ニ假對
ト意對ト相通ズリ早音ハ正假ノ二体ニ過
ズタゞ其ノ意味文字ノ曲折ヲ論ジテ千
差万別ニ格ヲ立ルニテソトホヘヨリ經語
經語ニテ對シ史語ハ史語ニテ對シ楚語
ハ楚語ニテ對シ俗語ハ俗語ニテ對スル
リ宋朝ニ至リテ法度甚嚴ナリ唐朝ヨ
リ此ノ說傳ルト雖モ宋朝ホトニハナレ經語

フ經語ニ一ノ對スルハ 山如仁者靜風
似聖之清日暮于誰屋天寒陟彼岡是
皆經語ナリ仁者ハ靜ナリ論語ノ字
聖ノ清ハ孟子ノ字于誰屋陟彼岡ハ皆
詩經ノ字リ夜如何其斗初落歲暮
矣天無情ト云ハ皆詩經ノ語ナリ杜甫
夕ニ 自天題處濕當暑者着來清ト
アモ自天當暑者モ經語ナリ自天ハ易
ノ字當暑者ハ論語ノ字ナリ又吏語ハ
王荊公カクハ 一水護田將綠遠兩山
排闥送青來ト云護田ハ漢書ノ字排
闥ハ史記ノ字ナリ梵語ニハ又周顛宅作
阿蘭若事約身歸窣堵波是阿蘭
若窣堵波ハ皆梵語ナリ俗語ニハ坡老
カクハ二三盃軟飽後一枕黑甜餘ト黒
甜軟飽皆俗語ナリ俗ニ晝寤ト黒甜ト云
ククアニトヨム又酒ニ醉タル軟飽ト云ヤ
ワラカニアクトヨムソ此ノ如ク對スルハ好聯
トス此ニ違フヲ偏枯ノ對トニ大ニ嫌フ
ナリ是レモ字對ノ類ナリト知リヌハ此ハ
ニ又兩句一意ノ對アリニ夕併一ノ如
シ領聯ニ用ルル多シ喻ハ 自推秀瓶去沽
村酒却着衫來作主人世上豈無千里
馬人間難得九方臯ト云フ類ヤ又一封

書未返千樹葉皆飛重到西日遊處多
非舊主人共是悲秋客那知此路分
ノ体皆ニ夕ヲ待テ其意明ケシ是又一
格ナリ一聯同意ノ對ヲ嫌フソ古詩ニ
戲新荷動鳥散餘花落蟬噪林逾靜
鳥鳴山更幽ニ聯共ニ巧思ハレハ二句共ニ
立意カニナルユハ是ラ已ニ此ニ限ラス全篇
リ中聯ニ至リニモ文字ノ下シヤウ同じキ
忌初字ノ詩ニ必スニ對同意ニ全篇同
字面ノ病多シ謹々ニ揔メ律詩ハ對ニ專
ラトシテ作ルナレハ對ヲ細カニ吟味スル對
ノ大法ハ前ニ論スル通りソク偏枯ヲ對心
カ付テソ嚴維カ詩ニ 柳塘春水漫
花塢夕陽遲ト云ハ天然ノ自態和融
溫暖ノ景色色目ニ在ルカ如シ真ノ佳句ト
唐ノ代ニモ評セリ然ルサハ宋初ニ至リテ
劉勰父カ詩話ニ此一聯細カニ較ヘ見ハ
夕陽ノ遲キハ則チ夕花ニ繫リテキコエ凡
春水ノ漫シハ柳ニハ繫ラズ何ノ處ニモ有
ヘキ景ナレハ瑕ナシトハ言ハズト云フ其後又漁
隱叢話ニ苕溪カ評ニ貢父カ春水漫漫字
柳ヲ須ジト云ハ確論ナリ但シ夕陽遲シハ
字ハサレニ繫ルト云ハ是ニアラス初ヨリ
塢ニ繫ラサレハ繫ラズト云フ按スル此ノ

コトク云へハ畢竟ハ佳クトイツツメシ對ノ偏枯
ニ非ス貢父カ評モ毛ヲ吹テ疵ヲ求ルカ如
シ又西清詩話ニ載ルニ皮光業カ一聯アリ
自ラ佳作ト思フ同僚ニ示ス衆ニ爭
嘖賞ス 行人折柳和輕絮飛燕
柳泥帶落花ト云クナリ裴光約カ是ヲ見
テ曰ク偏枯シテエトセム蓋シ柳ハ絮アルニ
泥或ハ花ナカラント云ヘリ 此詩家ノ膏
盲ノ疾ニアタレリト云細カナル穿鑿ナリ能
ク了悟ス

○學排律說 五言七言

夫レ五言排律ハ其源ハ顏延之謝瞻カ
輩ヨリ更起ル蓋シ古詩ノ變ナリ梁
陳ノ世ヨリ儂々尤多シ上唐ヨリ此体ヲ專
トセリ排律ノ名愛ニ始ル貞觀ノ初ノ作
者猶ヲ備ラス永徽ヨリ以下漸ク盛ニ
開元ノ後杜子美獨歩ニテ千景万狀ノ
態ヲ盡シテ五韻ヨリ五十韻ニイタリ
或ハ百韻千言ニ及フ先ツハ五十韻ヲ以テ
限リトス七言モ同シ又七言排律ハ唐人ニ
至リテモ多カラス太白カ山僧ニ別シ詩
高適カ田家ニ宿セシ詩子美カ清明ノ
詩ナドヲ證セントスレバ聯對ハイツレモ精密
ナリトクハ元体格律調イマタ純ナラズ終ニ

古風ノ餘習ヲ究レシ中唐ヨリ其法委ク
ナリテ漸ク巧ニ成ル中唐以後宋朝ヲ法ト
スベシ成盛上唐ニハ多分カ五言ナリ凡ソ排律
長篇ヲ作ルニ鋪叙ト開闔トヲ專ニスレ
サレハ山谷カ説ニ長篇ノゴトキハ曲折ニ三
夕ト意思ヲ致メ乃チ十章ヲ成ト云ヘリ然レ
バ三夕ニハ限ルカラス五十韻百韻或ハ百五
十韻ナト至ル長篇ハ五段ニモ七段ニモ篇
段ヲ截サレハ一章ヲチチ鋪叙布直ヲ
ヨク作テ而メ開闔ヲ分明ニ述ビ段幾
段ニテモ若シカラスト立章ト同意アリ對
ヲエニスルヲ專トセム唯一篇ハ段々ノ轉換
ヲ本トス拙シテ對ノ格々ヲ連子ヤラテ一
様ニチキテ好クヤレシ處ヲニ意ヲ致ス或ハ平
平トシタル對ヲ間々ニ置キ又古事來歷
ノアル重キ對ヲ入答スヤウニシ一篇ノ主意ノ
背ケテ第一ナリ先ツ長篇ハ必ス力量アリ
才力足ラサレハ疎弱ニテ易スフニテ中邊
ニ及フ時飽滿シカクシ始ハエタルヤウニテ終
リハ拙シ終カエテハ中邊ハ軟弱ナルヲ嫌フ
學問厚ク才知贍人ニ非ズハ長篇ノ排律ハ
及ヒ難カラニ首尾調リテ全篇ノ血脉ヨク
貫キ轉換ノ處ニテ能ク承引シテ一句
ノ對偶ノ法ヲ正シクスルニ非ニハ讀過スルニ足

二じ長篇ハ殊ニ韻ヲ重スルニハ半ニ到リ
韻脚ハ軟弱ニシテ力カ盡テ尋常ノオチ
ハ鋪叙セラレタリ五言ヨリ七言ノ長篇
猶難シト知リマシメ排律ニ至テ對偶ハ
專テノ字羽目ヲハクハハクノ律ハ大ニ同メ
少異コシアリ文字ニ拘レリ意カ舒ス不
對テハ疎濶ナリ此ノ間ヲ得ルヲ作者ト
云フ是肝要ナリ排律ノ對ハ意對假對
ノ貴ニシテ對偶ノ嚴キヲ好ミヨリ別ニ對
ノ仕ヤウヲ工夫スル排律ノ韻脚ノ取合セモ
心アルヲ大ニ冬ハハク律ヲ重ニ置セルナシハ大
法ハ對偶韻取モ日ニヤラレハ法律ノ
拘泥スレハ平仄ニ牽レ韻字ニ塞ケラレテ主
意ヲ迷ルヲ得ス故ニ對モ意對ヲ以テ推
ハツシ韻モ働キヲ專トシテ牽レマヤウニ最
モ拙カラス鴨脚鵝腿ヲ避テ奔走飛動ニ
ノ篇段ノ開環ヲ占テ賦スレハ排律ノ長
篇ハ指ス所ナリ長篇ナラハ言ハ盡シ
難キ時作シ好ク益モナキト云フ言テ
篇上章ノ永クセハ無用ノ長ト知リマシ
素ヨリ疎字短カニテハ作ラマシ好ト云フ
メシ

○七言六言論

凡ソ六言ハ相傳フ漢ノ司農公谷永ヨリ始リ

唐ノ王維ハ魏晉ノ間曹子建陸機陸雲カ
倣フテ賦セリト唐ヨリ以後漸ク盛ニナリ
諸家以テ作例多シ大抵ハ王維ハ
花落家僮未掃鳥鳴山空猶眠ノ句以テ
準則トス然レハ五七言ト替リテ異体ナリ
唯騷人墨客賦詠ノ餘ニ臨時ノ興トセル
ノ強ニ好ムベキニ非ス然レハ宋朝ニ至
リテ王荊公ヲ初メ東坡山谷トテモ其体少
カラス揚誠齋モコレ同シタ時世ノ變ニシテ
皆詩ノ變トイフマシ其法五七言ニ同シ絶
句ヨリハ句律詩ニ至ルニ全對モアリ
前散後對モアリ前對後散モアリ對句
散句各心ニ任テ作ル偏ニ法度格律五
七言ニ違フマシ排律ハ前作少ナレ然レ
排律ハ邂逅ニ例ヲ見ル古風ハ例ヲミダ見ス
トイハレ尤モ作ルニシキ非ス畢竟タ時興
ニテニテ六字ノ内一字減スルハ五言トナリ
六字ノ外一字加フシハ七言トナレ是ヲ嫌フ
トハイド古ヘノ作者ノ詩ヲ初メ皆此病
ハ免レス山谷合集ニ殊ニ六言多シ能ク
眼ヲ著シバ右ノ病ヲ去ルヲアタハサレハ作
得テ詮ノナキ体ナラ何レノ詩ニテモ五言
カ七言ニ成ストキハ成ラズト云フナレ然レハ五
七言ヲ初ヨリ吟ズルニハカズトヤ謂ニ然レハ

古ハヨリノ格ナレハ詩ノ一体ニ備フメシ唐ノ中
宗ノ内宴ニ羣臣各六言ニテ回波樂ヲ作ラレ
ソレヨリ唐ノ代ニ漸ク盛ニ成リトナリ宋又
唐ノ餘習ニヨリテ此体廢セサルト見ヘタリ假
令ハ王摩詰ヲ挑紅復念宿雨柳綠更帶
朝煙ト作りシモ復ト更トニナラズ去テ見レハ五
言ナリ復ト更トノニナリ又粉骨モナキト
ト見ユ次ニ花江落家僮未掃鳥啼山客獨
眠ルトイヘルモ家ト山トニナリテモ意味
同シ五言ニテモ好クナレハ六言ニ作ル想摸
見ヘズ他ノ詩ヲ吟改スレ然リ却テク意
局捉トテ心録ス五七言ノ作ニハ常ルヘト
知リテナシ

○字長短夕説 三五七言五七言

此ノ体昔ハ例ナレ唐朝ヨリ始メリ元來古
詩短篇ノ體ナリ又流餘裔又一体ト
ナレリ三五七言ハ隋ノ鄭世立ヨリ始ル後
又李太白作りシナリ 秋風清秋月明
落葉聚還散寒鴉栖復驚相思相見
知何日此日此夜難為情ト云ヘルヲ以テ基
本トセリ五七言ノ作ハ李賀殊ニ多シ是
ハ李白ヨリ始ルナルト四六八言ハ後世ニ至テ
始ル此ノ体ヲ統テ長短夕ト云王維カ春
桂問答モ三五七言ナレ早見五言ノ詩ヲ

是モ長短夕ナリ皆古ノ歌詞ノルナリ
或ハ短篇モアリ長篇ニ至ルモアリ定リル
体ナシ將進酒ヤ有所思ヤ行路難ヤ薄
々酒ヲ題シテ古ハヨリ作者多シ皆樂府
歌行ノ題ナリ蜀道難ヤ廬山高ナドハ長
篇ナリ此体ヲ作ルハ古人ノ作例ヲ見テリ
レクノ体ヲ字ニテ凡ク摸擬スルヲ以テ
好トス其中ニ其語ノ峭絶ナルヲ好ム頓挫
抑揚ヲ專トス大拍ノ詩トハ語路ノ勢カ
モ替ルベシ頓挫トハ俄ニトリヒクヤウニ轉
換ヲ急ニシテ心ヲハラリト云ヒ易ルヲ云
永々ト云ヒ下ス心ヲ俄ニ引縮テ短クモ
切クモ云フ抑揚トハ或揚多ク或抑多ク
スルヲ云ヒ或々ニテ心カ少シ遠ク或ハ律
ノメリカリヲモ云ヒ或ハ心ノ美ルト刺ルヲ
云ヒ或ハ夕ノ拍子ノ高下ヲモ云長短夕ハ轉
變ヲ自由ニ筆頭カ走ラズ子バ見ルニ足ラス
多クハ麗ク作りテ輕浮ニナラヌヤウニ作
奇思ヲ巧ニテ僻ニ流ヲ第一トス是皆
長短夕ノ習ヒナリ人ニ教ヘテ作意ヲ轉
換ニテ口輕ニ作レト言ハ其辭浮キ又古意
陳言ヲ除テ新奇ニ作レト言ハ必ス僻案
珍詞ヲ求テ怪キニ流ル是世間ノ常々之
唯廬山高ヤ蜀道難ノ詩ヲ平生見ル其

体ヤウ法ヲ学フヘシニ詩共ニ由文前集
ニ見ヘタリ詩ニ老光上ニオ料アル學者ニ
アラスニハ作ルベカラス是レ詞人ノ学オラ
頭サニタメニテハ真情ヲ寫シ困景ヲ述ニ
此体ニ非ス反ナリ強テ樂府歌行ノ体
ヲ学ハニモ無用トヤ云ハニ長短クモ題ヨリ
事ニヨリテ然ルベシ一趣向アルトキニヨリ此
体ニ非ニハ言ヒテハカキアリ許ノ如キ
時ハ然ルベカラス常ニ好ニテ別ノ事ナキ趣向
ヲ長短クニ作ラニハ癖事ナラン

○学歌行説

凡ツ歌行ハ樂府ノ餘流ナリ唐以來作六樂
府ノ如ク調律ノ定リタル法モナシ唯樂ノ付
題ニ依テ意緒ヲ述ルル歌行トス此体モ
一モアラス名目多シ情ヲ放ニミシテ言ヲ長
クシ心ヲ雜ヘニテ抑ニ拘ラズ歌ツヘキヲ歌
ト云歩驟シテ一馳騁スルコトク語ノ滞ラヌ
ヲ行ト云フリ一首ノ内ニ此ニテ兼合スルヲ
歌行ト云フ事ヲ述テ本末前後ノ序有
リテ能ク臆想ヲウツスヲ引ト云長短
高下共ニ委曲ニ情ヲ盡シテ其微ヲ悉
山ルヲ曲ト云フ吁嗟々其悲ヲ憂アル深意
ノ鬱鬱情ヲ伸ルヲ吟ト云フ大概此ノ如シ
何レモ歌行ノ体ナリ情辭ヨリテ名ヲ

異ニスルニテリ古題ニヨリテ作ル詩ハ古人ノ
題ヲ命シタル主上意アリ其ノ作者ニ代テ其
情ヲ模擬スルニテリ短篇ハ大倫此法ヲ
守ルヘシ長篇ニ至リテハ我カ作ルベキ主上意
述テリ白ムカ長恨歌琵琶行ノ類ヲ自
然トシレクニ題意カ生スル物ヲ別ニ求テ諸
体ヲ作ルニテモ非ザルヘシ

○学雜体説

凡ソ古風律詩ノ五言七言ヲ除テノ外ノ變
体ハ皆雜言ノ類ナレシ其品多ク其体變
三五七言ヤ五七言ノ類ニテヲ雜トスルヨリ
コレ有ハハ影石体五雜組体盤中体迴文
体及覆体離合体謎字体或ハ藏頭歇
後ノ類或ハ人名卦名數名藥名州名等
各一体トセリ此類ノ變体詳ニ舉ヘカラス
歷代ノ詩冊ニ審ニ記ス考テ知リヌレシ是皆
當上座ノ戲論ナリ法トスルニ足ラザルナリ
然レトモ來アル例ナレハ一体ニ備ヘシ若クハ初
学ヲ習ゴノタメ博文人ノ便リニ学ヲ強テ
好ムヘカラス諸体ニ涉ルモオラ博タルタメノ
助ケトヤ云ニ又達人ノ異体ヲ作り見テ
モアラシ畢竟カ游藝云ノタメニ早景情ヲ
擣ニタメニ疎カラシ思無邪ノ境ヲ窺ニ機括
ヲ求ルヲ詩人ト云戲弄ノ場ヘ入テ光陰ヲ費
ナカレ

○詩有總論說

凡ソ詩ハ三言ヨリ始テ九言ニ至ル迄ヲ總テ詩ト云フ三百篇ヨリ起テ前ニ論セリ然ルニ三言四言ヨリ八言九言ニ至リテサレバ世間ニ流布セバ詩ト云ハ五七言ノ間ナリ然レバ三百篇ヨリ變シテ代々ノ風體異ナリ其變異ハ各門ニ論スルニ漸ク唐宋ニ至リテ變極リテ諸體定リ又五七言ノ絶句八律ニ各諸體ハカレタリ先ツ詩ヲ學ビニハ詩道ノ至極ヲ識得スヘシ凡ソ詩ノ作ハ巧ニ初拙ニ終ルト古人ノ傳ヘナレバ詩學ニ限ラズ諸藝ニ通シテ此心得アルハ蓋シ詩家ノ巧ト云フハ作意ノ義ナリ拙ト云ハ作リ離レ趣キヲ忘レテ意ハ混然底ノ多ナリ然レテ作ヨリ起ラズ終リノ拙ニ至ラレシジ作ト云カ詩ノ根本基祖ナリ第一コレ人々ノ稟受スル氣質ノ偏ヨリテ作カ種々ニ變易スルヲ能ク是ヲ辨スル先ツ作ト云フ根源カヲ知得セズバ階級ヲ登ルベキ便リナシ人ノ作ヲ知クニ非ス自己ノ作ヲ吟味シ知得スヘシ此作ト云フニ人々ノ偏癖アリテ變シ改ムヲ得ス前ハ鍛冶ノ鋸ヲキクニ同シク淬トイヘ

自然ト上作ト中作ト下作ト終ニ一生變易セサルカ如シ凡儀カ後ニ殘ルソ此理ニ亦同シカレバ

○先ツ大凡人ノ作ニ平易順流ナルアリ奇僻苦澁ナルアリソレ平易者作ト人ノ生レ付テ口輕ナル詩ニテ語々ノ間平々トヤスラカニ世ニ習リ名ヲ案ゼス珍作モナク平生上府ノ詞ニ毎々作シテ久シク功ヲ積

ムハ後ハ隱當ニ然モ如ナル多シ
春風堪賞還堪恨
見開花又落花上作リ
馬上相逢無紙筆
憑君傳語報平安
ノ類ニテ云フ奇字モナク珍句モナクテ安ラカニ好シ初學ノ人此体ヲ常ニ作ルニ思ク

スレハ俗意ニ流ルル多シサレハ異朝ニテモ元輕白俗ト云譏リナキニアラス元稹カ詩ハ輕薄白樂天カ詩ハ凡俗ナルヲ云ヒテ然レバ初學ノ者ハ先ツ平易道ヨリ入レテ奇僻道ヨリ入ベラス又奇僻苦澁ト云フハ句体ニ流リテ順流ナラス作モ常ニ離

レテ珍怪ヲ好ムトハ山路ノ險ヲ經テ枯木回崖ノ從耳ハ多ク貴シ絶山岸ヨリ落ル飛瀑ニ眼ヲ暴スル如ク所詮ユカニ流リテ直チガルヲ以興トス
孤燈燃客夢
雙杵搗鄉愁
ト云ヒ藥杵聲中搗殘夢

茶鐺影裏煮孤燈等ノ如キクソ云フ
此ノ作モ後勤ノ山ノ功ヲ經ト一種
ノ名家トハナレ唐ノ盧仝ヤ馬異カ
作ソ云フメシ○蕭散開澹タル好ト織
穠流麗タル好トノ愛アリ蕭散ハ
俗ヲ離レテ寂シク無欲ニ静閑ナ境
ヲ云フ吟前ハ茅屋ニ琴ヲ彈スルカ如ク淡
中ニ至味ヲ存シ又野鶴ノ竹外ニ啄カカ
高潔ナル内ニ徳ヲ養フ白雲ノ岫ヲ出テ
無心ニ太虚ニ横レテ卷御ノ自由ナル似
陶淵明韋蘇州柳子厚ノ輩ヲ是レ
メシ織穠流麗タル好トハ春山ノ霞中ニ眉
月ノ出テ柳梢ニ移ルカ如キヲ織穠云
黃鶯朝夕ニ紅杏ノ林ニ鳴キテ朝陽ヲ
迎ヘ春山ノ爛熳タル溪橋ノ邊ニ稚子ノ
嬌ニ淺流ニ飲テ求ルカ如キヲ流麗トハ云
李高隱韓翃温庭筠等ノ作者コレニ近
カルメシ○典重温雅ナル作ト悲悽寒苦ナル
作トアリ玉樓金殿ニ梨園ノ弟子列隊
整肅ニノ管絃ヲ奏シ碧桃紅杏ノ樹下
ニ白髮ノ儒生ノ詩ヲ談シ文ヲ論ト
ルニ流泉ノ翠嶺前ニ瀉カ如キヲ典重
温雅トハ云フヤルヘシ王維岑參ノ類
此ニ配スメシ或ハ艸根蟲聲霜露ヲ傳

鳴音漸ク絶セシト欲シ箏箏ノ殘菊折
卧シタルニ寒蝶ノ餘香ヲ覓メテ去來セシ
ゴトシタルヲ悲悽寒苦ノ体ト云フ孟郊
賈嶋便千其人ナリ○雄渾偉健ナルホ
ト豪放超邁ナルホアリ雄渾ハ弱シテ
見セテ大將ノ然モ嚴謹ニシテ人ニ礼義ヲ
盡ス如クナルヲ云偉健トハ心胸ノ量リ天
ニ體カノ然モ強キヲ云フ喻ハ千里ノ
騏ニ乘テ瀟湘洞庭ヲ經歷シ遙ニ萃
嶽ヲ望ニテ立テ龍蛇ヲ赤手ニテ捕ニ
トスル人ノ控勒ヲ捧グルカ如キヲ云ナ
シ杜子美李白ヲ前進トスヘシ豪放
超邁トハ濁酒三盃ノ後蓑笠ヲ著テ
寒江ノ雪ニ掉サシテ散魚ヲ釣ニテ立
ニ似タルヲ豪放トシ蒼鷹鳥ノ鞞ヲ離テ
雪月漢ヲ凌テ雲ニ絶ルニ暴風急ニメ枯
樹嶺頭ニ翼ヲ休メテ物ヲ窺フカ如ク
ナルヲ超邁トハ云フ韓退之李賀ハ指
シテ其人ト稱セシ○洗鍊刻琢ノ作ト沈
著痛快ナル作トアリ洗鍊トハ水ニテ穢シ
タルヲ洗ヒ火ニテ物ヲ煉リツムル如ク意
ノ吟味ヲ委曲ニス刻琢トハ削カニテ物ヲ
刻ムカゴトク錫鑪ニテ玉ヲ磨琢スルカ如ク
細カク作意ヲ著テ物ヲ賦スルヲ云フ沈著

トハ何ニテモ作ル題意ニ叶フ趣ヲ案シ謀
スルヲ云痛快トハ事ヲ正クシ義理ヲ盡シテ
殘ル所ナク氣味ヨク言ヒ述ルヲ云イタクコ
ロヨシト訓セリナハニ作り得ルヲ云生木ニ
釘ヲ打ル如思念ノ通りヲ能ク云ヒルヲ云
喻ハハ刻琢ナル作ハ極彩色ノ繪ヲ見ルカ如ク
丹青ヲ能絶シテ筆工濃カナル物ナリト痛
快ハ墨畫ナレ思フトコロヲ筆モ溢ラヌ何ノ造
作モナク走書シタルニ似タリ此皆人々生質
ニ由テ變リ生スルハ孰カ是孰カ非トモ初
ヨリ定カクシ大要ヲ述ルナルヲ右ノ諸体
ヲ一人ニテ兼ルヲ名人ト呼ヘシト來タ杜子
美一人ナリト謂ヘリ喻ハハ子美カ詩周
公且ノ禮樂ヲ定メ國家ノ典章ヲ極メ給フニ
似テ後世ノ人は是ヲ評論セシ様ナシト傳
詩道ハ子美ニ至リテ集ノテ大成スト云ツ
トヨリ李太白ハ詩ニ神ナリ杜甫ハ詩
聖ナリト云ヘリ此間ニ辨アルハ神ト云フ
怪レク奇ニメ靈妙ナルヲ云フ聖ト云フ
ノ欲スルニ所ニ從ヘ尺矩ヲ踰スト諸法ニ違
サルヲ云フ奇ニモ非ス靈ニモアガルヲ稱
ニ聖トハ名ツク故ニ詩ハ三百篇ヨリ代々
ノ風儀ヲ考ヘテ諸流ニ涉リテ自己ノ
生所見ノ近キ處ヨリ入テ學フヘシ至ルニ及

ニテハ風モナク流モナク豁然トメ大悟スル
トキハ詩道ハ平坦ニメ峻ニ非ズ山ニアガルヲ
知ラン

○詩有諸流説

童問ニ云ク今ヤ詩ヲ論ジテ廣ク問
訊スレハ諸家ノ流義ワカレタリ或ハ公家
ノ風アリ或ハ五山禪林ノ風アリ昔辟
唐僧ノ風アリ洛陽ニハ京字ノ風アリ
關東ニハ林家ノ風アリ見ル人ノ嗜好ニ
ヨリテ其評モ區ナリ故ニ決スルヲ
得ズ何レノ風ヲ善トシテ學ビニヤ又各
ニ就テ申緒コレアリヤ示論ヲ垂テ教
答ニ云ク善哉問ヘル凡ソ風義ニ付テ
近世ノ人詩道ノ迷ヒ甚クシテ殆ト地ニ
墜ナシトス夫レ詩ノ風ト云フハ其界限ア
ルベカラス千人ニテ作レバ千家ノ風分レバ
人作レバ自ラ一万家ノ格各別ナリ然レバ
水ハ千流一カ派アレ本ハ一源ノ滴ナリ
山ハ千峯一嶺アレ本ハ一撮ノ土ヨリ
起ル詩モ流義ニ到リテハ同シ道理ナリ詩
ノ風ハ千家一カ家ニハカルトクハ凡善惡ニ到
ハ一道ナリ元來詩ノ佳境見入ルト云フ界
限有ルベキナリ假令ハ筆ヲ取リテ墨
痕ヲ學ブカトシ流義ハ世間ニ種々アレバ

其ノ中ヲ選ニテ各々ニ字ブトイハレ能書ニ
イタルト到ラザルハ流義ニハヨルニシテ唯ソノ字ヲ
人ノ勤ルト慢ルトノ間タナリ其外ニ能書
ニテハ師ノ流義ヲ云ハス我ト自分ニ流ヲ書
出スルヤリト摠シテハ手跡ノ善惡ハイツレノ
流ニモ是アリハ流義ニハヨルニシテ尊圓ノ流ニハ
器量アリト定ト家ノ流ニハ無器量ナラト云フ
アリトシテ一流ニサハ器量ナラバイツレノ流義ニ
字トナシテ一流ニ限リテ器量ナラト云ハ本コ
レ能書トナシベキ器量ナラハナリ手跡サハ
筆頭ノ垢モ後ハ何流ヲ字ニテモ自由
自在ナラメ一本ノ筆サハキシラハ流義ニ
ニヨラス皆是自他ノ流ヲ垂テ師ノ跡
ヲ踏ビ本朝ニテモ行成流定ト家流尊圓
流近衛流其外近代瀧本光悦等ノ數
人モ皆自然ト能書ユハ一流ニ名家トナリレ
ト知リヌヘシ詩ヲ作ルモ此ニ同シカレト人
ノ謂ラキ羅隱杜荀鶴ノ輩ハ至テ卑弱
ナル詩ナレト今ニ至ルニ人ノ相誦スルハ自
ラ一家ヲナレタレ故ナリ倭ニテモ漢ニテモ流
義ニハ因ルニシテ前ハ杜子美李白ハ好師ナリ
是ヲ似セテ字ブトイハレ氏名人氏ナラヌ又
子美李白ヲ字ハヌ道家僧ト家ニモ佳作
多キ詩人モアリハ流ニハ拘ベキニ非ス中華ヲ

唐宋ノ詩大ノ流ヲ字フサハ宜カラヌ況ヤ
本朝ノ詩家ヲ唯流ト風トニ拘泥セス
初學ノ作り習フニ平生我心ト叶ヒタル字
ニヨキ詩流ヨリ字フベシ詩學長スニ隨テ
テ次第ニ字ビ難キ詩ヲ字フニ功ヲ積
ミカラシ用ユレハ自然ト詩境ハ入テ一家ノ
風自ラ立ツモノナリ我レ壯年ノ比大明ノ
人ニ陳元規ト云フアリ此レ逢フテ詩學
初心ノタメニハ何レノ集ヲ用ヒヤト益ヲ語
フ元規貝子答テ謂ラキ先ツ初學者ノ多
ク習ヒヨキハ自樂天ナリ白白文集ノ中
好詩ヲ按萃シテ吟詠スルニシクナレ明
朝ノ幼稚ニ教ルモ許ノコトト云フ今此
説ヲ安スルニ最第一ノ詩學ナリ樂天カ
詩ノ全好ナルト云フニ非ス彼カ詩ハ俗凡
アリテ不弱ナレバ氣象學フニ足ラザル体
ナレド又和カレハユヘシ詩學ノ初門ニハ入
ヨキナリ字ト得ル時一階ツ他流高チテ
一路ハ登ルトシ白白ノ門ニ脚ヲ止ムベカラス
詩ノ流義ハ異朝ニテモ人々ニ因テ替ル
ヘシ一世ノ風アリ一家ノ風アリ一人ノ風
アリ一概ニ論スベカラス先ツ唐朝ニテモ柳
子厚李商隱蘇州ハ開澹蕭散ノ風ヲ好ミ
孟郊賈島ハ寒瘦ノ風ヲ作り羣全

馬異ハ奇崛ノ風ヲ好ム許ノコトク千歳万
化各ソノ嗜好スル處ノ異ナリナリ人面ノ
同じアラサルカ如シ本朝ノ風ヲ學フベラス
問ヘカウズ風ヲ立ル格ヲ選フモ初學ノ者
ノタメニ詩境ヘ鄰ルト盡ク脱却セシ故ニ
古人ノ教ニモ自然ト外ニ實ノルト外ノ花
ハ落去ルトツタ、實著ニ能ツトモノ功ヲ
積ニカラフ用ルト詩人トハ彼ノ風ヲエ
ラテ流ヲ尋子ニ心ヲ勞スルハ此義ヲ
知ラヌエヘナラメ愚ヤリト謂ッヘシヨハ
ソレクニ風ヲ喜愛スルハ詩ノ巧拙ハ其人
ノオニ目ニハ近世ノ人ノ詩ヲ談スルヲ
聞クニ洛外五岳へ出入スル人ハ叢林ノ風
ヲ好ムト云ヒノ開東ノ詩風ヲ削ルハ開
東ニ居リノ林家ノ門ニ入テ味ヲ知ル人
ハ叢林ノ風ヲ笑フ衆口ニ千々ニ決
スルヲ得久互ニ風ヲ論シ流ヲ選フ此
皆誤レリト知リヌヘシ詩ニ本來風モナク
流モナシ林ハ家叢林共ニ好詩モアハセ惡
詩モナドカナラフサラン近來偶叢林ノ
詩ヲ見シ凡多クハ解スルヲ得スカレバ
是非ヲ論ズベキヤウナシ如何トナシハ五山
ニモ昔ハ僧衆ニ詩ヲ作ル名達多シ梓
ニ刻テ流行スル中華若本詩ノ内ニモ見ル

禪林一人一首或ハ花工集詩ノ書或ハ家々
集モ多ク見ユ右ノ内ニモ唐宋ノ詩僧モ
減セヌ依モ有リ詩立意ニ高ナリモ流麗
ナルモ見ヘタリ今ノ風モ詩ノコトクナラハ一評
ハ付メシ今ノ詩ハ然カラズ中此ヨリ以來
詩ノ風一變シテ江湖集ノ体ヲ學フ上モ
ヒリ人ノ解スルハ能ハサル詩コレ多シ其モ
江湖集ヲ讀過スルニ此ニナ頌ト云物ニテ
詩ニハアラズ僧家ニ頌ヲ學フヲ非ト云ニ
アラズ然レバ風雅ノ域ヘ入テ詩ノ風味ヲ
得タルハ非ルハ絶海義堂彦龍天穂ト
フヨリ惟肖南江謙岩村菴ノ輩ラ何
レモ詩僧ナリ今モ定マレコレアラズ然レバ
詩ヲ觀サレハ在トヲ知ラス所詮詩ヲ
學コトト思フ者ハ異國本朝ノ諸家ノ
凡テ選ハス唯篇ヲ羅カテ題ヲ賦シテ
詩ニ老タル人ニ指南ヲ得中華ノ詩集ヲ
熟讀シ古詩ノ意味ヲ詳ニ知得レ歲
月ヲ積ムトキハ自ラ詩歩カ一階ツ、進
テ天然ト境ヘ入ルキナリ先ツ上ノ詩ノ三
百首モ五百首モ讀ミテ自身ニモ多ク作
テ見子ハ平友ノ相違スルモ辨ヘカレシ
レテ古人ノ夕格ヲシリ意趣ニ達セ
テ難カルハ然ルトキハ古人ノ軌圍ハ一生

近ツクナシ凡ソ詩ニ流ラテス凡ソ極
メス縦横自在ニコレヲ學フヘシ其中三要ト
スル所ハ格ハ高カラニシテ所要トシ凡ハ
古カラニシテ欲シ味ハ深カラニシテ欲シ情
ハ達セシテ宗トス趣ハ淡カラニシテ知
リ意ハ正カラニシテ專トシ韻ハ重カラニ
シテ願フ大吟詩ノ如シ其詩ニ就テ其
味アルヲナレハ兼テハ期シガタシサレ強テ
此外ノ義ヲ自ルヘカラス

○詩有悟入説

詩ハ悟入スルヲ以テ好トス悟入スニ道アリ務
メテ久シク惰ラス積累ノ功ヲ以テ初ニ
悟ル習學ヲ正シ悟入ヲ本トスルニ非ス習
學スル上ニ自然ト悟道ヲ得ルヲ筆法
學ニモ又悟道アリ道理コレ同シ昔張
旭ト謂シ能書アル時公孫大娘ヲ劍ノ舞
ヲ見物シテ頓ニ筆法ノ奧義ヲ悟ル王
羲之モ草書ノ筆ツカヒテ鵝ト云フ鳥ノ
頸ノ長キヲ自由ニ働カスヲ見テ悟入
シタリコレ皆舊功ヲ積ニ平生其事ヲ
胸中ニ忘シメユヘニ時アツテ不圖悟入ス
理アリ誰トテモ劍ノ舞ト鵝ノ頸ノ長キヲ
見ヌ者ヤアル然レ凡常ニ心カケ又人ハ筆
法ヲ悟入スル理ナシ皆工夫ノ積ツニテ上ノ

復ナリ詩道モ同シコレユヘニ詩ヲ昔ヨリ參
學悟道ニ前ヘテ詩ニ參ズト云フ正法眼ヲ
具スル詩人ヲ第一義ト云是ト云乗ノ妙悟
ヲ得ルユヘナリ漢魏晋ヨリ盛唐ノ詩ニ
イタルニテ是ト云唐ノ大曆ヨリ以來ノ
詩ハ第一義ニ落ツ晚唐ノ詩ハ小乘ニ
聲聞辟支ノ果ナリト云ヘリ故ニ詩道
ノ傳來ヲ宗派ト云衣鉢ヲ得ト云
皆禪學ノ授受ニ比シ來ル活々ニ參
セヨ死々ニ參ズルナカレ云ヘリ凡ソ悟
道ニモ品アリニ淺深ヲ別ツ我カ器量
ノ分限ニ應レテ悟ルアリ表裡透徹シ
テ真ニ悟ルアリ第一義ヲ悟ルヲ透徹
ト云第二義ヨリハ分ニ應ルニ悟ナリ故ニ
悟ニモ二種アリ先ツ修行ノ間夕一年
功ヲ積メハ一年ノ悟入アリ或ハ年功ヲ積
ムハ二年ノ悟入アリ歳月ヲ經ルニ隨テ
シレ程ノ功ヲ悟入スル是ニテ字ノ分限ニ
應スルノ悟入ナリ此ヲ真ノ悟入ト云フ
ヘカラス年々ノ功ヲ積累シテ初テ詩
ノ全体ヲ悟入スルヲ透徹ノ悟入ト云フ
一たび悟入スルトソレヨリ幾ダクノ歳月ヲ
經ルトイヘ凡變易スルナレシ此ニ至テ
百尺ノ竿ノ頭ニ立テルカ如シ前ヘテ後ニ

歩ヲ進ムヘキ所ナシ足ヲ動スヘキ地ナシ
サレバ至極ニ至テハ外ヘ行ヘキカモナシ是
ヲ眞ノ悟入ト云ヘリ此地ハ多ク學ヲ終
行修成行成就ノ上ニ入リ初ヨリ覺
得ニテ得ヘキニ非ス夫レ悟入ト云ヘテ何
多ク悟ルトイハ凡ソ中華ノ詩人數多
コレ有ルニ皆本集アリテ數万首ノ詩ヲ
連子タリ今ヤ其集ヲ總其詩ヲ誦
シタリ好ト不好トノ間ヲ辨ル人稀ナラ
ニ唯數多ノ詩ノ中ニ我心ニ合スル好トシ
心ニ合ハサルヲ不好トス此ハ好ト不好トシ
我心ノ合ト不合トニ準テ見ル其見ニ
非ルヘシ其私見ニテ事ヲ量リテハ人ノ詩
ノ眞ノ好ト不好トヲ知ラズト謂フコト喻
杜子美李白カ集ヲ今テ人ノ窺ヒ見
ル上手ノ其否ナノウテ其否ヲ腸ヨリ下
手ノ見ルカ如シ何レ好キヤラニ何レカ
不好ナルキヤラニ辨知セザルニ似タラニ我
打賞ヘタル分限ヨリ外ハ分寸モ必ス知
ヘキヤウナシ然ルニヨリテ分限ノ悟入アリ
トハ是レナリ又カツテ悟入ナキ詩人其
ヲレヲ人ノ其否ヲ見物スルニ亦月ノ論
ニ足ラシ但シ我カ其否サハ上手ニテハ人其
ノ位等ハ委細ニ見ユヘシ詩ヲ作ルトニモ

我詩ノ階級ホドナラフデハ古人ノ善惡ヲシラ
ス彼ノ分限ノ悟入ヲ積テ一旦豁然トシ大悟
スルニ及ニテ後古人ノ詩ノ好モ不好モ曲直
ニ透徹シテ見ユルナリ此時初テ陶淵明
カ採菊東籬下悠然見南山ノ詩ノ味
ヲレテソレヨリ以來ニテハ見解到ラヌユヘ
ト自自ノ垣ヲ越テカコトシ故ニ古人ノ評ミ
陶子ガ此夕コニ禪法ノ味妙語ニ叶フ連
磨以前ニ陶子悟リテ開カレト云ヘリ此高
上ノ一路ナリ初ヨリ此境ヲ得トセハ一生到
ルテアタハヒニシテ淵明カ門牆ヲ窺ヒ靈
運カ堂ヘ升ルテ能ハシ先達ノ謂ク凡ソ詩
ハ理路ニ涉リテ言致ニカ洛サルハ上品ナリト
此道理モ立ス辞ニモ限ラズ自然体ナリ
云フ故ニ盛唐ノ詩人ハ唯興趣ヲ本トセリ
故ニ此ヲ吟前フルニ羚羊ノカモ鹿ガ夜ハ木ノ
枝ニ角ヲ掛テ何方ニナリト寐ルユヘ人其
伏セル處ノ跡ヲ知ル者ナキガ如クナリ人
其妙處ノ跡ヲ尋テベキ便リナシタラハ聲
徹トスキトフリ玲瓏トテリカヤキテ然ト
見留ルテ能ハズ空中ノ物ヨリ音ヲ出シ
水中ニ月影ヲ寫シ鏡中ニ人形ヲ照スカ如
クニシテ耳ニ入り目ニ落ルハカリニテ手裡ニ
摸捉スベキヤウナキカ如シ言ハ盡ルテ有リテモ

而も注意ハ窮リナク合蕃ヒニ袖ニ香ヲ
留ニ起居スルニ薫ノ殘レルニ似タリ故ニ
詩ハ盛唐ヲ學フヲ好トス大略詩ヲ論
スルハ喩ヘハ京ヨリ畷山ヘ登ルカ如シ
登ルニ隨テ近所ノ村里次第ニ見ユ其ノ
絶頂ニ到ルニ及ニテ洛中ノ民家采ヒク一
望ノ外ニ見下ル如シ詩モ下ヨリ上ヲ窺
見ルカニテハ曲直ニ分別ナラス皆推量
ノ説ナリ數多ノ階級ヲ經升リテ高
上ノ一路ニ脚ヲ立ルト異國本朝古往今
來ノ間タ數千人ノ詩人ノ巧拙殘リナク
一道ニ我カ眼中ニ見ヘ渡リテ其好不好
分サモ隱ルベキヤウナシ初テ共ニ好ト不好ヲ
論スベシ然レ境ヘ至ラスニテ評判ヲ費
ストモ好ト思フモ眞ノ好ニ非ズ不好ト云
モ眞ノ不好ニ非ズ盲者ノ象ヲ量ルニ同ジカラ
ン全体ヲ見ル眼ヲ具セザルハ好惡ヲ辨スニ
足ラズ是ヲ正法眼ヲ具スルト云此ノ眼ヲ具
セニハ脚ハタトヘ疲レシ氣ハ倦トモ麓ヨリ緩
靜ニ登リテ數年ヲ經ルトモ畷山ノ絶頂
ハ終ニ登ラント志ヲ立ルヨリ外術アルニ
半途ニ立テ退屈スニハ一生到ルベキ理ナシ又
務メテ休ニサル時ハ終ニ到ラズト云フ理モ
唯務ルト務メガルトニ有ルノ中トヨリ以來ハ

詩ノ風降りニ異朝トテモ宜カラス或ハ文
字ヲ以テ詩トシ或ハ議論ヲ以テ詩トシ
或ハ才學ヲ以テ詩トシ或ハ古直ヲ以テ詩
トス巧ナルハ巧ナリ然レ凡推ニ次第ニ遠
ガレリ優游ニ進ラズ退遙トメ自得ス
興致殆ニ絶ナント至テ善カラヌ凡ハ人ヲ
譏リ自ラ傲慢スルヲ以テ詩ト思ヘリ博
學ナルテ詩カ功者ニモナシ道理ニ達シタ
クレバトテ名々モ出デス故ニ古人ノ云リ
詩ニ別オアリテ書ヲ閱スルニ非ス詩ニ
別趣アリテ理ヲ閱スルニ非スト然レハ學
問理致ニモ因ルニシテ詩ニ器用ナルハ一段別
ノトト知リタヘシ唯古人ノ正風ヲ學ビテ久
シク情ヲザル時ハ自然ト詩材モ出ヌヘシ初
ヨリ此理ニ悟フニテ通スルヲアタワユニ邪
魔外道ト云フ詩ヲ論スル禪ヲ論ス
カ如シト云ユリ此ト來テ説テ作ルニテワ
妙ト云ハ凡リ詩ニ正レハ妙ナシ何ヲ作リテモ
妙ナラズト云フナレ題ニヨリ直ニヨリ境ニ
ヨリ景ニヨリ情ニヨリ何カ妙トナリ何
カ妙ナラズト云フハ初ヨリ計ラレヌヤリ
皆作リヤウニヨリテ其時ノ興致ニ叶ハ
何レノモ皆妙ニナルト知リヲメシ詩ノ品
サハ高クナレハ一ツノ妙ノ字ヲ悟入スレシ境ヲ

能く知るは悟入たるナル也

○詩有圓熟老硬論

凡し詩ヲ作ルニ圓熟老硬トアリノ圓熟ト云ハ摠シテノ意ノ主ク角ニシテ能ク熟シク然ルニ云形ニテ云ハ圓ト云ニ味ニハ熟ト云物ノ形モ角カアシハ礙ルヲアリノ圓ト云ルナク何方ヘハ死轉トシテ行ヤスシ物ノ味ニハ辛酸甘苦鹹共ニ味ニハ種々ニ昂ト熟セシバムニカラス混ニヤ五味ヲ調和セシヤ熟スルヲ以テ人コレヲ尚具ス故ニ詩モハ圓ニナリト意ハ熟シテ難ナキヲ云意圓熟スルト云フ晋ノ謝朓カ言ヒテヤウニ好詩圓美ニテ流轉シテ彈丸ノコトトシト詩ハ圓熟ニ至ラザレハ必ス斧斲ノ痕アル者ナリノ圓熟スル義ヲ覺悟スルニ又初學ノ人圓熟セシト云フニ心アルハ必ス詩カ平易ニ過テ奇字新句ト云フハ一生作ルルソレノ知認スヘシ老硬トハ句意ノ堅キヲ云フ老ハ久キヲ經テ潤澤ナキ心ノ硬ハカタト訓スルヲモナク一偏ニカタクテ老硬ト云ナリ詩ノカタクテ句意潤澤ナクテ乾枯セルヲ老硬ト詩ハ縱ハ食物ノ堅キハ齒ニ掛ラス喉ヘモ通ラザル

如し作意ノ宜カラズルカタキ詩ヲ老硬ト云フ食物ノ甚ダ苦キヲ服スルニ似タリ又常ノ故言ナトテ作ルニソノニ古キ文字ヲ尠化シモナサテソノニ用ルヲ生硬ト云フ食物ヲナシ咬ニシテ服スルニ比ス老硬苦ノ食ヒカタキ類ニシテ皆硬ト云ニ能食ヒカケニタル熟ト云フ詩々々食物ニ喻タリ摠ジテ食チヌハ能クカコナスヲ以テ味ニ生ス詩ノ立意味モ能煉リテ古キモ又文字モコナサ子ハ意味生セム縱令ハ胡椒ノ辛辣ナル物モ丸吞ニハ何ノ味モナキカ如古キニテモ熟ル子ニテモ能クコナスカ初心ノ内ハナリ難シソノニ用ユルハ尠丁ノ切目見ヘテ然モ生硬ニシテ食セラレズ是第一ノ修行ナリ杜牧カ赤壁ノ詩ナトカ古事ヲコナシタルナリ東風周郎カタノ便利ヲ爲ズニ銅雀臺ニニ喬ヲ鎖シ竹籠ヲ置ベキニ折節仕人自惡クニ軍ニケタル殘念ナト作ル此ノ本ノ古キニナキヲ自分ノ作意ニ古キヲ働スル此体ヲ好ムナリ又杜牧カ烏江ノ詩ニ勝敗兵家不可期包圍思恥是界江東子弟多才俊卷土重來未可知ト作ル此ハ楚項羽軍ニ負テ烏

江ニ落ニ亭ノ長舟ヲフナボネシテ待テ云
江東小所ナリトイハ氏猶王タラ急キ渡リ
給ト時ニ羽ノ謂ラク吾昔シ江東ノ子
弟八千人ト江ヲ渡リテ西ス今一人トテ
還ラス皆討死シツ何ノ面目アリテ江東
ノ父兄ニ逢ハント云フテ自刎シコトナリ詩
ノ心ハ軍ノ習ヒ勝負ハ預ノ期セラヌリ
一旦ヨシハ負ルハ恥辱ト思ハズ志ヲ落サヌ
ヲ以テ甲子トハ云フ江東モ數多才俊
ナル子弟ノ善キ兵士アリ江東へ暫ク跡ヲ
寄セテ居ラレハ又大軍ヲ起シテ善兵ヲ
擧ルルモアラニ項羽ノ短慮ヲ自害トシ
是モ赤壁ノ詩ト同格リ古直ヲ傳カノ
史ノ餘意ヲ作ルナリ熟字古詩等ヲ用
テ作ルモ同シ義ナリトカク古キヲ翻案
シタリ又ハ點化セ子必ス生硬ナル詠史ノ
作ハ猶以テオノ働キカ入ルテ古事題
懷古名所ナト皆此ノ類ナリト知リヌシ
○詩有テ斧斲痕論
凡リ詩ニ斧斲痕ノ皮骨ニ粘ルト
ニ様ヲ嫌フナリ斧トハシノト訓ス斲金トハ
ウガットヨム工人ノ拙キ者カ木ヲケリホルト必
ス斧ノ痕ガソノミ見ユルソ其コトククヤ
作ルニ拙ケレハ必小刀ノカ残りテ奇麗

ニナキシ云フ圓熟ノ反ナリ又皮骨ニ粘
リ着トハ題ニ作ルニ餘リ沈吟ニ題
ノ直ヲ深クハツレヌヤウニ作レハ詩ハ無味ニ
格カ早クナル云フ假令ハ糊ヤ漆ヲ以テ皮
ヨリ骨ニ粘リ着テ離レヌ如クナル
ヲ云フ詩ハ畢竟生熟ノ間ヲ作ルヲ真ノ
功者ト云生ハ熟セサルノ名ナリナニニ物ヲ
用ルニ熟トハ煮スルメ風味宜カラサル云フ
料理スルトハ事ソ一切ノ食味煮タラヌト煮
スゴストハ皆服セラレヌニ前フルソ煮ヘヌテモ
ナク又煮スルスキモ非カル加減ヲ生熟ノ間
トハ云フソ生ナレハ斧斲ノ痕カ見ヘ熟スレハ
必ス皮骨ニ粘リ着リテノ間ヲ作レトノ教
ナリト古人ノ評ニモ李商隱カ柳ノ詩ニ
動春何限葉撼曉幾多枝ト作リレハ斧
斲ノ痕アリ又石曼卿カ梅ノ詩ニ
認桃無綠葉辨香有青枝ト作リレハ皮
骨ニ粘リシクナリト梅ノ容チヲ云ヒコトセ
ントスレハナリ思フヘシ又開簾風動竹
疑是故人來ト云ヒ徘徊花上月空度
可憐宵ト云ヒ皆古人ノ佳句ナリ然レ
テ鄭谷カ雨夕心ヲ補綴メ作ル詩ニ
輕輕可忍風敲竹飲散那堪月在花ト作
リタル心ハ易ルモノナケレ格カ大ニ減シテ熟シ

過スカラヲ著得ニ作ルホド意味淺薄
ニ一覽見シテ盡更ニ含蓄ノ氣象ノ此境
ヲ了解スヘシ徘徊ノ花上ノ月空ク憐々キ
宵ヲ度ルト云ヒコリ大ニ情ヲ含ニテ感ハ
ナレ初學ノ人ハ先ツ此境ヘ入カケラフニ
鑿ノ痕ヲ顯サヌヤウニ圓熟ヲ貴ク題澤
ク思ヒ入ニ皮骨ニ粘ル程ニ作り習フニ後
ハ詩ニ功人ホド生熟ノ間ハ出ルナリ初
生熟ノ間ト志シテ作レハ詩カキ所ヘエカズ
平易輕浮ニナリテアヒサ化ルヲ自然ト實
カ生スルヲ好ト云フ第一斧鑿ノ痕ノナ
キヤウヲ習フハ古人ノ詩ヲ見テ穩當ノ字
ヲ見ルルニ穩カト穩ナラサルトヲ辨サレハ
必ス鈍ノヲ免レシ穩字ヲ用ユハ一カ穩
ニテリソレヨリ一首ノ全篇カ穩ニナル時
初ニ斧鑿ノ痕カナクナリテ削リメカ何
カニモ見ヘヌソ又皮骨ニ粘ラヌヤウハ生ツ
詠物題詠ニ必スアルナリ物ヲ詠スルニ此
物ヲ取テ彼物ヲ詠スルヤウニ物ヲ必トセ
ス他物ヲ借テ詠スルハヨシ題ニ此題ヲ必
ストセス彼題ニ此題ヲ詠スルヤウニ作カ
アレハ此難ヲ免ル詠物題詠共ニ生熟ノ
間ヲ詠スルヲ傳トスヘシ題ニ的當セヌモ
ナリ能ク題ニ著レ皮骨ニ粘ル此間ヲ作
ニ習フアルヲ

○詩有翻案點化說

老成ノ功者ト云フ詩ニ久シクカラ用ユ
レハ後ニ得心スルヲナリ一首ニ三題ノ思ハ
クカ智ヒ久シク馴テ意味ヲ知其間
ニ習フアルヲ
○詩有翻案點化說
翻案ト云ハ古人ノ作ル詩トリテ其詩ノ
作意ハ翻シテ云ヒ替ルル案ハ詩ノ趣向
ヲ云フナリ翻ハレカヘストヨム人ノ作リタ
ル趣向ヲ表ト裏トニ打カヘシテ云フ翻案
ト云フ喻ヘハ杜甫カ重陽ノ詩ニ
明年此會知誰健醉取茱萸子細看
ト作ルル劉汝が取ニ作ル詩ニ
不用茱萸子細看管取明年各强健
ト作リ賈嶋ガ三月盡ノ詩ニ與君今夜不
須睡未到曉鐘猶是春ト作リシ後ニ
與君今夜孰眠去未到曉鐘猶是春ト
云フ類ニ與テ數ヘカメシ
○點化ト云フハ翻案ト少シ替ル點化ト云ハ
古人ノ詩ヲ或ハ二三字或ハ四五字改テ吾
詩トナシ或ハ其格ヲ取リ或ハ句法ヲ取テ却
テ古人ヨリ勝リタルヲ云フ李嘉祐カ詩ニ
水由飛白鷺夏木轉黃鸝ト云フヲ取ツテ
王維カ漢々陰々ノ二字ヲ上ニ添テ七言
ノ句トナシテ己カ詩トス二字添テ初テ

佳句トナレリ又杜審言ハ杜甫カ祖ナリ
縮霧青條弱牽風紫蔓長ト云クアリ
又子美カクニ林花着雨燕脂落水行牽
風翠帶長ト作ルニ夕審言カクニ
寄語洛城風月道明年春色倍還入
ト云フアリ子美又傳語風光共流轉暫
時相賞莫相違ト作ルモ點化ト云モソ
又古人ノ一ウヲトリ一聯トナセ點化
モアリ盧仝カ詩ニ艸石是親情小山
作友朋山谷コレヲ取テ香艸當姬妾ト作
リシ類コレ多シ又古人ノ一首ヲ作リカ
ヘテ精彩ノ愈生スルモアリ徐陵カ鴛鴦
ノ詩ニ山雞映水那相得孤鸞照鏡
不成雙天下真成長會合無勝比翼兩
鴛鴦ト云フ山谷又點化シテ画睡鴨詩
ニヨク山雞照影空自愛孤鸞舞鏡不
成雙天下真成長會合兩鳥相倚睡秋
江ト取カヘタリ此体ハ宋朝ニハヤルソ韋蘇
州カ野渡無人舟自橫ト云フク冠萊
公ニウ三點化シテ云ク野水無人渡孤舟
終日橫トセラレハ點化ノ法ト見ユソ又
山谷カ老色日上上面歡襟日去心ト作
是本白樂天カククヲ點化シテ情ノ字ヲ
驚ト改ムルト云ヘ此點化トハ見ヘス如何ト

ナレ情ノ字ヲ驚ト改ムト何ノ奇特モナシ
同更ナレ別ニ點化シタノモ見ヘス偶山谷カ
樂天カ作ニコレ有ルモ覺悟セヌクヲ作リ
タルナルハ點化ノ仕ヤリニモ種々アリ一
様ニ思フヘカラス翻案點化ハ畢竟詩
ノ即ケナリト思フヘト元來ノ翻案モ點
化モ假ラヌ吾カ性靈ノ中ヨリ直ニ寫情
ヲ時ノ境ニ任セテ寫セヨト出スハ好ムト
コレト數千百載ヲ經テ多ノ詩人一世
ノ凡ニ作ル詩ハ限量ナケル是ヲ古キ集
ニ考ヘテ陳腐ナラフ趣向ニ思ヒヨル稀
ナリ皆人ノ跡ヲ踏キテ作ルニナリ然
ルニヨリ古人ノ詩思ヲ翻案シ古人ノウ
ヲ點化シタカ却テ新意ニ聞ユルソ
今ノ世ニアリテ新作珍思ハ希有ノ
ナリ何レノ詩人カ作りタレトテ古
キ詩ノ範圍ヲ出ルナシ異朝ニテモ
山谷ヤ陳簡齋ナトカ別ニ機軸ヲ出シ
作りテ古人ノ塗轍ヲ踏ニス新格ヲ作
リ出セシナリ故ニ江淹ト云テ後世一家
ノ祖トセリ東坡モ當世ニテハ第一ノ詩人
ト山谷ヲ評セシナリワレサハ點化シテ古
人ノ詩ヲ用ルルヲ多ク混ヤ其以下ヲ
縱令作ハ新シク格ハ珍シキヤウニ作り出

レタルト思フモ後ニ見シハ皆古人ノ第二義ノ
誕シテ嘗ルニテソ新奇ノ境ニ覺悟アルヘシ
常ノ作ノヤウニテモ新思アル詩多シ是
レ第一ノ工夫ナリ凡ソ人ノ未タ言ハサシ
テ作ルト云ハ假令ハ雁ノ詩ヲ作ルニ杜牧
之カ 仙掌用明孤影過長門灯暗
數聲來ト作り又歐陽公ノ詩ニ
野岸柳黃霜正白五更驚鳥破客愁眠
ト作ル何レモ雁聲ノ幽然ナル愁思賦シ
得テ奇ナリ然トイヘト每首此ノ趣ニテ
ハ早人ノ跡ヲ履ニ似タリ後千陳后山
ニ至ツテ但云フ遠道勤相喚羈旅誤
作愁ト作りシガ此ノコトク云テ始テ沿
龍衣ヲ免レニ又海棠ノ詩ハ昔ヨリ作者
多テ實ニ新作ナシ陸放翁カ蜀ニ居
リシ時一絶クアリ 蜀地名花擅古今
一枝氣可壓千林譏彈更到無香處
常恨人言太刻深 此ノコトク作りテ
初テ精妙ナルリ此等ハ常古又シ翻案
シテ新ニクナリト意ハ人ハ雁ヲ聞ケハ
是非ニ羈旅ノ愁怨ナル情ヲ述ント思フ后
山ハ打カヘテ云フ海棠ハ世人香ノチキヲ恨ト
ス放翁ハ此ノ花ノ名アルハ艶麗ナルコト賞
讃ナレ香ノチキ處ニテヲ求テ花ニ難ク言

ヘル人ハソレサヘ恨ニ思フトナリ新思ト云フテ
世ニ替リタルヲ云フニ非ス此等ノ趣思ニテ
了悟スル古事ヲ作ルニモ皆翻案アリ
李商隱ガ 可憐半夜虛進席不問蒼
生問鬼神ト賈誼カコト作り林和靖
ノ茂陵他日求遺藁猶喜曾無封禪
書ト作りレシト此レ皆意ヲ反シタル用
ヤウナリ是ヲ古古又シ翻案シテ前人ノ
陳迹ヲ踏メ者ソト古人モ評セリ

○詩ニ有換骨奪胎說

詩ニ換骨奪胎ノ法アリ此ヲモ辨フベキ
ナリ古人ノ跡ヲ踏ハコクナリ新思ヲ每
度作ラントセハ何タル詩人モ及フミ佳ク
敬言策ト云フハ偶々ノ事ソ然ルニヨリ古
人ノ詩ヲ點粧シテ或ハ換骨シタリ或ハ
奪胎シテ己レカ作トナセリ是又一新
然レ凡功者ナラテハ字ニ得カクシ強テ好
ムニモ非ス時ニヨリ題ニヨリテ偶々有ル
ナリト知リメレシ黃山谷カ曰ク不日勿其意
而造其語謂之換骨法ト云ヘルトキニ古詩
ノ心ヲハ疑日ガシテ語ヲ替ユルナリ或ハ李白
カ詩ニ鳥飛不盡暮天瑤石ナリト云フクシ
取リテ山谷カ連觀臺ノ夕ニ不知眼界
闊多少白鳥去盡青天回ノ類ニナリ

是モ古人ノ心ヲ借ルト言ヒナカラフ白鳥カ
飛盡テ本來ノ青天ニ回リタト云フ趣向
トスレハ新意アルナリノ同シ義ニハ沿襲
ト云モノ、骨ヲ換ルト云フ字ニ付テ了簡ス
マシ奪胎ト云ハ山谷カ曰ク規摹其意而
形容之謂之奪胎法ハ古人ノ心ヲ本メク
ノ形容ニシテ以ツ心ノ替ルヲ云フ樂天カ
詩ニ 臨風抄秋樹對酒長年身醉貌
如霜葉雖紅不是春ト云フ取リテ東坡
カ 兒童誤喜朱顏在 一笑那知是酒
紅ト作レハ類ト是ナリ又庾信カ月
ノ詩ニ 渡河光不濕ト云フ夕夕杜甫カ
取リテ 入河蟾不沒ト作リ李涉カ
因過竹院逢僧話又得浮生半日閑ト云
夕夕トリテ東坡カ 慙慙昨夜三更雨又
得浮生一日涼ト作レハ類ト揚誠齋ハ
奪胎ト云ヘリ畢竟換骨ト奪胎ハ同シ
ヤウナルソツ何モ故人ノ句意ヲソノニ取
ルニハアラズク意ヲ換ヘズシテ取ルトキハ
剽竊トシテ大キニ嫌フソ古詩ノ心ヲ打カ
ヘテ裏ト表ニ言ヒカユルヲ翻案ト云ヒク
カヘテ其ノ意味ハ有ナガラフ少シ心ノ替リタル
ヲ換骨奪胎トスイツレニテモ古詩ヲ以
シ改メテ却テ本詩ヨリ好ナルヲ點化ト云

換骨ヤ奪胎ナトモ皆點化ノ法ト知ルベシ
其内ニ換骨トハ骨ヲ換ユルト云ム骨トハ古
人ノ句作意趣向ノ本トスル所ヲ云フソシ
テ一轉シテ換ルヲ換骨ノ法ト云フ奪胎
ハ胎ヲ奪フト云ム古人ノ趣向ノ句中ニ在
ルヲ胎ト云フ人ノ子ノ腹中ニランガゴトシ
ソレユヘ古人ノ趣向ヲカヘズ唯句ヲ點化シ
格ヲ取り換ヘズト云フ改易シテ置テ奪
胎ト云フ似タルナレド相違アリナリ
○詩有踏襲剽竊說
踏ハフムト云ム襲ハソソウト云ム古人ノ跡ヲ
フニテ其クソソソト取ルヲ云フ古詩ノ花ノ
趣向ヲ月ニカヘ雨ノ作意ヲ雪ニ易ヘテ己
ガ詩トスルノ類ト云フ剽竊トハニノアリ
ト古人ノ詩クソソ盗ナルヲ云フカヌメヌムト訓
セリ踏襲ト剽竊トハ是モ同類ナレ其内ニ
少シハ替リ有ルマシ偶ハ自然ト古人ニ似ル
フモアリ又ハ古人ノ作意ヲ述ベテ作ル
モアラシ然レハ點化ト謂ツヘシ似テ然ル
ト多シ前ヘハ何孫カ孫氏ノ廟へ行テ
題セシ詩ニ 山鶯空樹鄉言壠月自
秋暉ト作リシニ後ニ子美武侯ノ廟カ詩
映階碧草自春色 隔葉黃鸝空好音
ト作レハ是自ト空トノ字ノ出處ソ又庾信

カクニ白雲巖際出清月波中生スト云
有り後ニ子美カ薄雲出石際宿孤月浪
中翻ト作ル又陰鏗ガクニ鶯隨入分樹
花逐下山風ト云有後ニ子美月明垂葉
露雲逐渡溪風ト作リ又使信カクニ
永舞三足劍長捲一戎衣ト云フ有リ後ニ
子美ガ風塵三尺劍社稷一戎衣ト作ル
按スル此ノ類ハ古人ノ詩ニ甚タ多シ後世
ニ評スト云ハ實ハ知リカクシ何トナレハ此ノ
コトクニ古人ノ詩ヲ暗記シテ摸擬セント云
フニ心ハアラシク偶然ナラシ古詩ヲ壯年ニ
讀誦シテ記スレ後ニ遺忘シテ時ニ得ル
夕ノ自己ノ詩ト思フナルハ少クノ工夫
アレバ點化トモ踏襲トモ云カクシ古人ノ
詩モ多シ自身ノ詩モ一生ノ間ニ作ルハ
數ヘモ盡スヘカラス偶ハ古人ニ似タル又
古人ノ全クヲスルモアラフ子美ホドノ作
者ハ古人ノククヲ踏ニヤウモ襲ハヤウモ有
ヘカラス盜竊スルハ拙キ者ノ古ナリノ余
少時好テ詩ヲ作ルニ古人ノククヲ侵スル
ナリ然レトモ人ノククヲ盜ニレ侵サニ心ヤク
ニシテ偶々此ノ如キアリ古人ト云フハ又然
ラニ強テ論スベキアリ非ス唐ノ詩人賈至
カ詩ニ 柳色青青柳色黃 桃花歷亂李華

香 春風不解吹愁却春日偏能惹夢長
ト作ル後ニ宋朝ニ至リテ山谷カ作ルト云
集ニ入タルアリ 歷亂ノ零花トシ夢ヲ恨
ト云字ニ作ル山谷カ賈至カ詩ヲ點化シ
ト評スレ是モ右ニ論入ル如キリ 歷亂ノ零
花ト改メ夢ノ字ヲ恨ト改メト云テ別
ニ替リ義メナク山谷カ又ナリ 山谷光テ
忘失シテ賈至カ詩ヲ吟出タルハ又ハ
扇ヤ小紙ニ此詩ヲ書テ下ニ魯直書ト
アルヲ見テ後人山谷カ詩ト思ヒテ集ニ
書入ルモアラフ 漁隱詩話ニ顔持約ト云
人画ル墨繪ニ杏花アリ 末後ニ小詩
ヲ題シテ持約ノ二字アリ 項間唐宋類
詩ヲ開ハ唐ノ羅隱カ作ナリ 乃チ持約
竊メリト其ノ詩ハ 暖氣潛催次第春梅
花已謝杏花新半開半落閑園裡何
異榮枯世上人ト書タリ 此モ評ノ謬リ
ナラニ元來羅隱カ詩ヲ画ノ末ニ書タルナ
ニ終リニ繪者ノ名ヲ記セント持約ノ
二字ヲ書タリ是ヲ竊メルト云ヘハ非アラフ
漁隱ハ自画自題ト見シユヘナリ 古人ノ
詩ヲ画ニ書ハ常ク又アリ却テ漁隱ノ疎
卒ナルハ又詩人王維サハ李嘉祐カ詩
ヲ竊メルト云評ハ誤リナラニ此ハ漢々陰々

トノ二字ヲ添テ點化シタルヲ盜三ハ派ス
偶々夏木ニ黃鸝ノナキ水田ニ白鷺ノ飛ツテ
見テ嘉祐カ詩ヲ記シテ點化セシナラニ
夏木ハ陰々タルト云ハニ形ハ見ヘ子氏黃鸝
ノ聲スル跡ヲ形容シテ二字ヲ加ヘ水
田ハ漠々トノ無邊遠スニ白鷺ノ飛ツハ奇
景ナルト心ニ三ノ二字ヲ加ヘナリ此重字
ニテ形容シカク景ヲ寫シ出セリニ夕
夏木轉黃鸝水田飛白鷺ハ詩家ノ童
子ノ多ナリト云ヘリ熟思スルニ王維ナドノ
詩人カ他人ノ多クシ維カ點化セト思フ
心ハ非ジトシテ盜三ト思フ心ハナカルナリ
此景ニ適テ此詩ヲ作ルナラシ詩就
テ後タトト嘉祐カ詩アリハトテ改ルニ
及フベカラズ此説ハ縱然子美王維復
生スレ余カ詞ヲ易ヘシ但シ又アカ儼心
ニヨリカク思フニヤ多ク詩ト家ノ自亦
シ探リ見シハ同類ノ多ク何程モ此レニ
皆此レシテ沿襲トセニヤ盜三ト云ニヤ
縱令ハ夏木不黃鸝水田白鷺飛ト云
ク敬言策ナラハコリ此トキ平々ツテ賞ヘテ
取ラニヤウナシ僧惠崇カ古人ノ多ク
取テ其徒弟三朝ケラレテ河分田
熱司空曙春入燒痕劉長卿不是師

凡多ク犯古古人詩多ク犯師凡ト云コ
ハ皆古人ノ名アルヲ取テ此ノコトク
嘲テ受シナリ此例ヲ子美王維ニ引ニ
一ハ謬固ナルヘシ標竊ト惠崇カ輩ノ一
昔ノ王元之カ意思アルヲ可ト謂ツヘシ王元之
本ト白樂天カ詩ヲ學フ高州ニ在リト時
春日雜興ノ詩ヲ作ハ兩株桃李映籬
斜牀點南州副使家何事春風容不得
和然鳥吹折數枝花ト云ヘリ其子嘉祐
カ云ク杜子美ノ句ニ恰似春風相欺得
夜來吹折數枝花ト相似多ク請改メヨ
ト王元之欣然ト云ク吾カ詩ノ精語ハ
暗ニ子美ニ合ルカト因テ詩ヲ作テ云ク
本與樂天為後進敢期杜甫是前身
ト遂ニ改易セストアリ此尤ナク意思アリ
沿襲セト思ハズ沈案ニテ作り出シタラ
ハ假令古人ノ句ニ似タリ改メ及ニシキ
ナリ左ハイナカラ古人ノ句ニ似モ毎度
ノ義ニモ非ス一生ノ間ニ三兩度ニ過クベ
カラス敬言策名言ヲ竊ニハ罪輕カラス
比興ト云ツヘシ點化ト云ハ功ヲ積ミタル詩
人ノ然モ奇才秀發ナル質ナラテハ及フ
ニシテ翻案ハ誰モ作ルヘシ時ニヨリ席ニ
ヨリ何ナク詩人モ才ニ限リテハ毎々逸作

モナケレハ古人ノ詩ヲ思ヒヨリテ翻案
スルヲ作トセハ常ノ一ナリ況ニヤソヨリ
以下ノ者ハ猶以テ古人ノ格ヤ古人ノ
作ニヨリテ著述セ子ハ詩ハ出來セヌ
ソ只巧ナルト拙トノ間ニアルノ一際ニ
論スベカラス

○春日摠論

春ハ四時ノ始ノレハ鶯ノ声ノ花ノ色他ノ
時ニニサレリ山川モウキカスミテ煙景
モホノカナルヲリフシナレハ詩人ノ吟詠
モ最モ多ナルヘシ然レハ初冬ノ人春ノ
詩ヲツクルニシト思フニ何ト云ベキソト
詩ノ意ノ趣向出カクシ然レニヨリテ古
人ノ春ヲ詠セシクシテ春詩ノ
趣ヲノブルナリ早春ハ春ノ始ノレハ餘
寒アリテ花モイニクモコウサス鶯モ
轉イニダナラフヲナラフ意ヲ作ルヘシ古
詩ニ日寒未放林鶯至風暖先吹海
燕來詩ノ意ハ餘寒モ甚シクハ日ノ光レモ

寒クテ林鶯ノ至ルニユルサコソサレ上モ
春ノレニルニ風暖カニ吹テ海燕ヲ來ラ
シムルソトナリ此ノニクハ春ハイニク淺
クハ鶯ヲキカ子トモ燕カハ來リタルト
春ノヲトツレナリトヨロコビタル意ニ見レ
ヘシ摠シテ詩ノ如シ此ニルヘシ或ハ
初陽弄色明高柳殘雪印寒伴落
梅此ノ意ハ朝日カ出テ夕レハ日ノ光リ
モ冬ニカワリ高キ柳ヲテラレテ明カ
ナリ此レモ春カ此ノウラハ日影ツ
モテアソヒテ人ニテラレ見スルト云意
ナリサレハイニク殘雪カ余寒ヲ留メ
テ梅花ノケルニトモフヒ落ルカトニル
此レト人早春ヲ詠ズルナリ仲春
ハヤウク春モ深クナルニシタガヒテ翠
柳紅花モ色々ニクニシタガヒテ翠
白詩ニ千里鶯啼綠映紅ト作レリ
吾意ハイツクニテモ春ニナリテ千里ノ
外ニテモ鶯サイツリサレモサキニタレテ
柳ノ緑ニ紅カアイジウツロフト云フナリ
此意ヲ趣向トシテ花柳ヲアリサス
ヤトレハ或ハ古詩ニ誰將細雨催
芳籟却飛東風淡柳絲芳竹句トハ
アレノメガヒナリ詩ノ意ハ誰カ細雨ツフ

ラセテ草ノ芽ヲモヨホシテ生出シメタ
ルリ此ノミカ柳ノ絲ニテ東風ヲ用ヒテ
緑リニ漆タリト云フノ語ト云字却ト
云字ハ疑ヒタル詞ナリ芦モ柳モ常ニ
見テ居ルモノナリイッノニヤラサニ
メサシ出テ柳ノ絲ミトリシタレタヤ
フボヒサリシトナリ此ハ春ノ深クナリ
ユクフク春深ト云ハズシテ二句ノ意
ニテコトウセタリ此詩作ノ風流ノ所
ナリ如是コトロヘニクフ作ルハ晩春
ノ詩ハサレニナガリ惜ヒ鳥ニ心ヲナヤス
戀シ情ヲ深ク作ルハ古詩ニ
戀樹殘花濕不飛楊花雪落水
生衣此春ヲオシム意ナリ此詩ノ心
ハサレモ我カ如ク春ノ別レシカサシム
ヤラニ散ノコリタル花ハヌレテ樹ニトリ
ツキテ千ツシテシラント見ヘタリ暮春
ノ景オシハ楊花ノトブハウラミアシドモ
雪ノコトクニ散ルハ詩人ノ一景トナル
サレバ千リハテハ池水ノ衣ニナルカリ
ソ益ノナキナリ此ノ意ハ春ヲ惜ムト
イハズシテ殘花ノヌレテラキヌト楊花
ノトブニテ春ノカヘルヲカサシム意カ
見ヘタリ詩作ハ何事モ其コトナリ

ノニニイワスシテ意ヲシワシラ作
ルヲ婉曲ト云フ第一ニスルコトニ
ヨリ見タル處ヲ其ニ言フハ
ソ古詩ニ村園門巷多相似處々
春風柳絮サレ此意ハ友人ヲ訪フテ
其ノ家ノアル處ヲ見シハ田舎ノホド
ニ友人ノ家モ民家同前ニ屋ツソリ
相似テサテカワリタル名サレ音木モ
ナク處々ニ柳絮ノ化カ春風ニ開キ
タルニテナリト云フ意ナリ此ハ隱者ノ
モノズキニカモワズシテ世ヲスレタルヲ
ホメタルナリ見ル處ヲニツクニ作リタ
リ或ハ月落鳥啼霜滿天江楓
漁火對愁眠見ル處ヲスグニ作ルソ
句作リテニツクニ作リテ内ニ情ヲ
含ム第一ナリ春色春夜三月盡
此等ノ題モ同意タルハ大意ヲ後
ニ録スハ古來ノ詩人ノ用ヒ來ル語
ナリ初學ノ詩人ハ此語ニヨリテ
趣向ヲ起シ大意ニ文字ヲ足シテ
一句ヲ作ラシメシタメナリ初學ノ人
ノ詩ヲ作為スルハ口訣ハ熟語ノ題註
ニクワレク記セリ若見ルセ

春日揔意 梅沾雨 冬ヨリ残りタル梅花又春雨ニウルホナリ

柳展風 柳ハ春ヲ得テ東風ニ芽サシガフルソ 氷解魚躍 東風ニ氷トケテ池水ニ魚オドリ

池水 風和鴈歸 春風ニ陽和イタリ 暖ナレハ鴈モ北方ヘカ

へル 春水來 春ニナレハ必澤モ 夕陽遲 春日ハ永日

ナレハ夕陽ニナリ 一樣翠屏 春ニナリ草不モ 齒テ山ハ翠ノ

屏風ノ 山着色 山々ニ青々タル 杏欲飛 杏花ハ早ク

如クソ 梅綻玉 梅ノツボミタルハ玉 柳搖金 柳ノ葉ニ

咲ナレハモハヤ 柳揺金 ノホコロブヤウナリ 柳揺金 柳ノ葉ニ

如クワカメシノウギキ出スリ 日光媚 天気ノウルハ

日色和 シキノウウラ 雙蝶飛 ニツクワフレル 蝶モ春ニトビ

リグ 鶯自轉 春ヲ得テ鶯 花醉露 花ニ露 柳眠風 柳ハ春風ニ枝々

枝ニヲモキボト露 柳眠風 ナヒキテ子タル如ク 暖風遲日 日モ永キソ 芳艸名花 常ニハ

春ヲレハセ芳艸ハカフバシク 柳條疎瘦 春ノ初

名花ハアラハレ花サクソ 春寒大意 春ノ初

冷雨疎風 餘寒ニミテ雨モモヤ 花遲柳困 花モ

餘寒ニサヘラレ柳 桃李無言 桃李カコウケハ美

モクルシモテアラシ 蜂蝶有根 花カソソキホドニ蜂 鶯不

カヌソ 蝶慵飛 甚タ寒ニミナレハ 春信遲 餘寒ニミテ

寒威逗 トニリアル 春睡春愁 春萱花カソソケレハ口ハ子

レヨリ 暮春大意 綠暗紅稀 春モ暮ニテハ樹ハ

ラクサ花ノ紅 落花飛絮 花ハ千リ柳絮ハ風

井ハミナルリ 鶯老花殘 鶯ノ老テ声ヲ止ントス

鶯モ老テ声ヲ止ントス 蝶怨蜂愁 花千リ

此花モ千リハテ止ントス

此花モ千リハテ止ントス

啼鳥數聲 春モヤガテ歸ル鳥 水送殘

花 水カ殘ル花ノチリタルヲ流シ 烟迷綠樹

樹 色カアミリレダリ 揚柳風榆莢雨 此ノ

ニ一烟トミヨウトナリ カヲハ柳ニ風カサツク 一声啼鳥 花落

ト吹き榆ノ花ヲ雨ガフリヨトス シケレハ鳥モ時々 春林着雨野水漾 化

一 声ノミキクソ 望窮芳艸 イツクノハ

ニハ雨レケクフリテ林ハ ウルホト野水ハ花ヲ流ス 望窮芳艸 ニテモ

ニテモ艸色アリト云 愁入東風 春夜大意

夢覺燈殘 春夜夢モサオノ灯モ 月白花

香 一夜フケテ月ノ光ハシラ 花月柳邊

風 花ノ上ニミレハ月モ一入ヲモシロシ 胡蝶夢

杜鵑聲 春ヲ惜ユヘニ夢ハ胡蝶トナリテ飛ト

熟語 初字ノ詩ヲ作りナラフ其モト井ハ此

熟語ヨリ入ヘシ熟語ハ外ニ求メ

テ加ヘテ知シムルナリ 一々ノ語ノ勢ニ或ハ一

夕ノ中ニ二三字ノ照應ヲ考ヘテ知ニテ

今ト童字ヲ教ヘハ古詩ニ

行盡江南數十程 此夕人語声ヲ

見盡東山千樹花 吟盡秋山千樹紅

雪壓江南數十峯 如此ニ語声ヲカリ用ユヘシ四時ノ景ト事物ニ

ヨリテ大上意ノ文字ヲ用ユヘシ情ヲフルニハ

一声過雁西風急 不帶書來却帶愁

此詩ノ大意ハ我夫ノレロコヒシク思フヲソリフシ

一声雁カ西風ニツレテキコユガ夫ノ書ノヲト

ツレハ世帯ズシテ却テ愁ヒシヲ帯テ来リタ

ト云ヒ意タリ此意ヲ以テ早春ノ詩ヲ作ルハ

如是作トナリ語勢ハ圈点ヲヨクク意得ヘ
シ先ツ古詩ヲ熟讀シテ大意ノ文字ヲ能
ク意テ入テ作為セリ漸々ニ好處ニ至ルヘシ熟
語モ難澁ノ語ヲ初學ニ見ヘカラスロ古人ノ
平和ノ語ヲ讀ナラフヘシ此集ニハ熟語常
ク吟ビボロテ作ルセシ

漸老逢春能幾回 杜甫

漸々老テ毎春ニ逢フハ能ク幾回カア
ラニ今ヨリハ春ニ逢フハイクホドモアルニ
トナリ能ク幾回トハ必キヲ言ナリ知幾回ト
云時ハ多キヲ言ナリ

半篙春水一蓑烟 黃春伯

春水ト烟ト半ノ字一ノ字ニテニワシ作ル
春水ハ生シタレトイテ舟ノ棹ニ半バカリナリ
水烟ハ一ツノ蓑ニ滿ルホトナルヲ云フト意ソ

風吹燕語落簷間 劉季孫

此句ハ吹落ノニ字ヲ分テ用タリ風カフカ子
コエタルナリ

春浮老瓦酒新篘 黃魯菴

春ハ酒ノ溫和ナル徳ヲホメテ云ソ老瓦ハ
フルキモタヒナリ此ノ句酒熟シテ春ノ如ク
溫和ガモタヒニウカミタルホドニヨキ時分ソト
酒ヲレボリタルトナリ下ニ酒ノ字アルハ上ニソ
ノ徳ニテ春ト用ヒタルソ体用ノ格ナリ

老爲春晴動賞心 姚雪蓬

動ノ字ハツヨク用ル字ナリ此句ハ年老テハ春
ヲ賞玩スル心モ漸々ウスクナリテ動カ子ハ
何トテカ老ニ年ナレド春日ノ晴景ニ賞愛ノ
意カ起リタルトナリ動ノ字催賞心ト云ヨ
リツヨキナリ

小院無人雨長苔 杜牧

此句意明ナリ小院ニ人ノ往來ナクハ踏ア
ラヌモノナクニ雨カ日々ニ苔ヲ長スルソ長ノ
字ハ無人ノ字ヨリ来ルソ

柳橋晴有絮沙路潤無泥 白居易

柳橋ニ晴タルユヘカワキテ柳絮風ニ飄テアルリ
沙路ハ少シウレホヒタレト泥ナキホトニ行樂ヲ
キトニ時有幽花一樹明 蘇子美

野草ノフカキ中ニ幽花一株明カニアルト

云意ソ摠じて花ノ明カナルトハアルニジキ処
カ又ハ深キ処ニアルサ化ニ用ユルナリハキト見ユ
ル上意ソ

上ロト又

大昊執規 大昊ハ東トカヲ主ル神ソ規
ハノリトヨミテ權柄ヲ云ソ大
昊執規ノ權ヲトリテ花ヲサガセ鳥
ヲ轉セナドスルヲ規ト云ソ

倉庚 倉庚鳴 探春宴 遺事

倉庚ハ鶯ノ科ナリ詩經ニ倉庚鳴トアリ探春宴 遺事
春日載陽 倉庚鳴トアリ

二都ノ人正月ニハ車馬ニノリテ野邊ニ出テ酒宴ヲシ遊フヲ探春宴ト云ク

遊ノ遊宴ニ油暮ヲ用ヒテ雨ヲシノギトシ

一刻千金 東坡カ詩ニ春宵一刻價千金ト作

長繩繫日 李自カ惜餘雪ノ賦ニ出シリ

以テ日ヲツナキ 萍始生 礼記月令ニ三月

上ニ生ト 青陽謝 青陽ハ春ノ初ヲ謝スハ

ニ出 榆莢雨 初學記ニ二月三月ノ

紅酣 李自カ詩ニ緑戦紅酣別ニ是春トアリ

花モ緑リモ末ニ 春服成 論語ニ出タリ春ニ

薄キ衣ヲコシラハ野邊へ出テ遊ブト云

○上ノ詩 早春 韓退之

天街小雨潤如酥 艸色遙看近却無 最是

一年春好處 絕勝煙柳滿皇都

二ノ夕言ハ早春ノ日都ノ十二街中ヲ見渡

其春ノ和氣ニ催サレテ小雨ノ潤ニ

此詩第二ノ句 喜ハ草芽出テモ近ツテハ

無シト云ハ草モ生出テタルニシテ

作リテ早春ヲ知セタルナリ 詩ヲ字フ

者此ノ如クハ心ヲツクヘシ 醉ハ酪ノタリ

金爐香燼 漏声殘 輕風陣々 寒春

色惱人 眠不得 月移花影上欄干

一ノ夕ハ今夜禁中ニトシテ夜モ漏クシ

ハ金爐ノ香モタキスサミテ灰トナリ漏水

落テ声カ終ラントスルノ曉キナリテ余寒

ハナハタシクテ剪々タル風カ一陣々吹テ

カニ覺ユルナリ 三四ノ夕言ハ春色ノ面白キハ

却テ人ヲ惱ミテ 春ノ夜ヲ曉ニテモ眠

ラセヌソコニ夜モフケテ月モ西ニ傾フキ

ト見ヘテ庭中ニ見ヘシ花影カ欄干ニテ

タルリ 此時分ニ月ヲ見花ヲアワシ

子ムラセ子バサテ春の色惱入ト云ソサ化影
カ月影ニテ欄干ニ上ルヲ愛シテ眠不得
トハ見ルベカラス其レハサカシメノ見ヤウリ前
タリサツト吹ナリ陣タハキリト吹ツル

春日閑坐

劉禹錫

官曹崇重難頻入第宅清閑且獨行
塔蟻相逢如偶語園蜂速去恐違程
人於紅藥偏憐色鶯到垂楊不惜聲
東洛池臺怨拋擲移文非久會應成
此詩ハ劉禹錫ハ東都ノ人ナリ都ニツクテ
後ニ朗州ノ司馬ニ左遷セラレタリ此詩ハ
朗州ノ作ナリ結句ニ移文トアル故也昔
レ周彦倫カ鍾山ニ居テ世ヲ避名高キ隱
サナリレニ後ニ官ニツキテ朝廷ニ出タリ人
ミナ此ヲソシレ其後周彦倫上海鹽縣ヲ
カヘ道ナレ昔ノ鍾山ヘ立ヨリテ甲跡ヲ見
ントシタヲ孔稚圭北山ノ移文ヲ作ル其
文ノ意ハ周子昔レ此ノ山ニ隱レテ後ニ祿
利ヲ貪リイニ又山ヘカヘ凡山神ガ山谷
艸木ニ令ヲナレテヨセニキト云意ソ丈ニ
カヘタルソ一ニノウ言ハ我レ朗州ノ司馬ノ
官ニテアレハ守護ノ如ヘ行ント思ヘ凡下司
官曹アリタアレハ崇重トハナダツモクシキ
体ナレバ頻リ入ラカタクソ○然ニヨリ第宅

ノウケノ清閑トシツカレニ閑坐シ且又塔
ヲ下リテ園庭ヲ獨リ吟行スルソ三四ノウ
ハ閑坐ニテ見ルノ實者ヌソ偶語トハ相對シテ
物ニツクソ程ニ違フトハ約束ノ時分ニツク
ソリ言ハ閑坐シテ塔下ヲ見タレハ蟻カ往
来スハ互ニユキ逢テ相對ノ語レヤウナリ
○又園中ヲ見レハ蜂カイソカワレク飛ソ設
ヘハ使者ナリノ路ヲイソヒテ約束ノ違ハマ
ヤウニトカセグニ似タリ五六ノウ我ハ閑坐
シテ庭前ノ紅藥ヲ偏ニ面白ク思ヒ
○鶯ハ垂楊ノ中ヲ愛シテ声ヲラレズ
思フニニナクソセハノウ言ハ我カ第宅ハ
故郷ノ東洛ニアリ其面白キ池臺ヲ拋
擲トスニハ官ニツキタル今思ヘハ思ヒ
フリ○我モヤガテ官ヲヤメテ歸ルハ然ラ
ハ東洛池臺ノ山林カ移文ヲ作リテ吾
ヲ東洛ヘ入レシキト云ハ久シキコトニテハ
追付移文モ成レトナリセハノウ言ハ
トテモ東洛ヘ歸ルベキト云意ヲ故古ニテ
作リタルソ

○夏日摠論

夏日ノ作ハ初夏ハ村々モ緑樹陰ニシテリ
テスニキ景ノ気ヲ作り或ハ池水ニ荷葉ノ
小サキ錢ヲ浮ベタルコトクハアリ柳ハ繁ヒ
テ風ニ舞アリサニ梅ノ實ナトモ熟シ石櫛
花モ園ノ紅井ヲアラハシ或ハ竹林ニ筍出
ルヲナト綴ヘシ夏ノ景ハ大佳此ノ趣向ノ外
ナシ夏ノ夜ヲ詠スルハ野草ニ螢火ノ火ヲ
トホス早ホク或ハ月影ノスニキヲ愛シ或
暑クスノハナクシキヲ作ル苦熱ノ詩ト云
此ノ詩ヲ作ルハ緑樹ノ下ニテ涼シキ影ヲ
モトメ岩ホノ上ニ坐シテハ清キ泉ミテ愛シ
淡キ流ヲ渡ル此皆夏ノ景ヲリニノク景
ヲ作ル三四ノクハ寫意ノクト云テ情ヲシ
ソニノクニ情ヲシテ三四ノクハ心ヲ相
早景ヲノビテトムルナリ古詩ニ梅子留酸
軟齒牙芭蕉ハ分緑上窓紗日長睡起無
情思閑看兒童捉柳花此詩ハ楊誠齋
初夏ノ詩ナリ言ハ初夏ノコロ花モ千リテ
ナク鶯鳥モ声ニシナリ風景モ夏ニナリテ
庭前ヲ見ルハ只梅實カ酸キ味ヒテ留テ
其コヲ見ルハ我カ齒牙モウキタテテ軟ニテ
ルヤウニ思ワレナリ留酸トハ梅子カ熟セテハ

甘クナラスレテイマタ酸ヲトシタルト云フソ
ニノクハ芭蕉ノ昔カ大ニコロリテ緑ノ色ヲ
ウツシハクツテ窓ノ紗ヘトスナリハ分緑トハ
昔カノ色ノ緑カ窓ニウツロコテ紗ニテ緑
ニ見ユルト云フナリ此ニクハ目前ノ早景ヲ
ノベタリ三四ノクハ言ハ夏日ノ長サニナスワザモ
ナシ長クトヒル子ヲヒテ睡サメテ起タレトモ
ナニノ面白キ情モナシ閑ニ見ルモノトテ兒
童ノワラハカ柳ノ花ノカナタコナタヘ風ニテ
リ飛テ追カケテ走りニワルヲ見テ一興ト
スルトナリ此ニクハ情ヲノベタリ又杜翁
カ詩ニ腸断春江欲盡頭杖藜徐步立江方
洲顛狂柳絮隨風舞輕薄桃花逐水流
言ハ春ノ回ルヲオシミニテ腸断ニテ春江ノ
盡ルホトリニテノゾミテ居リサテ杖藜ヲ
タツサヘユルカニ吟歩シテ芳草ノヒゲリ光
洲崎ニ立テ早景ノ色ヲ見ルソ此ニクハ春
ノ回ルヲ惜ム情ナリ三四ノクハヤウク初夏
ニ近ツケハ顛狂トモグダルワシク飛柳花ハ
風ニシタカヒテ舞ヒ輕薄トカルクウスキ
桃ノ花ハ水ヲ逐テ流ルゾ此ヲ見テ愁
ヲ散スルトナリ此ニクハ目前ノ景ナリ如
此ニ作ル詩モアリヨク吟詠シテナラ
フベシ又四クトモ早景ヲ作ルモアリ可馬温

公初夏ノ詩二四月清和雨乍晴南山當
戶轉分明更無柳絮因風起只有落
花向日傾ト作レリ言ハ四月ノ日天ノ清
和ニテ雨モサツハリト晴レタレバ南山ガカラム
カニ當リテウタハ分明ニ見ユル此目前
ノ景ナリ三四ノ夕ハ言ハ夏ニナリタレハ
柳ヲ見レバ風ニヨリテ起ル花モナレト之
時分ノ物トシム只葵ノ花ノ日ニ向テ傾ク
ヲ見ルハカリソトナリ己上ノ三首ヲヨク
意ニ味テ法トスミレ撫ノ景ヲ云クニモ情
ヲ含ムメシ情ヲ云クニモ景ヲ含ムメシ情
景ヲ相兼テ作レハ好詩トナルベキナリ
夏日撫意 山果熟夏ニナリテ山木ノ
コノモモ熟スルソ

水荷香池水ノ荷葉 初長筍竹林ニハ
モ香ハシクスルソ ヤウク

筍モヤウク 起寒烟青草ニスレキ 綉緑ヌモノス
生長スルソ 烟カフコルソ

茵青草ノ緑カ茵ソ 梅正黄梅子モ
メヒモノシタルヤウナリ ヤウク

熟シ黄 風自涼夏モ少し火天ニナリ 繞
ナルソ シレト初夏ニハスレキソ

擔密葉緑葉ガシゲリ 覆水青萍水
合テ擔ニ滿タリ 覆水青萍ニハ

青萍ガ生シテ水 池中緑滿池中ニモ
面ヲソホフタソ サカカ生シ

テミドリカ 水由白鷺初夏ニハ水アタカ
ミキタリ ナレハ白鷺モ立テ

魚ヲウカ 夏木黃鸝鶯春ノ物ナド
ゾリ 緑陰ノ中ニ啼ソ

雷声忽送雷声ガフトナリ 電影隔山電
ガヒカト山ノ 頻來語燕初夏ニハ燕ヲ作
アナタニ見ユルソ 頻來語燕時ナレ切々燕ガ

ノキヘ往 家々雨處々蛙夏ニナリテ清明
來スルソ 蛙ノコロハ家々ニ雨フ

リ処々ニ蛙 枝上蟬檻前蝶林ノ枝ニ蟬
ノ声アルソ 枝上蟬檻前蝶ノ檻檻ノ

前ニ蝶シ 環窓緑樹窓ヲソグリテ 緑
ケク飛ナリ 環窓緑樹樹ノ葉ガアリテ陰

ラヒテ掃袖清風涼キ風ガ吹リ 夢逐揚
面白ソ 掃袖清風涼キ風ガ吹リ

化 楊花トヒカハルソ 園林換景昨日ニ
ハ化夏ノ晝眠ハ夢ハ只ハ 園林換景カワリ

早景モ夏木 蝶舞蟬吟蝶モ夏ニナレハ花ヲ
緑陰トナルソ 蝶舞蟬吟尋シキリニ飛舞蟬

モ吟 緑染回下ノ水ニ漂草ガ生ジテ 緑カ
ズルソ 緑染回下ノ水ニ漂草ガ生ジテ

△夏夜大意 蚊雷蛙吹 蚊カ耳ノ邊ニ來レハ雷ノ如ナリ蛙ノ声

ハ竹田ノ月白 天涼 夏ノ夜天晴ハ月光白クソフス、シキリ

槐綠帶烟 槐ノ綠リカカス 風生細葛 葛ハ細クハ

服ス惟子ナリス 竹院夏深ハ夏ノコロハ

ヨキ遊処之深 花亭月上ハ花ノアハ亭

ナルハイヨクヨキ ハ月ノサシ

入タ 月如白晝 夏ノ夜ノ月ノ晝ノ如ナリト

心ソ 詩ニ作ルハ大極涼ニキソ愛 意ソ 月ノ上疎花

秋ニ涼キ風カ吹テ 北窓簾草 北窓ニスミシラ

臥ス 青簾 アソキタカムシロ夏用

△晚夏大意 渴憶飲露 飲ニ渴ニテ露

煩思披襟 暑氣ニクルシニワツラヒテ

影裏 暑氣ヲサラント 坐竹陰中 是モ暑者

露瀉金波 露ガヒヤクトカニハ 火雲接 セツス

影 夏ノ雲ヲ火雲ト云ソ火雲ガ 水鳥無 打ツキ山ノ如ニアルソ夏ノ景

声 暑氣ニヨリテ 水晶簾風 水晶ノスミ

琥珀盃酒 琥珀ノ盃ハ酒スキトホ 天河露 天河ノ露

甘雨澤 天河ノアミノ河ガ夏ノ夜ハ露ヲ

熟語 山木無陰 驛路長 丁公言

此夕ハ旅行ニ暑ヲ苦シタル詩ナリ 山木ニ無 陰ハ暑者ニアタリテ

キソイハントニ 驛路長 ト云ナリ 無陰ト長

ノ字トニテ 若熱ノ意ヲ知ナシ 高駢

此夕ハ 綠樹ノ影カ濃カニテ 暑氣モナク ズシキソ 愛シタル夕ナリ 然ルニ夏日ノ

長キヲモイトワフト云 意ソ 影濃ノ字長 ノ字能ク得心スベシ

落々トアツケタル 疎簾 數 月影 張文潛

月影モ多クサシ入ニヨリ 數 月影ト云ソ

水声到耳向來雨 活法

水声到耳向來雨 活法
水カ俄ニ耳ニ音高クキユルハ夕立カ何方
ニ降ヤラントフヲ又先カフ夕立ノ雨ト知
タリソ到耳ト云字向來ノ字ニテ意得ル
電影隔山何處雲

電影隔山何處雲
必スタ立ナラント思知ニ梅ノコトクヒカクト
電カ見ヘタルソ是ハ何處ノ雲ニ出リテ
夕立来ルソト云意ナリ
梅黄麥熟カ迎夏

梅黄麥熟カ迎夏
夏ニウツリテ夏トモガカリシニ梅黄ニ
麥熟シテ風景ガ換リテカフ驚キテサ
テハヤ夏ヨト迎ルナリ
花ノ残り鳥ノ声ノこしたトキハ化鳥モ耳
目ニフシテ春ナリト思ヒシニ化モスキト
落テ鳥ノ声モシキリニナレハサテ春ハモ
ハヤカヘリタルト是非モナク春ヲ送ルソ
前ノ夕ノカノ字此夕ノ己ノ字ニ意
ヲツクメシ

故夏
故夏
故夏

麥秋 月令章句ニ百穀皆春生秋熟ス麥ハ
四月ニ至リテ熟スニ四月ヲ麥秋ト云
薰風 家語ニ昔シ舜五絃ノ琴テシキクニハ夏
ノ比ナリシカトモ涼シキ風薰リテ南方ヨリ

吹来リ万民ノ暑ヲククル
左傳ニ出タリ晉
ノ國ノ臣ニ趙襄
ト云人アリ思惠深クテ國人此ヲ愛シテ襄
ハ冬ノ日ヤリト云冬ノ日寒キニ日影ノ暖カナル
ニ喻ヘタリ趙盾ハナサケナキ人ナレハ民オソシテ
夏日ト云暑熱ノ時ニ日ニテラサル如クニ思フ
ト云意ナリ此ヨリ 畏景 夏ノ日影ヲ云
夏ノ日ヲ畏日ト云 畏日ト云意ナリ 苦短
謝天運カ詩ニ 浮瓜沈李 魏ノ文帝ノ書ニ浮
瓜熟苦夜短 甘瓜於清泉沈朱
李於寒水 續漢書ニ出タリ夏至
ト云ハリ 浚井改水 井ヲサラヘ水ヲ改メテ
疫病ヲサレ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
ト云ハリ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
カサナリ山ハ雲ヲ奇
峯ト云古詩ニ夏
雲多奇峯アリ 祝融司令 淮南子ニ炎凡
之所司トアリ 池塘夢 是ハ晉ノ謝惠連ハ十
祝融ハ火神之 歲ノ比ヨリ文筆人ニ
スクレテヨク詩ト云テ作りシ也凡ノ謝天運ハ
トキ水ニ露ノ草堂ニ於テ詩ヲ梅セシニイロク
思梅セシカトモ出ガリシカ草臥シニシバウク
トロコ夢ニ第ノ惠連ヲ見タリシカ忽ニ池塘生
草ヲ草ト云ク得タリ靈運夢覺メテ是レ
我カ今ニ非ス鬼神ノ助ケナリト云ハリ

吹来リ万民ノ暑ヲククル
左傳ニ出タリ晉
ノ國ノ臣ニ趙襄
ト云人アリ思惠深クテ國人此ヲ愛シテ襄
ハ冬ノ日ヤリト云冬ノ日寒キニ日影ノ暖カナル
ニ喻ヘタリ趙盾ハナサケナキ人ナレハ民オソシテ
夏日ト云暑熱ノ時ニ日ニテラサル如クニ思フ
ト云意ナリ此ヨリ 畏景 夏ノ日影ヲ云
夏ノ日ヲ畏日ト云 畏日ト云意ナリ 苦短
謝天運カ詩ニ 浮瓜沈李 魏ノ文帝ノ書ニ浮
瓜熟苦夜短 甘瓜於清泉沈朱
李於寒水 續漢書ニ出タリ夏至
ト云ハリ 浚井改水 井ヲサラヘ水ヲ改メテ
疫病ヲサレ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
ト云ハリ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
カサナリ山ハ雲ヲ奇
峯ト云古詩ニ夏
雲多奇峯アリ 祝融司令 淮南子ニ炎凡
之所司トアリ 池塘夢 是ハ晉ノ謝惠連ハ十
祝融ハ火神之 歲ノ比ヨリ文筆人ニ
スクレテヨク詩ト云テ作りシ也凡ノ謝天運ハ
トキ水ニ露ノ草堂ニ於テ詩ヲ梅セシニイロク
思梅セシカトモ出ガリシカ草臥シニシバウク
トロコ夢ニ第ノ惠連ヲ見タリシカ忽ニ池塘生
草ヲ草ト云ク得タリ靈運夢覺メテ是レ
我カ今ニ非ス鬼神ノ助ケナリト云ハリ

吹来リ万民ノ暑ヲククル
左傳ニ出タリ晉
ノ國ノ臣ニ趙襄
ト云人アリ思惠深クテ國人此ヲ愛シテ襄
ハ冬ノ日ヤリト云冬ノ日寒キニ日影ノ暖カナル
ニ喻ヘタリ趙盾ハナサケナキ人ナレハ民オソシテ
夏日ト云暑熱ノ時ニ日ニテラサル如クニ思フ
ト云意ナリ此ヨリ 畏景 夏ノ日影ヲ云
夏ノ日ヲ畏日ト云 畏日ト云意ナリ 苦短
謝天運カ詩ニ 浮瓜沈李 魏ノ文帝ノ書ニ浮
瓜熟苦夜短 甘瓜於清泉沈朱
李於寒水 續漢書ニ出タリ夏至
ト云ハリ 浚井改水 井ヲサラヘ水ヲ改メテ
疫病ヲサレ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
ト云ハリ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
カサナリ山ハ雲ヲ奇
峯ト云古詩ニ夏
雲多奇峯アリ 祝融司令 淮南子ニ炎凡
之所司トアリ 池塘夢 是ハ晉ノ謝惠連ハ十
祝融ハ火神之 歲ノ比ヨリ文筆人ニ
スクレテヨク詩ト云テ作りシ也凡ノ謝天運ハ
トキ水ニ露ノ草堂ニ於テ詩ヲ梅セシニイロク
思梅セシカトモ出ガリシカ草臥シニシバウク
トロコ夢ニ第ノ惠連ヲ見タリシカ忽ニ池塘生
草ヲ草ト云ク得タリ靈運夢覺メテ是レ
我カ今ニ非ス鬼神ノ助ケナリト云ハリ

吹来リ万民ノ暑ヲククル
左傳ニ出タリ晉
ノ國ノ臣ニ趙襄
ト云人アリ思惠深クテ國人此ヲ愛シテ襄
ハ冬ノ日ヤリト云冬ノ日寒キニ日影ノ暖カナル
ニ喻ヘタリ趙盾ハナサケナキ人ナレハ民オソシテ
夏日ト云暑熱ノ時ニ日ニテラサル如クニ思フ
ト云意ナリ此ヨリ 畏景 夏ノ日影ヲ云
夏ノ日ヲ畏日ト云 畏日ト云意ナリ 苦短
謝天運カ詩ニ 浮瓜沈李 魏ノ文帝ノ書ニ浮
瓜熟苦夜短 甘瓜於清泉沈朱
李於寒水 續漢書ニ出タリ夏至
ト云ハリ 浚井改水 井ヲサラヘ水ヲ改メテ
疫病ヲサレ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
ト云ハリ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
カサナリ山ハ雲ヲ奇
峯ト云古詩ニ夏
雲多奇峯アリ 祝融司令 淮南子ニ炎凡
之所司トアリ 池塘夢 是ハ晉ノ謝惠連ハ十
祝融ハ火神之 歲ノ比ヨリ文筆人ニ
スクレテヨク詩ト云テ作りシ也凡ノ謝天運ハ
トキ水ニ露ノ草堂ニ於テ詩ヲ梅セシニイロク
思梅セシカトモ出ガリシカ草臥シニシバウク
トロコ夢ニ第ノ惠連ヲ見タリシカ忽ニ池塘生
草ヲ草ト云ク得タリ靈運夢覺メテ是レ
我カ今ニ非ス鬼神ノ助ケナリト云ハリ

吹来リ万民ノ暑ヲククル
左傳ニ出タリ晉
ノ國ノ臣ニ趙襄
ト云人アリ思惠深クテ國人此ヲ愛シテ襄
ハ冬ノ日ヤリト云冬ノ日寒キニ日影ノ暖カナル
ニ喻ヘタリ趙盾ハナサケナキ人ナレハ民オソシテ
夏日ト云暑熱ノ時ニ日ニテラサル如クニ思フ
ト云意ナリ此ヨリ 畏景 夏ノ日影ヲ云
夏ノ日ヲ畏日ト云 畏日ト云意ナリ 苦短
謝天運カ詩ニ 浮瓜沈李 魏ノ文帝ノ書ニ浮
瓜熟苦夜短 甘瓜於清泉沈朱
李於寒水 續漢書ニ出タリ夏至
ト云ハリ 浚井改水 井ヲサラヘ水ヲ改メテ
疫病ヲサレ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
ト云ハリ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
カサナリ山ハ雲ヲ奇
峯ト云古詩ニ夏
雲多奇峯アリ 祝融司令 淮南子ニ炎凡
之所司トアリ 池塘夢 是ハ晉ノ謝惠連ハ十
祝融ハ火神之 歲ノ比ヨリ文筆人ニ
スクレテヨク詩ト云テ作りシ也凡ノ謝天運ハ
トキ水ニ露ノ草堂ニ於テ詩ヲ梅セシニイロク
思梅セシカトモ出ガリシカ草臥シニシバウク
トロコ夢ニ第ノ惠連ヲ見タリシカ忽ニ池塘生
草ヲ草ト云ク得タリ靈運夢覺メテ是レ
我カ今ニ非ス鬼神ノ助ケナリト云ハリ

吹来リ万民ノ暑ヲククル
左傳ニ出タリ晉
ノ國ノ臣ニ趙襄
ト云人アリ思惠深クテ國人此ヲ愛シテ襄
ハ冬ノ日ヤリト云冬ノ日寒キニ日影ノ暖カナル
ニ喻ヘタリ趙盾ハナサケナキ人ナレハ民オソシテ
夏日ト云暑熱ノ時ニ日ニテラサル如クニ思フ
ト云意ナリ此ヨリ 畏景 夏ノ日影ヲ云
夏ノ日ヲ畏日ト云 畏日ト云意ナリ 苦短
謝天運カ詩ニ 浮瓜沈李 魏ノ文帝ノ書ニ浮
瓜熟苦夜短 甘瓜於清泉沈朱
李於寒水 續漢書ニ出タリ夏至
ト云ハリ 浚井改水 井ヲサラヘ水ヲ改メテ
疫病ヲサレ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
ト云ハリ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
カサナリ山ハ雲ヲ奇
峯ト云古詩ニ夏
雲多奇峯アリ 祝融司令 淮南子ニ炎凡
之所司トアリ 池塘夢 是ハ晉ノ謝惠連ハ十
祝融ハ火神之 歲ノ比ヨリ文筆人ニ
スクレテヨク詩ト云テ作りシ也凡ノ謝天運ハ
トキ水ニ露ノ草堂ニ於テ詩ヲ梅セシニイロク
思梅セシカトモ出ガリシカ草臥シニシバウク
トロコ夢ニ第ノ惠連ヲ見タリシカ忽ニ池塘生
草ヲ草ト云ク得タリ靈運夢覺メテ是レ
我カ今ニ非ス鬼神ノ助ケナリト云ハリ

吹来リ万民ノ暑ヲククル
左傳ニ出タリ晉
ノ國ノ臣ニ趙襄
ト云人アリ思惠深クテ國人此ヲ愛シテ襄
ハ冬ノ日ヤリト云冬ノ日寒キニ日影ノ暖カナル
ニ喻ヘタリ趙盾ハナサケナキ人ナレハ民オソシテ
夏日ト云暑熱ノ時ニ日ニテラサル如クニ思フ
ト云意ナリ此ヨリ 畏景 夏ノ日影ヲ云
夏ノ日ヲ畏日ト云 畏日ト云意ナリ 苦短
謝天運カ詩ニ 浮瓜沈李 魏ノ文帝ノ書ニ浮
瓜熟苦夜短 甘瓜於清泉沈朱
李於寒水 續漢書ニ出タリ夏至
ト云ハリ 浚井改水 井ヲサラヘ水ヲ改メテ
疫病ヲサレ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
ト云ハリ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
カサナリ山ハ雲ヲ奇
峯ト云古詩ニ夏
雲多奇峯アリ 祝融司令 淮南子ニ炎凡
之所司トアリ 池塘夢 是ハ晉ノ謝惠連ハ十
祝融ハ火神之 歲ノ比ヨリ文筆人ニ
スクレテヨク詩ト云テ作りシ也凡ノ謝天運ハ
トキ水ニ露ノ草堂ニ於テ詩ヲ梅セシニイロク
思梅セシカトモ出ガリシカ草臥シニシバウク
トロコ夢ニ第ノ惠連ヲ見タリシカ忽ニ池塘生
草ヲ草ト云ク得タリ靈運夢覺メテ是レ
我カ今ニ非ス鬼神ノ助ケナリト云ハリ

吹来リ万民ノ暑ヲククル
左傳ニ出タリ晉
ノ國ノ臣ニ趙襄
ト云人アリ思惠深クテ國人此ヲ愛シテ襄
ハ冬ノ日ヤリト云冬ノ日寒キニ日影ノ暖カナル
ニ喻ヘタリ趙盾ハナサケナキ人ナレハ民オソシテ
夏日ト云暑熱ノ時ニ日ニテラサル如クニ思フ
ト云意ナリ此ヨリ 畏景 夏ノ日影ヲ云
夏ノ日ヲ畏日ト云 畏日ト云意ナリ 苦短
謝天運カ詩ニ 浮瓜沈李 魏ノ文帝ノ書ニ浮
瓜熟苦夜短 甘瓜於清泉沈朱
李於寒水 續漢書ニ出タリ夏至
ト云ハリ 浚井改水 井ヲサラヘ水ヲ改メテ
疫病ヲサレ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
ト云ハリ 火雲奇峰 夏ノ雲ヲ火雲ト云
カサナリ山ハ雲ヲ奇
峯ト云古詩ニ夏
雲多奇峯アリ 祝融司令 淮南子ニ炎凡
之所司トアリ 池塘夢 是ハ晉ノ謝惠連ハ十
祝融ハ火神之 歲ノ比ヨリ文筆人ニ
スクレテヨク詩ト云テ作りシ也凡ノ謝天運ハ
トキ水ニ露ノ草堂ニ於テ詩ヲ梅セシニイロク
思梅セシカトモ出ガリシカ草臥シニシバウク
トロコ夢ニ第ノ惠連ヲ見タリシカ忽ニ池塘生
草ヲ草ト云ク得タリ靈運夢覺メテ是レ
我カ今ニ非ス鬼神ノ助ケナリト云ハリ

迎瓜觀関中記晋帝迎瓜觀
寒露臺作リテ避暑之養羊沽

酒漢揚惲閑居酒酒ヲ沽テ仗臘費ハス

○上の詩

榴花映葉未全開司馬温公
槐影沈沈雨聲來小院
地偏人不到滿庭鳥迹印蒼苔

一三ノ夕ハ夏日ニ至リ榴花開テ世不問ニウツ
口見ユルが全ハ開カテリ槐樹ノ影ハ日々ニ沈
ト深クナリ風ニ逢テハ雨ノ来ルヤウニ聞ユル
三四ノ夕ハ小院ガ地カスカニサヒシクテ人モ至
ラズ庭前ニ滿テ野鳥カ跡ヲツトテテ蒼苔
ニ印シタルバカリリ此詩之息淡々トアサクテ世
塵ノ外ニ出タリ此意ヲリ工夫ヲ積タラハ
詩之家ノ妙ニ至ルニシ

夏日

高駢

緑樹陰濃夏日長
樓臺倒影入池塘
水晶簾動微風起
滿架葡萄一院香

一三ノ夕言ハ緑樹ノ濃クテリタル陰濃カハ山家
ハ夏ノ日ノ長キヲ送リテ樓臺ヨリ池塘ヲ
ノゾクハ其影サカシニ水中ヘウツリ入テ見ニ
ルソ三四ノ夕ハ其池塘ノ水ニウツリタル影ヲ
オリフシ微風カ水面ヲ吹バ波ノ紋カ水晶ノ

簾ノコトク見ユルソ其風ニツレテ葡萄架ヲ吹
ミダリテ一院カ香シキリ一説ニ三ノ夕ハ水晶
ニテカサリタル簾ガ動クト見タル其一、微
風カ起リテ葡萄架ヲ吹一院カ香カリト見タ
リ此説好シ

夏之夜

無名氏

避暑尤孤坐得涼
還獨清月行花改影
風度竹生聲露沁輕衣
重螢飛時艸明栖禽忽驚起
嘈雜欲傳更

一三ノ約ハ夏ノ夜暑クシサケテ涼ニキキモト
メント孤リ坐スルソ清風来リテ涼ヲ得ル
吾シ獨リイサキヨク覺ユルソ三四涼サニ風
早景モ面白クナリテ見シハ月ガ高ク照シテ
花ニウツシハ其影ニシタカヘテ花ノ影カ方
々ヘウツリ改ムルソ風吹ワタリテ竹林
へ入レハ風ノ声カ涼シク聞ユルソ五六夜深
ヲシハ露カ單衣ヲヒタシテ重クナリ螢ハ
暗々タル草ノ中ヲ照シテ明ニ見ユルソ七八
ノ夕ハ林樹ノ間ニ栖ル鳥モ月明ナレハトナリ
カ子ヲ驚キ起テ嘈雜トカニヒスレキソ
傳更ハ時ノウツルヲ云

○秋日摠論

秋日ハ四時ノ中ニトリワキ感慨ヲ催シ詩人ノ情流詩思モニサリアワレテナリナリ秋風モ株樹竹葉ニ觸レテ物サビシク廢艸野徑ノ白露モ凄々トサケクナリ或ハサ何葉ニ螢ナト飛渡リ江葦ノ色ハカワラ子トモ月ノ光リ蝨ノ声ミナ詩人ノ興アリ感情フカリ吟詠スベシ初秋ノ景ハ如此意得ヤウク秋モ深クナレハ林葉ノ風ニ落ル声蟬ノ吟鷹ノワケル稀葉ノ色ツキタハ黄菊ノ霜ヲキタハ皆詩人ノ吟詠スベキ景ナリ古詩ニ

秋風樹老蟬音急

夜月涼深燕影稀

此意ハ秋風カ立テ林木モ色カワリ老々ハヤウニナレハ蟬モ秋ヲカナシ三鳴声モキビク夜月モ夜ゴトニ涼サツモリテ葉ヘカヨフ燕ノ影モ稀ニナリタト云意ナリ此モ秋ノ景ヲ作レリ或ハ

江涵鴈影孤

此意ハ秋雨カフリテアラヒタレハ木葉カシクテ山ノ空モ瘦タリ秋ニテハ江ノ水モ底スミテ鴈ノ影ヲ過スモサシキト云意ナリ總ニテ古詩モ趣向ノ相似タレハナハタ多ク前ニトト此ノ二トヲ味ヒテ古詩ヲ轉化スヘシ木落千山瘦天高一鴈橫此クモ前ノク

モ同意ナレハ又字ノカワリタレニクモ各別ナリ言ハ木葉落タレハ千山瘦テイツクニテモ秋フカシ秋深レハ天モ一キワ高クニヘテ友ニシクシタル一鴈ガリウニ横リテ見ユルソ此クノ例ヲ字ヲ作意スレハカフモヨク立意モキコヘヨキツサテ景ヲ作り又情ヲノブルナラ古詩ニ見ナラフヤシ

飄風紅葉弄秋景

帶雨黃花潤冷香

此クノ言ハ紅葉カ風ニ飄ルヲ見レハ秋ノ景ヲササカク黄ハ甚ホカモテアリビテ人ニ見スルカト思フ黄ハ花カ雨ヲ帶タレラ見レハ香ノ潤ルヲ惜ミテ冷香ノ雨ニテ潤スヤウニ見ユルヤ或ハ

松荷雨濕難藏路鳥

衰柳風凋欲禁蟬聲

此クノ言ハ秋ニナリテ荷葉モ枯レ破レタレハ雨ニシボミテ路鳥ノカクシガモナクナリ秋ニ衰ヘ柳モ風ニ葉ヲサソワレテ枝モ夜コトモ寒クナレハ蟬ヲモ禁ジテナカセシキヲリカフナリト云意ナリ或ハ秋ノ情ヲ述テ古詩ニ

莫言此去景蕭瑟

看取芙蓉花正春

此クノ意ハ此処ハ来リテ秋ノ景カ蕭瑟ト

身ニシテサレキト云フ如トナシハ
芙蓉ノ花カ開テ面白ケル正ニク春之
ト看取スト云意リ此秋ナシ花ノ色春
ノ如クウレハシケルハ秋ノカナシキト云情
ヲノベタリ此去ト云ハ此來ト云立意リ看取
ハ此ヲ見テ合点セヨト云意リ此外青苔
黄葉ナト云又ハ涼風暮雨ニ意ヲヨセ情
ヲ甚深ニ作為スミシ

大意 炎光退 夏ノ暑者炎ノアツキ
光リモエリソキタリ 暑

氣清 暑者去リテ天ノ氣モ清クナリタリ清
ト云字ハ暑者カスキトシリゾクヤフ用ニ字ニ

芙蓉花岸 藤多穂 秋ノ時物ニテアシノ花
咲タルキハ多クモホアルナ

衣裳氣爽 秋風カ吹テ衣裳モ
石杵

風疎 キヲクノ声モ風ノ
雲澹河漢 雲ノ色
モアワク

銀河ニタ 雨滴梧桐 雨ノ梧桐ノ葉ニ
ナドクソ 水遠

天碧 秋ハ天地スミワタルニヨリテ水モ
ツ子ヨリ遠ヘ天ハ碧リナルソ 高山

錦 秋ノ霜ニ逢テ高山ノ
草モ錦ノ如ナリ 一竹離金 菊ノ花
サキテ一

離ハ金ノ色ノ
芙蓉露路 芙蓉ノ露モシボミテ
露路ノ下ニ流ルソ

木落山瘦 木葉カ落タレ
ハ山カヤセタリ 天高雁横 秋ノ天
モ高ク

雁モ横 夜月涼深 秋夜ノ月ハツリカラ
リテニユソ 常ヨリハスビシキソ

蟬声高低 蟬カ多ク鳴テ枝ノ高キニ
モ低ニモナクソ 何葉

歌カリシカ秋ニカレタリ 紅衣落盡 蓮花ノ
色ハ紅

ノ衣ノ如ナルモ 風鳴窓竹 秋ノ声カ風ニテ窓
サ落盡タリ 前ノ竹ニキユルソ

秋天遠 爽氣高 天モ高クサワ
ヤカニユルナリ 西風報秋

西風ノツトガサナ 涼氣襲人 秋ノスニサカ人ヲ
カラ秋トシラスニ オソヒテヲガユルニ

一葉飛 秋來リテ梧桐
葉カ初テ落ル 塞雁纔聞 雁ノ
声ヲ初

古寺寒花 古寺ニ秋ノ野草ノ花ハ
アヒスサニジキナリ 庭

樹老 庭ノ木ノ葉カ色カワリ落
ルニ木モ老タリ如クナリ 素月流天
月白クシテ天ヲ行ケバツラ 雨念 幽草白
スミワタリテ月カ流ルヤウ

新涼入牖新ナル秋ノスミキ 初月懸簷ハキミ

秋ニナリ夕ハハ月ノ色ハナ 蟬初噪雁初歸ハナ

声ヲ吟シ雁ハナ 風清月朗ハナ 白露

味清霜珀在葉清霜ヲキテモ葉ハ

黃花白露シテク菊 籬菊冷艷菊ノ花ウ

秋ナレハスサニジキ 風前老葉月ニヤブレタル 丹

楓黃橘橘ハ黄ニテリ名ツ 秋声念怨秋風ノ

小菊未開ハナカサナリ 殘蟬

吟風枝ニノコリタル蟬 葦風何露アリ

野氣蒼茫秋ハ野外ノ風景モ

晚秋大意落葉集 暮林秋モ暮ニナリ

一林秋ノ末ニテハ如クニ紅 聞過雁起鳴蛩秋ハ烟リ霧

雁ノスグル声アリキリ 一鳥帶烟秋ハ烟リ霧

橘柚玲瓏ツナリタルヤウニ目ニル

庭梧影薄梧桐ノ葉ヲクニ 遙林洛照

半窓殘月秋夜ノ月影カ意 艸虫風葉

寒無霜白カフヲサヤ蔬

歌々銀河初秋

雨洗明河

燈暗蛩吟

燈花伴夜秋夜ハサビ

天如水月共霜秋ハソラス

寂寥多トシテ居ルミワタリ水

如月色ハ白クテ 露華月影 露ハ珠ノ光リ
霜ト共ニミユルナリ 影ヲ得テミユルナリ
熟語

雲間東嶺千重出 張說

此夕雲間ノ二字ヨリ出ト云々付ク高キ
雲間ヨリ出クハ嶺ナレハ千重ト云リ雲間ニ
見ルホトニ出ルト云リ

樹裏南湖一片明 同上

樹裏ヨリ明ノ字ヲ付クリ樹裏ノ字ヨリ
暗キ中ニ見ユルホトニ南湖ノ水ハ明カニ見
ユルト云々

入門明月真堪友 陸放翁

入門ノ二字ヨリ堪友ノ二字ヲ付クリ門ニ來
者ハ吾友ナリ誰モ來ルモノモテ此明月カ門ニ
入レハ友トスルニ堪タル

滿榻清風不用錢 同上

滿榻ノ二字ヨリ不用錢ト云リ榻ニ滿ルモノ
錢ヲツヰヤスベケレトモ清風ハ不用錢

海角冰輪碾上天 方端仲

碾上天ノ三字輪ノ一字ヨリ用ニ來ル冰輪ハ
月ノコト

夜深不奈當夫月 王度秋夕詩
半在香塔半在樓

此ニ夕ノ体多クアリ 意ヲツケテヨク
見ルハ言ハ秋夜ヲアワレニ當天ノ月ヲ

見レハイヨク愁ニ夕ヘカクキヲイカントモセ
イカナレバ月影ガ半ハ香塔ニアリ半ハ樓ニ

ホドニナリ 如是ニ云ハ字面ノ意ヨリ畢音見
ハ秋ノ夜深ニ愁多キニラフ見レハ天ニ當

リテ月影愁ノナカゲトナルノ香塔ニ出
レハ月アリ樓ニホレハ月アリ愁ナキ処ナレ

此クイカントモ成リカクキト云々思リ絶句
詩ハ短篇ナレハコニヤカニ見ルハ此類後敘之

故言 漢武作辭 漢武帝 屏輕

漢武作辭 後土作秋風詩 屏輕

白露鶴警 要

八月白露降 潘岳秋興 潘岳秋ヲ悲シテ秋

鶴鳴テ警トアリ 李華兄弟古戰場文且悲

蓬斷 仲枯 日曛蓬斷 仲枯トアリ 砧花

舒菊 駱賓王日雨尋菊 秋水盈襟 陳師道

盈襟 寒郊 紅蘭青 秋 江淹別賦 見紅蘭之受

楚蘭陶 駱賓王序 劍彩沈波 碎楚蘭於

秋水金輝 照岸 秀陶菊於寒堤

アリ楚蘭ハ屈原カ、龍鳳鴈夫、同上露團龍隱
蘭ナリ陶菊ハ淵明カ、雲斂雁天龍隱
原澤ノ高底アルカ、金風玉露、唐太宗詩ニ曰ク
ソ雁天ハ秋天ナリ、菊散金風起、何
疎玉露、朱墨點額、歲時記ニ曰八月朔日ニ朱墨
團ナリ、ヲ以テ小兒ノ額ニツラテ天
ト云、痲病、圍棋、西京雜記ニ曰八月四日北戸竹林
ソノツク、三ノ棋ヲカコミテ勝タルモノ終年
福ト云

○上ロ詩 初秋 俞漁溪

火老金柔暑若殘、乘涼正好望南山、秋声來
處無尋覓、只在窓前竹葉間、
詩言ハ火老、金柔ナルハ五行ニ配スレハ夏ハ火秋ハ
金ニアタルリ、秋ニナリクハ夏ノ日モ人ノ老タル如
クニヨワリ、秋ノ金ニ云ハ人ノ身ニシムホドニモツヨ
カラ子バ柔ナルリサレハ暑ト云ハモハヤ是ニテソト
殘ヲ告ケテ涼トキリ此涼ニ乘メ南山ヲ望ミソリ
三四ノ句此ノ秋声ノ来ルカ如何クヤラント尋子
モトムレハ秋声ノアルカ如何クヤラント竹林ノ中ニアル
サテハ秋カ此竹林ヨリ来ルカトナリ

秋夜 陳去非
中庭淡月照三更、白露橫空河漢明、
遺西風吹葉盡、却愁無處著秋声、

一ニノ句ニ言ハス候中ニ淡月カ其影百々ニカワリテ
ウスクトト三更ノ時分ニテ照スソ淡トハ色ヲウ
スキヲナリソノオリヲシテ天モサヘテ白露路カ
空ニ横リ天河カアキラカニ見ユソ三四ノ句ハ秋
ニ語リテ聞スレソ必ス西風ト葉ヲ吹ツクサレメ
ナ葉カアルハ秋ノ声ソキケト世ホソ吹落シタラ
ハ秋ノ声ソツクルカカアソト思フテ秋ハ
暮秋 魏仲先
水閣閑登望、郊原欲刈禾、
積雨病蟬多、砧隔寒溪、
扁舟何日去、江上几時烟、
一ニノ句言ハ水邊道ノ閣ニ立リテ遠ク見渡セハ
郊原モ秋ノ末ニナリ農事モヤウク終リテ
禾ヲ刈ラントスレ時ハソ三四ノ句ハ人モスニ破
タル聲ニ葉ヲ作ル燕モ少シ數日フリツモリカ
雨ノ中ニハ病蟬カ多キソ病蟬ハ秋令ニイタミ
タルセソソ五六ノ句ハ寒衣ヲ作ル砧ノ声ハ溪
ヲ隔テハワツヲト聞ユルソ遠寺ノ鐘ハ曉ノ風
ニ隨テ来過スレソ曉吹ハ曉ノ風ト云ソ七八
ノ句ハ扁舟ニノリテ何ノ日カ此ニ來リ漁簑ヲ
キテ隱居セント思フナリ

○冬ノ日總論
冬ハ四時ノ終リナレハ木葉モ落盡シテ山川ノスカ
タモニバウニ物サビシ園池ノ景モ枯芦ノ葉籬ニ

残り黄菊ノミナリ冬深クナリテ寒月ノ庭
ヲ照スモスサニシテハ幽齋ニ孤灯ヲクテテ
書ヲヨミ雪ノ夜雪ノ朝詩友ト炉火ヲ擁シ
氷リテ歌キ茶ヲ煮テ詩ヲ吟スルノミナリ
冬ノ題ニハ冬ニ至テ除夜苦寒守歳ト題
アリ節序門ニテ詩ノ作爲モ大槩此
趣キナルヘシ年暮ニナリテ寒梅水仙ナト
吟詠ニ入メシ作爲ノ趣向ハ大意ニ見ル
大意 窓外寒梅 歳寒クナリ窓外ニ
寒梅カクナリ 爐中

宿火 炉中ニ火アリテ夜ナカケレバ
早朝ニ灰ヲヒラケバ火ノコリタリ 寒灰坐

撥 冬日寒キホトニルベキカト
ヒタル灰ヲカキヒラケソ 楓飄紅 楓葉ハ
ニルガ 橋帶黄 橋袖ハ色黄ニ
ヘスナリ 熟スルナリ 東泉依石 泉モ
テ石ニソヒテハ 雲空淡泊 晴雪落松 雪ハシテ後
ナカルナリ 孤燈長夜 夜永クテ獨坐ス
ル雪ニツク落ル 孤燈ニ伴フナリ

雪意連天 雪ノフルベキ気色天ニ
ツラナリテ見ユルナリ 雪化糶
樹 雪カ花ノ如クニ飛テ 風林脱葉 風吹林
樹ニカクリ花ノ如ク

ク落ルナリ 己上冬ノ想意
曲澗水乾 澗ハ川ノ水モ 平川木落 川モ常
木葉落タルハ 園林揺落 園モ林モ風ニ葉ハ
川モ平カニ流レ 園林揺落 園モ林モ風ニ葉ハ
蕭條 冬ハ人ノ往来スクナレ
酒カ熟スルノ新篘 新篘酒熟 寒中
ハ酒ヲシボルスナリ 風動寒声 冬ノ景ナリ風
ナカク寒 風揺庭戸 冬ハ風アラクテ
キナリ 水声低 冬ハ野水モ枯草落葉
テ飛テ 山色淡 冬ハ山ノ色モ淡キニ
夏ニカワリ山ノ色モウスキニ
冬ハ紅緑トモニナキ故ナリ 己上暮冬ノ

夜長爐灰 夜カ長サニ炉火 更長睡少 夜長クテ
霜滿天 夜フケテワラフ見ハ 庭霜月 庭ニ
テ月光カアルソ 硯水成氷 硯スリノ水モ大寒ニ
冬ハ霜月トモソ 雪片打窓 雪カヒ
月如氷 氷リテ見ル如クナリ

雪片打窓 雪カヒ
月如氷 氷リテ見ル如クナリ

風ニ吹レテ、氷柱折ラハツラナリ、折掃葉擁、窓ヲ打ナリ、
爐イハシ、木葉ノチリタルカキアツメテ、
熟語、臨塔短髮梳和月、活法、己上冬之夜

年老タル短髪モ月ニおシテ梳ハハ風情アリ、
衰タル顔色モ氷リシ帯タハ肌ハ潔白ニ見ユル
香隣未洗氷生硯、同上
緑酒纒温雪満天

此ニハ氷リト云雪トハ凡畢竟ハ寒ト云ハハ
シキヲ云クノ意ハ丈ヲ書セト思ヒタルハ早ク氷
カ氷リニナリ寒シヲボユルホドニ酒ヲ温タハ雪
カ満天ニナリ来リ寒ハナクシト云ハハ下ノ
三字ニシテ知セタリ末ノ字纒ノ字意ツクベシ
寒鳥三匝月當戸、無名氏、
獨鶴一声霜満天

寒鳥ノ樹ヲ遶ツテ啼ク聲ヲ聞テ月ノ出タルト思ハ
ハヤ月ガクニ當テ明カナリ獨鶴ノ唳ヲ聞テ此
夜ハ外面カ寒ズルト思ヒ其ニ霜カ天ニ満ク
此ノ庵中ニアツテ鳥鶴ニテ霜月ヲ知ル
誰知一寸茅簷地、黎師侯
天付閑人直萬金、
一寸ノ字萬金ノ字ヲ照シ合セテ作リタリ此ノ字ノ

執イトツモアルヲナリ此格ヲヨク心得テヨシ閑
人ナリ世俗ノ苦勞ヲハナシテ居ルホト一寸ノカ
ヤノ檐端モ天ガアタハタルヤリニ思ホド直萬金
ト秘藏ニ思フツ

故夏、閑蟄、左傳、閑蟄ニテ蒸トアリ冬ニ
ナリニテ百蟄カ土中ニトツル

三餘、董遇曰人ノ學ハ三餘ヲ以スヘシ
冬ハ年ノ餘、夜ハ日ノ餘、陰雨ハ時ノ餘トナリ、
前ノ畏日ニ見ヘ、納木稼、詩經、十月ノ詩ニアリ

ナリ、碧瓦初寒、杜詩、
歲且更始、月令ニ見ヘ
ナリ、又春カアラ、煖爐會、十月朔日ニ貴賤酒

タノ始ラントスルリ、會ト、月印簾櫳、古詩、
月印簾櫳、玉一變トアリ、
開元遺直ニ交趾ヨリ犀角ヲスムコノ犀角用

テ殿中ニシケハ暖氣ヲ生シ暖カニナレトアリ
照虚耗、除夜ニ竈内ニ火ヲトボシテ虚耗
カヲトボセハソノ、嚴父、十二月ヲカキリテ
歲損ズルヲナシ、類書纂要、
者、名、煮テ賓客ト飲之トアリ、
鶴敬毛

者、名、煮テ賓客ト飲之トアリ、
鶴敬毛

涉雪 王恭鶴氅 雪ヲ涉ルヲ
孟郊コレヲ見テ神仙中人ト云ク 掃雪

煎茶 李虛カ詩ニ試將 雪煎動建溪春

古詩

平生詩句領流光 陸放翁

平生詩句領流光 絕愛初冬二瓦霜 楓葉
欲殘看愈好 梅花未動意先香 暮年自適
何妨退短景 無營亦自長 況有小兒同此
趣 一窗相對弄朱黃

一三ノ夕ハ平生詩ヲ作り時節ノウツリカフルヲ賦
シテ光陰ヲ領ズルノ領スルトハ我カ物ニテ光陰ヲ
云レシキニニ云意リノ十月ノ比ナレハ万家ノ瓦
ニ霜ノヲキタルモ面白ト愛スルソ三四ノ夕ハ楓
葉モ半ノコリテ其比ハ見ルニイヨクヨキソ 梅花
ハイニ夕ニラカ子トモツボミノ時カフ香シク思ハルソ
五六ノ夕ハ吾老テ暮年ニナレバ自適シテ居ルホ
ドニ退クニ何ゾサシダケアラニヤ退キタルヨレトモ
短景ノ日ノ短キ時モイトナムヲモナキホドニ目モ
自ラ長キヤウニ思ソセハノ夕ハ況ヤ小兒ニテモ吾
意ノ趣キト同ヲナレハ一窓ノ下ニ朱黃ヲ弄ソ相
對ソアリブハカリソ

歲暮行人竟不來 空吟溪樹見寒梅 何時消

盡關山雪 收拾春風入酒盃

一三ノ夕ハ歲暮ニナリテ吾友人他國ニアリテ歸ラ
ズリサルホドニ友モナケレバ空ニク溪邊ノ樹ノ
メグリテ吟歩シテ寒梅何處ニアルヤラト尋
ルソ三四ノ夕ハ何時カ吾カ友人モ歸リ關山ニフ
リ積リタル雪ヲ消シ盡シテ春風ヲトリコロフテ
酒盃ノ中ニ入レ友人ト遊ヘキトナリ

冬ノ日

張谷山

冬來不覺有星寒 山未全禿儘耐看 一
夜輕霜著楓葉 曉來淺浸半溪丹

一三ノ夕ハ冬ノ初ノ寒トイニタヌクキユヘニ寒キ
ト覺ヘタリ然シハ木葉モイニタ落盡サズ山ノカタキ
全クヤセザルソイニタ見テ面白ケレハ耐看ト云フ
三四ノ夕ハ一夜霜カキキテ楓葉ニツキタルハハヤ
曉ツキカヨリウスク淡メタリト見ヘテ半溪カ
丹トナリ

○除夜摠論

除夕ハ一年ノ盡ニ夜ナレハ光陰ノ速カナルヲ覺キ
下年ノ盡ルヲ惜ム意ヲ趣向トス就中老人ハ白
髮ノ添ヘキヲ容顏ノ衰ルヲ歎シ壯成人
モ一事ノ功業モ不立シニ等閑ニ暮シタルナ
ド作ルヘシ景ト情ト相兼テ作シ凡除夕ハ先ツ
情ヲ專トスル景ヲ作ルトテモサシテ眼前ノ山川

柳木ノフヲ多ク云ヘカラス只爆竹桃符ノ類
用ニ殘雪疎梅寒灯紅炉或ハ漏箭前更籌
柳芽草芽竹ナド必ツツリ用ヘシ古詩ヲ吟
咏シテ古來詩ノ年光ノ過ニ驚キ身ノ老衰
シテ空ク過ル情或ハ旅館ニテ郷ヲ思フ意
感慨シテ作ルハ大意ノ字ヲ見テ除夕ノ作意
ヲ取ル

大意

一年盡除夜ハ一思年改世更カレケルハ年中ニ

惜年改年終リ惜歲徂日月ハ人ヲミダズシテ

惜ト暮景促暮景ハ年ノクシソ年錢殘年光カセリクニト云意ソ

除夜ニ詩ヲトククリテ年杵臼頻年改ルテ貧

ヲ送ルヲ錢殘歲ト云フ家ニ除夜ニ

米ツツク縫紉辨衣服ヲヌヒタリヲキヌフナリ

辨ハヤウクニコシラフテ年與鬢新年ノ改ルカ

ニナル老更新鐘鳴テ鶏モナケハ老燈和臘盡

トモシビモ夜深年ノ鏡中絲白髮猶故歲夜ノ

歸ト共ニキユルナリ

アケヌ中ハ己新年曉ニナレハスゴ一夜去一年

コトシトス夜ニ五更來五更ハ曉ナリ青春一歲等閑年

ク何ノワカナク雨歲平分除夜ハ雨春添

白髮明日ヨリ春ニナリ麗春冬色麗春ト

甚シクテ除夜ニテモ冬ノ景ハ人欣明日ハ

氣カ春ヲ麗テ春メカマシ朝日ナリト我恨今宵我ハ今宵ニテ一年減

欣トナリ明朝逢三朝我恨燈花化如喜燈花モ春ノ来ニ

今宵減一年トナリ挑灯自賦トモシ火ノ影ニテ自ラ

詩歌ヲ作ル

上熟語多事鬢隨節換陳去非

此夕言ハ事多クテ心情カ苦ム故ニ鬢モカ連々白

クナルソ多事ト隨節トニ支カ照應シ

言ハ心清ハハニ灯火モ明ナリ盡情ト向人トカ照應シ

スカト見トナリ 燭淚ハ無情ノ物ナリ是ハ有情
ノ物ノ如クニ言カ詩家ノ手段ナリ 燭ノ淚ト
云ハ則五言淚ヨリ云リ

燈花如喜早春來

同上

言ハ燈花ヲ見シハ快ヨクモ云フ是ハ早春ノ來ニ
喜カト見ルトナリ 燈火ノ明カニシテ花サリヨリ
如喜ト云フ此夕体ハ詩ヲ見ル口訣ナリヨク意
ヲ付テニシテ玩味シテ深意ヲ知コト

一年將盡夜

戴叔倫

言ハ今年タハ一年ノ終リナリ今年夜コソ一年ノ光陰
ノ盡ニトスル夜ナレトナリ一年ト云ハ子氏將盡夜
トイハ除夜ナルヲシ一年ノ字ヲ出ス意ハ平生
一日半日ノ光陰タニシムニ一年ノ終ルハ可惜
ナリト云意カ中ニフクミタル

萬里未歸人

同上

言ハ故郷へ歸タキ意ハ旅館ニテ思ヒテ萬
里ヲ隔テ離憂甚キキト云意ソ上ノ句ト向
意ナリ

故夏分歲

凡土記ニ除夜ニ其先祖ヲ祭リ夏
終テ長幼アツリテ酒ヲ飲祝スル

分歲

山堂肆考ニ唐史有開元中ニ上書
云ナリ 歲盡

臣ハ五歩ノ内ニ命ニ應スミト云フ 明皇除夜ノ
詩ヲ命シタニ此ハ 口ニ應シテ作ル今歲今日

盡 明年明日來ト作シトス

照虛耗

夢華錄ニ都

詩話ニ此詩ハ王諱カ詩ナリ 照虛耗
人ト年夜ニ竈裡ニ灯ヲ点シテ是ヲ照虛耗ト云
是ニニノ其ノ年ニ財ヲ損セタト云フ

藏鉤爲戲

歲時記ニ藏鉤ノ戲ハ鉤弋夫入
開カド漢武帝其姿色アルヲ見ル百人ヨリテ

披キタリ宮へ入テ 趙婕妤トナレリ 昭帝ヲ生
タリ後ニ人ソレニ因テ藏鉤ノ戲レヲナスナリ

藏鉤ノ戲トハ除夜長幼アツリ手負ニシテ
物ヲニギリテ互ニカスヲ云合スルナリ 燃炬

照田

山堂肆考ニ兵中ノ風俗爆竹ノ夕村落
ノ間禿帚ヲ長竿ノ末ニツケテ火ヲトホシ
テ田地ヲ照シテ五穀ヲイフルトナリ

○上口詩

除夜

王諱

今歲今宵盡 明年明日來 寒隨一夜去
春逐五更回 氣色空中改 容顏暗裡催
風光人不覺 已著後園梅

言ハ今年ノ除夜ニナリ今年ハ今夜己ニツル
ソ一夜カ明シハ明年ナリ明年ト云ハ遠キヤウ
ナレドハヤ州日來ルソ三四ノ夕寒ハ今年ツル
ト一夜ニ明年ニシタガヒキ春ハ五更ニヤ來ルナリ

五六ノ夕ハ天地ノ色ハ空中ニ新ニナリ人ノ
容顔ハ目ニ見ヘ子トモイウトモナク老ヲ催スソ
七八ノ夕ハ此ノ年ノ過ヒ人ハヲボヒズニクラス
ニ艸木ハハヤ知テ後園ニ梅花花ヲツケタルトス

除日

王介甫

爆竹声中一歲除、春風送暖入屠蘇、千門
萬戶曠曠日、總把新桃換舊符、
此詩ハ除日ノ立春ノリニノ夕今夕爆竹ヲ燒
テ声ノ聞ユル中ニ五更ニナリテ一歲ヲ除ク
立春ノハ春風ガ暖ク氣ヲ送テ屠蘇ノ不盡
入ルソ三四ノ夕ハ今日立春ナリト千門万户
ヲ曠々トヤワラギ永キ日ニ逢テスベテ新ナル
桃ノ符ヲ作テ去年ノサ付ニ換ルサナガラ除夕
ヨリ春ノキタルトナリ

節序門

○立春惣論

立春ハ四時ノ始ナレバ舊年ヲ送テ新年ヲ迎
ル意ヲ作ルナリ元日ノ詩ハ祝儀ヲ作リ
立春ノ詩ハ時候ノ移リカワリ艸木モハヤ生意
アリテ東風モ塵埃ヲ吹起シテ四方ノ景氣
春ノキタル意ヲ作ル然トモ風景ヲバカリヲ
作りタルハ風流ナシ情ヲ深ク兼テ俗ル
ヲレ黄玉林カ詩ニ五十無聞紙自怜後來歲

月更茫然余生幾度看新曆又被春風

減一年ト作レリ此詩ノ意ハ四十五ナリテ

モ何ノ功名モ世ニ聞ユルホドノモナクテ年ヲ

送りタルヨト我身ヲ自怜ムバカリソニ夕

此ノトホリナラバ此ノ已後ノ歳月モサラニカ

ワリタルヲモナク茫然タル三四ノ夕ハ我カ生

涯ヲ思ニ幾度モ新曆ヲ看テ年々ヲ過スホ

ドニ年々ニアラタニリテヨキ工夫モアルベキト思

フニサワナクテナニノ秋月ルモナク又春風ニ

一年ヲヘラサレタルト云意ノ此ノ立春ノ詩ニ

情ヲ作ルニ如此ノ類ナルハシ景ヲ作りタルニハ

好是山川都改變鶯花又是一番新ト作

リ或ハ東風已到欄干北看見鵝黃上柳條

ト作り言ハ東風ガ己ニ欄干ノ北ニイタリタルハ

春ヲ得タリト見ヘテ鵝黃ノ如クナル黄ナル

柳ノメガシガ條ニ上リタルトナリ此景ヲ詠ゼシ詩

ナリ或ハ情ト思トテ兼テ作りタルモアリ東
風捲盡千山雪不到詩人兩鬢霜ト作レリ
言ハ昨日ニテ千山ニ雪ガアリレニ立春ニナリ
夕ハ其雪ヲ東風カ捲盡シテ今ハ此ノ夕ニ
サレテ東風カ詩人兩鬢兵ノ霜ヲノコシテ
キツクサマヤウニ然ラハ春ニナリテイヤニシ生
ト覺ルソ此ハ情景トモニ兼テ此類ニテ知
元日人日皆ソノ詩夕ノ文字ハ春日ノ大意ノ

中ニテ考へ用へし

立春大意

臘酒辛盤

立春ニ臘酒ヲクミ
五辛盤ヲ設けり
苔猶隱緑

柳未舒黃

立春ノ春ノ淺
嚼生菜 待

笑梅

春カ來し菜モ生スルホドニ
臘意盡

春空生

臘ノ意ツキ春ノ空生スルニ
風光著

柳

春ノ暖カタル風カ柳
輕風動埃 春風カ少

塵埃カタ

天下ノ春 一夜ニ舊年カ去
一番新地

一番新

柳芽緑 野柳モ芽カ
柳眼青 柳芽

残臘去

残リノ年モ去
屬新年 立春カ

新年

東風拂面 東風カ面ヲ吹カ
雪滿晴簷

雪カ春ニ逢テトク

天與詩公 天カ春ヲ詩人

柳眼向人

柳眼カ春ノ緑ヲ
江山氣象

江山ノ氣象カ

酥滴花枝 酥雨カ花枝
花ヲ催ス

春ノキタル

色初燃鳥聲早 立春ヨリ柳カ色ハビズ
ニナルソ聲モヤクナクソ

枝々秀種々新

樹ノ枝々ワカヤギ秀テ
柳ノ色々モ新ニモ出ルソ

爭新依舊

新ヲ爭フトハ年改リタレハ何莫
モ新ニコレヲユルソ依舊トハ新

ニ成スワガハリ

舊年ト同コトナレハ依舊
ト云リ此ノ四字ハ二字ツク分テ用ユ

熟語

盤出高門行白玉 杜少陵

盤ノ字白玉ノ字照應ス

白玉盤ヲキリテ

用ヒタリ此作例ヲ

意得ヘシ言ハ立春ノ

日唐ノ宮中ノ制ニ

菜ヲ臣下ニ賜ワル盤

カ高川殿ヨリ出テ

羣臣ニ賜ルヲ見ルハ白

玉ノ盤ナリト云意

日上

菜ノ字青絲ノ字照應ス

言ハ青菜ヲ宮

女ノホソキ手ヨリ

群臣ニ賜ル目レハ菜ハ

青絲ノ如クニホソキ

積雪ノ字積雪ノ字照應ス

言ハ谷ニ滿

夕積雪ヲ和風カ消シタルソ

積雪ト云リ

半窓晴日動遊塵

同上

半窓ノ字遊塵ノ字照應入言ハ窓ノ
半分ニ日影カサシ入ハ遊塵カチラリノ
ト見ユルソ半窓ト云ハ半窓ト云ル意リ
然ルユハ日影ニ遊塵カ見ユル

未萌艸木出回潤

于謙公

未萌ノ字先ノ字照應入言ハクニ艸木
カキサシハ世子ト云立春ニナリ夕ハ先潤ヲカ
ヘシタリト云立春リ

久屈龍蛇漸覺伸

同上

久ク屈ノ字漸ノ字照應ス久ク屈ト云モ
漸々ノ意アリ言ハク久ク屈ニタル龍蛇
モ春ヲ得テ漸々伸ルト覺ユルソ

故事 綵燕

燕ツクリ 貞春ノ字ヲ題ス

生生菜 齊月令ニ立春 土牛

續漢書禮儀志

牛ツクリ 春幡 文昌錄ニ唐ノ制ニ立春ニ
寒ニシテ送ニ春幡 春幡勝ヲ賜トアリ東坡

春幡ヲ簪ニシテ子由カ家ニ来リケル子
姪カ見テ笑テ伯父老人亦花勝ヲ簪ニス

ヤト云 下實書 禮儀志ニ立春ノ日民ヲ
シトニ下實書 實大ノ詔ヲ下ス賜綵

勝 文昌錄ニ唐ノ制ニ綵花勝 元早晚

月令ニ土牛ヲイタル 歌青陽 後祭祀志ニ
農ノ早晚ヲ示ス云 立春ノ日春

ヲ迎ハ青陽 條風至 白虎通ニ春
ノ曲ヲ歌フ 春ノ風ナリ 農祥

正 農祥トハ房星ヲ云立春ノ日正ニク
早晨ヲ以テ南方ニ出ル星ナリ國語 條陽

ヲ楊泉論ニ金門山ノ竹ヲ管トシ河内ノ
氣 葭管ヲ灰トシテ陽氣ヲウカグトアリ

續漢書ニ葭ノ灰ヲ管ノ端ニ 龍像 卮

入レ陽ト云イタルトキハ飛ブトアリ 物交泰

春書 龍像ヲキガミコシフクニス

斗建寅

斗ノホレ寅ニサスナリ

〇上口詩

立春宮官舍 李默

掃除冰雪送寒歸 便覺人間艸木輝

莫道陽春消息淺 皇都桃李待芳菲

此詩立春ナレハ春光カ舊冬ノ冰雪ヲ掃除

シテ寒ヲ送リテヌサハ人問ノ艸木モ

春ニ遇フニワカヤギ輝ナリ 立春ユニ陽氣

ノ消息ノヲツツシ淺トイフヲナカレ皇都ノ

桃李ハヤサカサカサ催シタルユへ相待ツト
立春ノ趣キシ能ク寫セリ

李干鱗

樽前華髮影幾分病客思鄉總不堪
一自倦遊三十載那知春色在江南

此ノ詩立春酒ヲクムニ我影ヲミルニ幾ト
老タルナリ殊ニ病ヲ旅人ナレハ故郷ノコソ
思ヒイタシ堪カクキナリ客遊ニ倦テヨリコ
カタ三十載カアヒダ春色ノ江南ニランヲ知
ラズニクラセシトナリ客居ノウキヨリテソ

南中立春

王維楨

此日江南昨北天涯逐處寓行蹤自憐
奔走頻消骨幸值春風忽覺滄海應龍
吳宮花欲放違時燕塞雪猶封未聞吹黍
驅寒散恨望遙天意轉窮

一ニハ此日江南ニ居リ昨日ニハ北ニシ
ナリ天涯遠國ニ蹤ヲ寓ス三四ハ自ラ愛憐
スルハ古々ハ奔走シテ頻リ骨ヲ銷スレドモ
幸ニ春風ニアフテ胸中ヲ散スルナリ五六ハ
節ニ應ジテ吳宮ニ花ヒラケントス暖カ故
燕塞ノアタリハ節ニ違ツテ寒ク雪ノミ
ツモリ封スルナリ七八ハ彼燕塞ナドハ黍ヲ吹
テ寒シハラヒ暖ニナルヤウアコトハカツテナヒ
ヨツテ遙天ヲ望ニテ恨意カサナリ

無リシトナリ 附人日

〇元日摠論

玉蠟富典ニ元日ヲ三ニト云ハ歳ノ元時ノ元月
ノ元ナリトアリ元ハハジメト云ヒ意ナリ又ハ元朝
トモ云歳ノ朝月ノ朝日ノ朝ナリ俗礼ニ祝
儀ヲ專トス故ニ詩作モハ元妻ヲ子ヲ世帯テ
家ニ居ル人ハ父母ノ壽キヲ賀シ一家ノ安
康ヲ慶ブ意ヲ作ルメシ此世俗ノ第一トス
處ナリ詩人ノ風雅ハ其人ノ技倆ニアルニ
古詩ニ堯上庭正講三朝礼漢殿宜稱萬壽
觴トアリ此クハ元日ヲ祝シタル意ナリ又
松應添歲壽梅向隔年花此クモ松ハ万
歳ノ壽命ヲ今日ヨリ添梅ハ去年開キシ
花カ今年ヲ隔テ今年モカワラズ開クニ向
ト祝シタル意リ情ヲ述ルニサシクノ意味
アリ陸放翁カ甲子元日ノ詩ニ米賤知
無波雪令又主豊一筭那復慮嬉笑伴
兒童ト作レリ言ハ舊時タヨリ米ノ價カヤス
キホドニ盜ノナキヲ知タリ其ノ上ニ元日ニテ
雪ガフバイヤヨク豊年ナルベキソ此上ハ我負
ナリトモ一筭ノ食ニ慮ハイラヌソ嬉シニ笑
テ兒童ニ伴タルガ面白キトナリ又陳簡齋
カ詩ニ五十年元日只流離楚俗今年事
非後飲屠蘇敬駕已老長乘船艇竟安

歸ナトト作レリ言ハ五年旅宿ニアリ元
日ニ逢テ只流浪ノ躰ナリ楚俗ヲ今年見
テ事々皆カワリタルト覺ユルヨリ後ニ
屠蘇ヲ飲テハ我己甚老タリト敬事
數年舟ニ乘テカクヘ移レハ意ニ歸
ルベキト嘆スルトナリ如此元日ニ作ルモアリ
元日ノ大意春日ノ大意合セ考テ作ル
フシ其時其事我カ情ニ合セテ詠スベキ
元日大意 附人日

新聞曆 元日ニ新年ノ人日ハ家人
兄弟祝 金匱傾酒 金サツキニテ
フノブル 新年ノ酒ヲ飲テ 春回寸
艸ニ春色カヤ少ノチ 天地ノ初ニナレハ年カ
一艸ニ同テニニルリ 天地ノ初ニナレハ年カ
天地ノ初ニナレハ年カ 萬壽鶴 夕モツ鶴イワフ
時ノヤウナリ 萬壽鶴 夕モツ鶴イワフ
歳時頻 春ニナルハ何ノモイフズ 街鼓春
動 時ノツギミノ聲ニ夜カホソ 東風入枝 春風
吹テ庭樹ノ寒未歸 春ニナリタルニ殘雪チ
枝ニ入ルナリ 冬アレハ寒未歸ナリ

梅心老 寒中ニ梅ハサクニヨリ春ニ 長命盃
ナリテ梅心モヲヒタリ

瑞藹青 春ニナリテ天地ノ
サカツキヲ云リ 瑞藹青 春ニナリテ天地ノ
ニモウレハヒクまら

歳開端 元日ハ一歳ノ初 逐時新年
ナルニ開クト云フ 逐時新年
ニナリタルニ物モ時節ヲ逐テ 洪鈞一

人更モ改リ花木モソレクニ新タニナリ 洪鈞一
轉 洪鈞トハ天ヲ云テ天運カ一轉ト 凡舞殘

寒 春風ナレハ餘寒カア 煖生烟 春ニ
ホドニ風ニツレテサムキソ 煖生烟 春ニ
カニシテ煙 煖入屠蘇 春暖カ屠蘇 滿

門賀客 賀礼ノ人門 笑長兵毛班 笑長
班ナルヲ願ハシツルリ 笑長兵毛班 笑長
自笑ソ願長健 長久ニ健ナル

人日大意 人日ニ晴天ハ三
ナルユハ人日クモリ

ヲキキ 暖斷氷漸 人日ハ暖ニナリテ 晴占人
ナリ 暖斷氷漸 氷漸モトクルソ 晴占人

日 此日晴天ナレバ 勝節靈辰 兩名トモニ
一年中トモナルト云傳 勝節靈辰 兩名トモニ
人日ノコトソ

人日ノコトソ

桃色猶淺 桃ノ色ハイニシコ 洛梅已頻 ニヤカニナキソ

梅ハシキリニ洛ルリ 熟五

過去 過去ノ字 離 離ノ字 照應 照應ノ言ハ 過 過去 光陰 光陰ト昔 前 前 離弦 離弦 劉後村 劉後村

易ノ字難ノ字照應ス言ハ黃河ハ五百年ニ一度スムト云ヘ凡光陰前ノ如クナシハ久シキアラス俟ヤスキリ影兵ハ老ニ隨テ白クナルモノナレハ玄クハ憂ズルヲナルニシキリ

身閑 身閑 百日似兩日 范石湖

南枝ノ字北枝ノ字照應ス今ノ意明ナリ言ハ淺ケルハ暖クモイダクイタラヲホドニ南枝モ北枝モ春ヲ得ナガフ同コトソトナリ

老眼得年驚換曆 古詩

老ノ字驚ノ字照應ス言ハ老タル故ニ曆ノカワリタルニ驚クソ驚ノ字ハ老ノ字ヨリ用ル

歸心無日 不思家 日上 歸ノ字無ノ字照應ス言ハ故郷ヲ慕ヒテ歸心カ日々ニ家ヲ思ハヌ日ハナキソ無ノ字ハ歸心ノ字ヨリ用ル來ルソ

故友 故友

放雀 初字記ニ耶鄂ニ元日ニ雀ヲ趙王ニ獻ス五絲ノ絲ヲ以テ綴ル王悅テ

却邪丸 酉陽雜俎ニ武帝歲旦ゴトニ羣臣ニ歳旦酒碎惡散却邪丸ナドヲ賜フ 神荼鬱壘 風俗通ニ黃帝ノ時神荼鬱壘カニ神アリ百思ノ

無道ナルモノソトフハ甚年上京ニテニハリ虎ニクフハ此ニヨリテ黃帝桃板ニニ神ノ像ヲ画テ門上ニ立テ出鬼 年入手ニ白居易カ詩 年入手 年入手ニ年カ 粉荔枝 山堂肆考ニ白洛陽ノ我モノニテ注意ソ 造り蠟 造り蠟ニテ燕ヲ作り粉ニテ荔枝ヲ造ル 願 願 歲時記 歲時記ニ廬陵賈客歐明カ彭澤湖ノ願 過 過 湖中 湖中ハ舟ニラシモノヲナゲテ湖神

ヲ祭リケレバフルキ湖邊ニテ一人来リテ我ハ
青湖君ノ使ヒナリ君カ礼ヲ感シテ迎ヘタラ
ナリ湖君ニ逢テ重キ贈モノツクシ受タラ
コトナカレ只如願ヲタニワレト申サレト教ヘケレ
ハ青湖君如願ヲタニワレト家ニ歸テナニモ
願ノ如クアリテ富貴ノ身トナシ其後元日
ニ如願ガツク起ルテテ榎ノクキケレハ如願
ニレニノ墓壞ノ中ニカクレテ見ヘカリケレハ
今世ノ人繩ニテ人形ヲツキ糞ノ中ヘナゲ
テ如願ナラシメト云此ヨリ出タリ如願ハ
青湖君ノ名シ
使ヒ婢ナリ 人日故夏 金縷人
荆楚歲記ニ正月七日ヲ人日トス七種菜ノ
羹ヲ造リ或ハ綵勝ヲキリテ人ヲ作リ或
ハ縷金ヲ以テ人ヲ作リ 梅花糍 宋ノ
相送リテ新年ヲ迎ル意トス 武帝
ノマノ日ニ合章殿ノ簷下ニ卧シテハ梅花
額ノ上ニ落テ拂ヒドモ不落シテ糍トナレ後
人コレニナラフニ 道衡思歸 薛
梅花糍ヲナストシ 道衡陳ノ
國へ使ヒニユキテ人日ニ故郷ヲ思ヒテ詩ヲ
作りテ曰入春纔七日離家已二年ト云
ケレハ南人笑テ道衡ヲ詩人ト誰カ云ト
記ル其次ノクニ人歸落雁後思發在柳前

ト云コレハ南人喜テ曰 油ト驗歲 四川嘉定
名下ニ無慮セトアリ 油ト驗歲 洲ニ金燈
山アリ麓ニ淵アリ 毎歲人日ニ其処ノ太守
油トノ故夏ヲ行フ故夏ト油ヲ淵ノ水面
ニリキ其年ノ農ノ吉凶ヲトス

○古詩
己亥元日 尤遂初
玉曆均調歲故端東風又逐斗杓還蕭
條門巷經過少老病腰支并起難白
髮但能欺搞項青春不解駐朱顏餘
齡有幾仍多幸占得山林一味閑

二三ノクハ帝王ノ曆數ガトノフリテ歲モ端ヲ
故キテ新タニリタリ東風モ又北斗ノ指ニ
隨テ春ニ回リタリ三四ノクハ蕭條トサレ
タル門巷ハ客ノ來リ過ルル少ナリ吾老
病ノ腰支ハ人ニ逢テ并ヒ起立スルナリカ
クキツ五六十ノクハ白髮ハ吾カ身拙ナレハマセ
ガレタムウナレシ欺テ生ジ青春ハ吾カ朱顏
ノ衰ルツカニワヌソ七八ノクハ餘年ハ幾クア
ルソ少ナキ夏ヲサレ仍ハ幸アリテ山林ノ一
味ノ閑寂ヲ占得テ樂シムトナリ

元日對酒 白居易
衆老憂添歲 余衰喜入春 年開第七袂
屈指幾多人

此ノ詩ハシホクノ人ハ先テ歳ヲ添フウシ
トス余ハ衰ヘタル身ユヘ春ニナリテ暖ナルヲ
ヨロコブ年己ニ六十三アルユヘニ七秩ヲ開ク
ト云七十三及ブ人ハ指ヲ屈シミルニ幾人スリ
稀ナルヨシナリ此詩ナドカヨククヲ井ノ
述懐ナリ法トス

己酉元日

陸放翁

夜雨解殘雪 朝陽開積陰 桃符呵筆
寫椒酒 過花酌卷柳 搖風早街泥 濺
馬深 行宮放朝賀 共識莫棄心
三ノ夕夜雨カフリテ殘雪モ消ヘテ朝日出
テ此比ノ積陰カ晴タリ三四ノ夕元日ナリ
桃符ヲ寫スニ筆ノ氷リヲ呵シテカク椒酒
ハ化ニ過ニ酌ナリ五六春メキテ卷柳モ
風ニナビクフハヤク街泥ハ往來ノ多キ故ニ
馬ニアケテ深キリ七八ノ夕ハ今日行宮ノ
朝家モ終リテ人々家ニカヘルシ共ニ唐ノ
春ノ治ヲ慕フニ天子ヲ祀スベキトナリ
堯中人日遇雪 趙彦昭
始見青雲于律呂 俄逢瑞雪應陽春 今日
廻看上林樹 梅花柳絮一時新
此詩ハ青雲朝廷ニ律呂ヲ于シ陽氣イタ
此日又瑞雪ガ春ニ應シテフリタルナリ是
ニ依テ上林ノ花ノ死ノ中ノ樹梅モ柳モツニ

花ノサキタレヤウナトナリ

○上巳總論

上巳ハ三月ノ節ニナリテ上ノ己ノ日ナリ水邊
ニ出テ不祥ヲ払フツ沈約カ宋書ニ 魏
ヨリ以後必シモ己ノ日ヲ不用只三月三日
用ヒテ上巳ノ會ヲナス晉ノ時永和九年壬
義之山陰ノ蘭亭ニ會ノ曲水流觴ノ遊ビ
ヲナシ君羊賢詩ヲ作リテ羲之蘭亭ノ詩
ノ序ヲ書キテ此詩ヲ作ルニ暮春ノ初
レハ東風ニ柳色モ濃カニナリ 榆莢ノ落ル
天氣ノ清新ニテ野艸開花ヲ愛シ和風
暖日ニホコル意アリ 山陰ノ川ヲ故吏ニ用ユ
ルニ曲水ノ佳咏ト云ヒ或ハ崇山ノ勝遊ヲ
思フト云或ハ清流激湍ト云ヒ茂林脩竹ナ
ド云字ニテ古ヲ思意ヲ作シハ蘭亭ノ故
事ニナリ上巳ノ詩ハ暮春ノ景ヲ見テ曲
水蘭亭ノ古ヲ思フト云フコトヲ錯ハ合セラ
作ルメシ又ハ暮春ノ風景ヲサフクトノビテ
作リテモヨシ詩々ノ中ニ暮春初三ノ日ト
カ三月初三トカ或ハ重三トカ三月三トカア
上巳ノ詩ニナルメシモ故吏ヲ用ユルカキル
ヘカラス春心己ニ退ル九分九天氣又新三月
三ト作り或ハ暮春ノ風景初三日ナド古詩
ニアリ此故吏ヲ不用ノ類ナリ或ハ洛邑ノ

雖古蘭亭跡未磨トアリ言ハ周公自
上巳ノ日洛邑ニテ流水ニ觴シ浮ベテ遊ビ
タニコレ遺風ハ古ノノナリ王羲之カ蘭
亭ノ筆蹟ハノコリテ今ニキヘズトナリ此故
古又テ用テ情ヨリ作ル詩ソ又ハ人向蘭
亭集觴隨曲水流トアリ此夕ハ蘭亭
ノ會ヲ直ニサシテ云タリ春日ノ大意ノ
語ヲ以テ句ヲ作為ス

上巳大意曲水流觴曲水ニ盃ヲ流スハ天朗氣
清天氣晴テ天モホガフ傳佳詠昔上巳ノ日

佳詩ヲ羣賢ノ作リニガ蘭亭ニテ記勝遊蘭亭

今ニ傳ルトナリ詩人カアツリタル勝遊曲水ノ宴ハ晋代

ヲ右軍カ記シタルソノ詩人風流アリ晉風流上巳ノハラヒニ水

風日輕柔春ノ景ヲ云リ俯清流流ニノソム

和風暖日ヤハラカナル風韶光好韶光ハ春

ナリ天ニ氣清新上巳ニ天氣モノ天ニ氣ノ好千古浴沂曾

カ沂水ニ浴セントアリキヨク新タタル論語一年ハ花事

ニ見ヘタリ上巳ニ用ケタル故タリ一年ハ花事

ヲ見ル時節此右軍況達右軍カ山陰ニアリ

催々新蒲細柳緝柳時節物之美醞盈

觴美酒カホトキニ春事如昨春事ハ春遊ノ

鳥ノアリゴモ今日詩ヲ賦シテ遊ヲ比永和晋ノ永和ノ上巳ノ會ニ

昨日ノ如ナリ上巳ノ時ハ楊蘸水桃桃ハ花モ水ニ

花桃花モ水ニ開花迎樹花開テ樹コトニ

流鶯滿枝鶯カナク伊水戲曲水アリテ周

蘭地遊曲水ノ宴柳橋有絮上巳ノコト柳

柳絮柳絮カ冰路無泥冰ハ雨ニ潤テモ醉眼迷

上巳ニハ花多ク開キテ春心蕩春心蕩春ハ人ノ意モ流

醉眼醉眼カチラクトスル春光賞天ニ氣ノ晴タルヲ遊泛娛

舟ヲ泛流水ニ賞遊スルヲ遊泛娛

熟語

野花飄御座 沈佳期

野ノ字御座ノ字照應ス言ハ利園ノ流水ノホトリニ帝ノ御座ヲ設ル野花ガ飛來シコトガヘルノ野花ト云ハ御座ノ自邊ニアルニモモノソ野ノ字ニテ流水ノ自邊ト見ルハ

河柳拂天杯 同上

言ハ河邊ノ柳カ帝ノ杯ヲ托フトナリ文字ノ照應ハ同上

垂柳金提合 孟浩然

垂ノ字合ノ字照應ス言ハ柳條ノ絲ヲ多シテ多キホトニ金提ニスキニモナク合シテ見ユリ垂合ノ二字虚字ニテ意熟シタル字リ

平沙翠幙連 同上

平ノ字連ノ字照應ス此二字虚字ニテ意熟セリ言ハ水邊ノ平沙ニ翠幕カ連リテ上巳ノ遊ニシテ見ユル

游絲映空轉 沈約

游ノ字轉ノ字照應ス言ハ春ノ絲ユフガ空ニシテト轉シテ見ユル游ハ處サタメヌコノロソ轉ハアタコナタヘウツリカワル意ソ游轉トモニ虚字ニテ意熟ス

高揚拂池垂 同上

高ノ字垂ノ字照應ス言ハ高キ柳ノ枝カヒキクメテ池水ヲ托フト揚ノ枝ハ高ケシドモタヲヤカシバ下ヘヒキクメテ見ユル高垂共ニ虚字ニテ意熟ス

上巳故事 蘭亭 王羲之カ蘭亭ニテ曲水ノアリビシクナリ

南澗 孫綽カ序ニ後 金堤 鄴中記ニ華林園中ノ金堤ニ兩銅

龍水ヲ吐テ御溝ニ注ク石季 東堂 晉起龍三月三日ニソニテ遊コト処ソ 居注ニ

流杯ノ會ノ 石壇 西征記ニ天泉ノ南有石壇上巳御坐杯ヲ流ス処ソ

樂遊園 西京記ニ太平公主 南浮橋 夏仲傳ニ南浮橋ハ洛ニアリ 御別

上巳ニ虫貝賤集ハルナリ 東出西臨 己ノ詩ニ

東出子金偃西臨 賜園 景龍記ニ三月三日

鷹鷲渡トアリ 羣臣ニ細柳園ヲ各一ヲ賜ハリテ云ク是ヲ帶テ藝ノ毒ヲマカレ

○上巳詩

奉和三日被禊渭濱應制 張說
青郊上巳 豔陽年此紫禁 皇遊被渭川
幸得歡娛承湛露 心同柳樹樂春天

此詩ハ郊外ノ上ニユヘ春色新ナリ天
子行幸シテ留水ニ被シ玉ヲ張説モシ
トモニ加ヘテ歡娛ヲエテ御恩ヲウケ心ニ
喜ブコト樹ガ春天ノノグミヲウケ樂ムニ
ジトナリ湛露モ御恩ノナリ此詩ハ
タキコトヲヨク云ノベテ能詩ナリ主人ヲモ
テ祝ス人ナドハ此詩ヲ法ニシテ作ラヨキ
詩アリク

三月三日

白居易

暮春風景初三日流世光陰半百年欲作
閑遊無好伴半江惆悵却廻船

此ノ詩一ノクヨクユエタリニク流世光陰ト
ハナカレヤウニヤキ日月ナリ半百年ハ五十
ヲ云ニノク今日閑遊ヲナシクオモフニヨキ
友ガナレリ四ノク江ノ中ニ舟ヲ泛テ遊ビ
トモ友ナキニ無興ニテ惆悵ト愁コシ江
ノ半ヨリ船ヲ廻シテ戻ルナリ詩ハ上ノ
懷ヲノブル好キ詩ナリ法トス

三月三日泛舟

皇甫冉

江南烟景復如何聞道新亭更可過
須就陶令澤時俗猶傳晉永和更使輕
橈徐轉去微風落日水增波

フヨブニ新亭ノ趣キ過ルベキ佳景ナルトニ
四トコロ一蘭ナド抽テ生ニ浦ノナカニ
ナリ萋々シ草ハ遠山ニ多クミユルナリ五六壺
觴ノ酒ヲクミテ淵明ヲシタヒ時ノ俗ハ上ノ
遊コナリテ晋ノ永和ノ礼ヲ傳ヘタルナリ上
ノ礼永和ニハジユナリ七八舟ヲ泛ベテ遊
ビソロソカヘルベキトテ橈ヲ徐ク轉ジテカヘ
リサルトキ日暮ニテ微風ヲコリ水波ヲ増ス
トナリ此詩ナド景物ヲホカラス能ツクリナシ
タリ法トス

○端午總論

端午ハ仲夏ナレバ夏日ノ詩ノ趣向ナリ故夏
ヲ用ユルニハ虎鬪艸鳥羨鑄鏡ナドアレト絶々ナ
トニサレ故夏ヲ不用トモ榴花ハ夏ノ酒ヲ蘭
湯ノ類ヲ一詩ノ中ニ用ヒ端午ノ詩トナルハ眼
前ノ景ヲノブルニ古詩ニ梅榴花上雨蕭々
自切菖蒲泛濁醪ト作リ或ハ菖草開金帶
榴花綻絳裳ト作レリ此目上ノ景ナリ或ハ
情ヲ説ニハ古詩ニ今日獨醒無用夏為君
痛飲讀離騷言ハ今日屈原江ニ沈ミタルヲ
思ヒ出シテ我身ノエヲ思ハ獨リ醒タリトモ何
ノ用處モアルニキソ屈原ヲ吊スルハ酒ニ痛
ク酔テ其酒トスニ乘ジテ離騷ヲヨミタルカヨシ

トナリ此世ヲイキドホリタル情ナリ總じて詩
ハ我身ノ分ヲ知リ情ヲアラワスナメナレハ風
景バカリハ意味スルクナレハ情ト云ハ大臣ハ國
ヲ憂ヒ諸士ハ我ヲ學ビテキタ道ノ行ハルヲ
患ヒ不仕人ハ不遇時ヲ嘆キ平常ノ人ハ老
シ嘆ヒ年光ヲ惜ム情アリ壯盛ノ人ハ雪
月ニ逢テ心自ヲ悦ビシメサ花鳥ニ情ヲ惱ス
作アルヲ其身ノ境界ト心情ト都合スルヤ
リニ作ルコト肝要ナリ

端午大意

一天梅雨 イッカツクモ梅雨カハレヌト 蒲樽濁醪 カヘテヨリ

酒ヲ飲 紅ノ榴花端午ハ 苦島開

萱草ハ節 艾葉成ス 艾葉ニテ人ノ形ヲ作

洗梅黃 端午ノ節ハ雨カシケクフリ 榴花結

子 石榴花ヲシテ 菰葉繁絲 菰ハニコモナリ

ツム和朝 讀離騷 屈原カ事ヲ思出

荷香 十里ホドノ間荷 竹筒遺風 今日ニ至リテ

古へ遺風 蜜粉氷團 甘キチニキキ 淨 綠槐多

ナルリ 槐葉シゲリテ 清竹映簷 竹影簷ニ映

桐陰初密 桐葉ノカゲ 露葉風枝 露葉

意ソ 風折筍雨肥 梅雨ニ肥ユリ 村路

茶香 村路ニ茶ノ香 菰衣風涼 菰衣

涼キ 菱蔓滑 菱ノツルモ延出 藕絲長

リ 時節ハ藕絲 荷露生香 荷葉ニ露 桑正

モナカキ 緑ノ節ニナリタリ

熟語 細葛念風軟 杜少陵

細ノ字軟ノ字照應ス言ハ細キカタビラナ

レバヨク風シ合ムツホツキカタヒラナレハ軟カ

香羅豊雪輕 同上

羅ノ字輕ノ字照應ス言ハ香羅ノウスモノ

ハク色白クテ雪シタニタニ如クニ見ユルソ羅

ノ字輕ニ貼シ得テ好シ

池中綠滿魚如子 古詩

綠滿ノ字留ノ字照應入言ハ池中ニ綠リナ
ケハ魚モ子ヲトハル知テレ緑リ滿ルガ子
ヲ留ムルリ

庭下陰多燕引離 同上

陰多ノ字引ノ字照應入陰ナレハ離ヲ引ヘ
キ知モナキリ 陰多キカラ離ヲ引クトナリ
故友

帶蟾蜍 歲時記ニ曰万歳ノ蟾蜍頭上ニ角ヲ
リ眼赤シ額下ニ丹書ハ字アリ五

月五日日中ニトリテ陰乾シテ身ニ
帶ハ五兵ヲサルトアリ 六日ニ取用不立
鳥羨

郊祀志ニ重午ノ日鳥ノアツモノヲ作りテ百官ニ
賜ル鳥ハ惡鳥ナルニ殺ナリ類ヲホホス意ニ

賀扇 山堂肆考唐太宗端午ノ日長孫
無忘ト揚師道ニ飛白扇ニ枚ヲ賜

テ加賀シテ曰コヒ子ガハ清風ヲ 宮人塗
動シテ以テ美德ヲニセトアリトニ

山堂肆考ニ漢武ノ時端午ノ日蜥蜴ヲトリ
飼ニ丹沙ヲ以テ明午端午ニ其蜥蜴ヲ擲テ

宮人ノ臂ニヌル其色付テ 杵蠅虎 嵩畢術
不落人ト私ニ通ス消ストニ

日蠅虎ヲトリツキクダキ豆ニクルメツケテキ此ヲ
用ヒニ蠅ヲ打ハ豆ミツカフヲトリテ打トナリ

赤靈符 抱朴子ニ五月五日朱砂ヲ以テ赤
靈符ヲ書ク心ニカクシハ五兵ヲサレテ

李泌獻身 唐代宗記ニ端午ノ日君臣各
服玩ヲタテニル代宗李泌ヲ

玉ツハ先生獨リ獻物ナキハナソトアリケレハ李
泌カ曰ク臣頭中ヨリ履ニテ皆陛下ノタニモノニ

餘リタルモノハ獨リ一身ノミト卷シケレハ代宗
ノ曰朕カ求ムル知コニアリ此レ朕ガ用ル知ナニキ
カ身ニ非ストニ悦ビ給ヒトナリ

○古詩

端午日事

余襄公

江上何人吊屈平 但聞風俗彩舟輕空齋
無事同歸戲學繫朱此系 辟五兵

此詩言ハ江上ツツレノ人カ屈平ヲ吊フソトナリ
只風俗ニ五彩ノ船ニテ江上ヘ出テ遊ブト聞
及ビシトナリ三四ノ句言ハ我ハ此日外ヘモミテ

ズレテ空齋ニ夏ナクシテ兒女ノスルコトクニ
此日俗ノナストコロノ朱絲ヲカケテ辟兵符ナ
ンドコシラヘテ居ルトナリ

端午

歐陽公

楚國因讒逐屈原終身無復入君門願
因角黍詢遺俗可鑑前王惑巧言

一ニノクニ屈原忠臣ナリシカトモ 讒人ノ
ヲタミニヨリテ楚國ヲ逐ラタレタソ身ヲ終

ルニテ楚王ノ門ニ入ルヲ不得シテ早夕
ノ三四ノ夕言ハ屈原カ忠ヲ楚王ハ知ラナク
ハノコリヲホキコソ願クハク荆王ヲ以テ端
午ニ屈平ヲ祭ル者俗ヲ詢テ荆王ノ讒
臣ノ巧言ニ迷ヒタル鑑ミトセハ後世ニ忠臣モ
福ハヒアルヤシトナリ

○七夕摠論

歲時記ニ七月六日ニフル雨ヲ洗車ノ雨ト云七
夕ニ織女ノ駕スル車ヲ前ノ日洗フト云意ナリ
七月ニフル雨ヲ酒淚ノ雨ト云七日ニ雨フシハ
天河ニナキリテ水ニシテ牽牛織女ノ會
ナレシハ二星カナシニテ淚ヲ洒クト云意ソ
二星ノ一ハ續齋諧記ニ武陽城ニ武丁ト云モ
ノ仙道ヲ得タリ或時其弟ニ語リテ曰七
月七夕織女星カ天河ヲ渡リテニハラク牽
牛星ニ語ハト語シヨリ世人今ニイタルニテ
織女カ牽牛ニ嫁スルト云傳タリ七夕ノ詩作
ハ牛女ノ故古又ヲ用ユリナラハ古詩ノ作タル
跡ヲ考ヘテ知ヘシ鵲橋ハカサキガアツコリテ
織女ノワタル橋トナル云又ハ星橋トモ云
織女ヲ天孫ト云或ハ月娥或ハ星娥トモ云牽
牛星ヲ河鼓トモ云天河ヲ銀漢或ハ星河
或ハ斜漢或ハ銀河或ハ星渚銀浦銀灣トモ

云織女牽牛ノ車ヲ雲輶雲車仙車羽
車ト云詩作ノ中ニ如此文字ヲ用ユル七夕
ノ詩トナルメシ二星天河ノ異名ハ此外ニハ詩ニ
作リテ風流ナケル用コガタシ故事ヲ古詩ニ
用ヒタル類ハ星橋有路嫌秋遠銀浦前無情
促漏殘言ハ織女渡リテ牽牛ハカヨフ星橋ノ
路アレハ七夕ナラニハ遇ヌホトニハヤク七夕ニナ
レガシト秋ノイダ遠キヲ嫌フソサテ秋ニナ
リニイタクハ遇トキハ夜短カク銀簫前ハナ
サケモナクテ漏刻瀟ノ纒ニノコルヲ促シテ夜
カアケヤスキト二星ノナゲク意ナリ或ハ鵲橋
一別西風隔天上人間總是愁言ハ別ホドカ
ナシキモノハナシ二星カ曉キ鵲橋ノ邊ニテ
一度別シテ又一年ノ西風ヲ隔テ久シク
遇ヌソ天上モ人間モスヘテ此別ノ愁ヒヤ
ヒカナシトナリ此夕ハ我身ニ少シカリタル或
ハ石屏ノ詩ニ天上銀蟾曲似鉤萬家簫鼓
響新秋從來世事多似戲不獨人間乞
巧樓ト作ヒリ此ノ詩ト巧ノ二字ヲ以テ七
夕ノ詩ト見ユソ大意ノ語ヲ考ヘテ作為ス
メシ
七夕大意天上佳期天上三三星ノ今夜相
逢佳期ナルソ
人間令節人間ニモ今夜七夕ナリトモ巧
ミツリヲナシ樂シムヨキ時節ソ

銀河如練天ノ河ガサヘテ白キ 渡明河二星

夜天ノ河ヲワタリ 巧意世間ノ人カ

至拙吾事 至極ニツタナキハ吾身ナシハ 清風

夏々秋ノ初ニテ清風 月魄始 月モセタ

美キリ 金風玉露 秋風ヲ金風ト云ツ 河流

清淺天ノ河ヲミレバアサク 橋映疎雲二星ノ

橋ガ疎雲ニウツリテ 銀河一帯 銀河ヲ見ルハ

凌波起塵二星ガ河ヲワタリ塵 佳期隔

年七タニ二星ノ佳 露華新露ノヒカリモ

月半輪月イミダ 五雲車織女五雲車ニリ

恐催曙光二星ガ曙光ニナラバ別ルキ 西望

天潢天潢モ銀河ノ 耿耿光銀河モセタニハ

別恨經年別ノウラミニ年ヲ經ソ經ニ年トハ

相會ナキ故ニ經ニ年ヲカフナリ

熟語 蛛絲結網蜘蛛ノ糸ガ細ク結ニ 金風細古詩

此夕言ハ蛛ガ細ク結ニ秋風ノ中ニ絲カヨミカニ

見ユルソ字々照應ス

鵲羽成橋玉露清 同上

鵲ガ橋ヲ成シタハ秋露ガ羽ノ上ニイサギヨ

ク見ユルナリ字々照應ス

白露含明月杜審言

言ハ白露ガイサキヨキニ又明月ヲフクミタツ

青霞斷絳河同上

青霞ノ色ガ絳河ノ上ニタナヒキタソ上句此

夕白明青霞ノ四字皆光彩ナリ

故事

贈七寶枕墨莊沈録ニ大原ノ郭翰少キ

中ニ卧シケレバ空中ヨリ人ガ下ルヲ見シハミ

願クハキキリヲナサント枕ヲ伺シテイ子タ

リ曉キニ去リ夜ハ來ルセタニ去リテ夕キニ

千不來或時郭翰云來ル一何ニソ遅ギヤ
女ノ日人中ノ五日天上ノ一タナリト云或時女
淚ヲ流シテ曰帝命ニ期約アリ此ヨリ永ク
訣ルヘシトテ七竈ノ枕ヲ贈リテ別レ去シ
トナリ

照女兒浮水 唐ノ歲時記ニ七夕ニ
作リ水中ニ浮テ弄ブナリノ俗ニ此ヲ作セバ
ヨキ兒ヲ産ズル祥ナリト云

種生 山堂肆考ニ京師ノ旧俗ニ七月七日某
豆小豆小麦ヲ水ニヒタシ芽ヲ生シ紅
藍ノ絲ヲ以テツカ子テ此ヲ

神光 東漢書竇后少キ時カフロニシテ髪不
生家人皆アナトリテ齒ニセス七夕ニ家
人皆出テテタバタノ星ヲ見ル竇后ハ出ガリ

漢帝ノ后ニナリ 竇后ノ室ヲ照ス後ニ
タニヒシトナリ

方平駕龍 列仙傳ニ蔡經
家人去ル時己
老人ナリ後ニ家ニカヘリタレハ少カクナリ

皆黒クナリタリ家中ノ人ニ語リテ曰七月七日
ニ方平來ルハシト云其ノ日ニ至リテ方平羽車ニ

ニリ五龍ニ駕シテ來ル金鼓人馬ノ声聞ヘ
タルト

ナリ 揚妃私語 唐ノ玄宗景者ヲサリテ驪
山宮ニ遊ビ玉ヲ七夕夜半

ニ揚妃独リ待ケレハ玄宗揚妃カ有ニヨリカ、
リテ願ハセタ夫婦トナラフニト折言シナリ
○七言詩

七夕 梅聖俞前

古來傳織女七夕渡明河巧意世爭乞神
光誰見過隔年期已拙舊俗驗於誰五
色金盤果蜘蛛浪作窠

二二ノ夕言ハ古來ヨリ七夕ニ織女カ明河ヲ渡ル
ト云ト傳タリ三四ノ夕言ハ其ヨリ以來巧ニナル

ベキト世人カ織女ヘ争ヒテフリサレ真ト傳ト
フ知リタルモノナシ織女ノ河ヲ渡ル神光ノ

過ルヲ誰カ見タルヤトナリ五六ノ夕言ハ織女
カ巧ナリト云トモ一年ニ會ノ外ハ遇フナラス

其身サヘ自拙キリ舊俗ガツタナキ織女ニ巧
ヲヒテテ驗シテ願フハ詭リソ七八ノ夕言ハ

五色ノ金盤ニソナヘタル瓜果ニ蜘蛛カ網ヲカ
クレバ願ヒカナフト云ヘドモ浪リナル詭ナヒト云

七夕 杜牧

雲階月地一相過未幾今年別恨多最
恨明朝洗車雨不教同脚渡天河

一三ノ夕言ハ天上ノ雲階月地ヘ織女カ一度
相過テ牽牛ノ星ニ遇フソ一タノ交會ハ今年

別恨ノ多キニシラブレハ中々アタラヌソ三四
ノ夕言ハ明朝洗車ノ雨カフリテ同脚ヒチ

天河ヲ渡リテカヘルヲナラズハ喜ブベシトモ
雨フルニシキホドニ最モ恨ミ多カルニシトナリ

○中秋惣論

仲秋ノ月ヲ端正ノ月ト云韓退之カ詩ニ
三秋端正月今夜出東溟トアリ総ニテ古
人ノ論ニモ梅下雪ト月トハ詩ヲ作り難シ
トリワキ中秋ノ詩尤モ賦ニガタシトアリ古
詩ニ此夜一輪滿清光何處無ト是貫休
加詩ナリ又此生此夜不長好明月明年何
處看此東坡カクナリ又嵩山不隔中秋
月ト云タルハ嵩山ハ谷カクナリ中ニモ此山谷カ
下其甚ハ夕奇ナリト古來ノ評アリ古詩ヲ
考合ニテ情景ヲ兼中秋ニ親切ナリヤリ
大意 十分圓 中秋ノ夜ハ月ハ千里共
里ヲ隔テモ中秋ノ夜ハ疑霜雪 月影ノ白キハ
ハ晴モ陰モ同キモノリ 疑霜雪 雪カ霜カト疑
數秋毫 月明ニシテ秋毫モカゾ 露花新
露路モ月ヲ帶テ 星漢山 月明ニシテ天河
コカリガアルトナリ 星漢山 ウスクト目見ユルソ
隔年期 月落テハ又來年ノ 挂魄十分圓 挂魄
秋ナラデハ不見リ

十分圓カ 平分秋色 平分ハ秋ノ半 白玉
ナルヲ云フ 十五夜ヲ云フ

樓高 月影ニテイヅク 挂香帶露 月桂モ
モ玉樓ノ如ナリ 此夜ハ

ホコアリテ露 盆面浮光 盆ニ月影 氷輪
ヲ帶タルソ 氷輪 氷ハ月ノ影 氷輪
皎潔 氷輪ハ月ヲ云 看如洗 月イサキヨク
イサキヨクヲ云 洗 洗出し如

孤光動 月ノ光リ 動ガ如ナリ

不見月 蟾華没 蟾華ハ月ノ光リ
シ云此ノ夜ハ雲

見ニテ 鬼魄沈 鬼魄ハ月ナリ沈トハ
見ニテ 秋寂 月

トニ秋夜 空倚南樓 月ナキホドニ 空負中秋
サニシキリ 空樓ニヨリ 空負中秋

月ナケルニ中秋モ 雲妬雨昏 行雨行雲ニテ
イタツラニ過ルソ 雲妬雨昏 月ナサヘキルソ

絶光輝 雲ニサヘラシテ 雨滴池 雨カカリニ
絶光輝 月光ナキリ 雨滴池 雨カカリニ

負約 月カ此ノ夜ハ光リヲカクシテ 惜嬋娟 月
見セズニ約未ニソムリト云リ 惜嬋娟 月

イツクシキリ 惜ムハ此夜 挂花香失 月光
ハ雨ニテ見ヘズ惜ムトナリ 挂花香失 月光

雲漢黒天ノ黒キ 姮娥堅閉姮娥ノ月宮ヲトケテ出ズ
ノ杯盤寂寞月ノ不目ルホドニ

十四夜 九分圓十四夜ナレハ一分ヲ欠リ 輪未

滿月輪ノミダ 清光尚欠月光カイニ 二七

秋容十四夜ノ 九分明イタナク 欲圓時ニナキト 四

夜ノ月ノ 十ハ 六ハ 夜

二八秋 鄧恐臣詩ニ 銀色ニ 千里 輪

減光虧月輪ノ 光淡影斜十五夜ニ 寶鏡

尚明十六夜ナレハ 減嬋妍月光少シ 十五

熟語 高樹尚無影梅聖俞

高ノ子無影ノ 照應入言ハ 月出テ イニ 夕

遠鴻時有 同上

遠ノ字時有 子照應 入言ハ 遠ク飛鷹ノ 声

萬里ノ字同 子照應 入言ハ 此夜ハ 萬里

照シ 一年 今夕 最分 明 同上

佛氏ノ字銀世界ノ 子照應 入言ハ 月ノ明 カ

波分 編帶 長ト 作リ 斜穿 北牖 玉玲瓏

詠バ ルニ 似タ リ一 夕ノ 中ニ 三字 ノア 七字 ノハ 故友

靜龍出丹 明皇雜錄三月十五夜 葉靜

龍明皇ノ ヲム カヘ テ月 宮ニ 遊フ

故友

靜龍出丹 明皇雜錄三月十五夜葉靜

龍明皇ノヲムカヘテ月宮ニ遊フ

寒凜トサマクシテ明皇寒ニタヘ
静龍丹ニ粒ヲ出シテ進テ服セシ陰晴
使燕録ニ曰中秋天色ノ陰晴ハ遠キ夷狄
トテモ同シトナリ東坡カ故人史生ト云者東
坡ニ語リテ曰余海上ニ賈人ニ問ケシ賈人
言フハ中秋ノ月相去ルコト千里ナリトモ他日
相トハ陰晴同シトカクナリトナリ東坡カ詩
ニ嘗聞此宵月萬里同陰晴ト作リタルモ是
ニヨリテ光屬林間ニ酉陽雜俎ニ長慶中
ナリトナリ
林間ニツキキヌヲ引タルヤウハ文蕭馬綵
ナリミテ近クヨツテ見シ金蝦蟆ナリ
傳奇録ニ鍾陵ノ西山ニ遊惟觀アリ中
秋ノ夜ハ車馬カヒスク遊人アリ蕭生此
処ヘ往タレバ一人ノ美女子見ル詞ノ唱テ曰若
能相伴陟仙壇應得文蕭駕綵鸞ト云
ソレヨリ松徑ヲツタヒ山ヘノボルハ文蕭モツ
テノボリニ相トモニ山ヘ平カニ知ヘ行ケルハ
俄ニ大風起リテスサシ仙入ノ重子天判
トナリ札ヲ持來ル其ノ文ニ吳練綵鸞ニオボ
レテ天機ヲモラス罪アリトテ民ノ妻トナ
ル
○古詩
中秋月 白居易

中秋月 白居易

萬里清光不可思添愁益怨遠天涯誰
人隴外久征戍何處邊州新別離
矢罷故姬歸院夜沒蕃老將上樓時
照他幾許人腸斷玉兔銀蟾遠不知
三ノ夕言ハ萬里ノ清光ハ思テモ思ヤラズ
何ホドノ夏カサニクアルラニ此光ハ愁ト恨ト
シソヘテ天涯ニテ光ガノクルリ三四ノ夕ハ隴
外ノ遠キ處ヘ誰人ガ他国ノヲサヘニ行キモ
ラシ又ハ何處ノ上庭前ニ新夕ニ離別シテワ
カレ行人アルラニ此夜ノ月ニイクバクノ思ヒウ
ミアラニトナリ五六ノ夕ハ君ノ罷ラウシナヒ
ル故姬ハ君ノ夜ノトナリハセズニ院ヘスゴク
ト歸ル夜ノ思ヒ又ハ遠國ノ歌ニトラハレテ歸
ルヲモナラヌ老將ノ故郷ヲ思テ樓ニ上ル時
比皆此月影ニ涙ヲ落スヘキリセハカリノ如
クナル幾許人ノ愁ノ斷腸ヲ照スフニ玉兔
銀蟾ハ月ナリ月ハ遠キハ是ヲ不知ソ
八月十五夜禁中夜直寄元九同
銀臺金闕夕沈シ獨宿相思在翰林三五
夜中新月色千里外故人心渚宮東面
烟波冷浴殿西頭鐘漏深只恐清光不
同見江陵早濕足秋陰
二三ノ夕言ハ禁中ノ銀臺金闕夕ニナリテ沈
トシツカナリ獨リ翰林院ニ宿シテ元九ヲ相

思ハカリソ三四ノ夕ハ此夜三五ノ夜新月ノ色ヲ見テ二千里外ノ故人元久モ我ヲ思フミト思アルナリ五ノ夕水鳥遠ノ宮ハ東面ニ烟波モヒヤカナリ浴殿ノ西頭ハ夜深テ鐘漏カサゴシクキユルソ七八ハ只恐ルハ此清光ヲ微之ハ此夜見ニキカト思ソイカニトナレハ江陵ハ早瀬ノ地ナレハ秋ハクモリガ午ナルホドニトナリ

同

白居易

人道中秋明月好下欲邀同賞意如何下華陽洞裏秋壇上今夜清光此處多下三ノ夕言ハ人一年ノ秋ノ月今夜ノ月色他時ニカワリテ好ト云リ然ルホドニ友ヲムカヘテ賞玩セニト思フカイハ思ハルトナリ三四ノ夕三五夜ノ月モ殊更ニ好ナリ華陽洞裏ノ仙壇ノ秋ノ夜ノ景ゾヨシ今夜月ノ清光カ此処ニトリワキ多キトナリ

○重九總論

九月九日ノ節重陽トモ重九トモ云此日ノ詩高キニ登ルルヲ茱萸ヲカクルルノ類ヲ至ニテ情ヲ迷ルナリ古人ノ詩多シ特ニ九月ノ故直モ多キヲ考ヘテ作ルルモ暮秋ノ景物感慨多カルシ秋ノ大意ヲ見シ重九大意

黃花吐敗葉飛

黃菊ノ花モ開テ木葉枯テ飛落スルナリ菊花

期期トハ重九ハ菊花期ヲ玩ブ時節トナリ

紫萸落酒紫萸落酒ノ

落ト云外ニテ作ルルサ菊花

紫萸落酒紫萸落酒ノ

泛泛ニテ酒東籬空繞

菊カイヤダ開カテ籬ヲ空ク繞リ重陽ヲスゴ

スト滿城風雨

重九ノ時節ハ秋風吹衣

吹入リ

疾風

登高懷遠

旅人モ高キ処ハ重九ハ疾風ノホリ遠キ故郷ヲ懷ト

迴雨重九ノ時ハ必ハ雨モ

去年香重九ノ菊

香去年ノ如ニ洛木無邊

イツカタモ重九ノ此本葉カヲツルトナリ

江涵秋影

秋ニテハ水モ一入キヨク秋雁初

同秋モ暮ニナリテ雁

簞根菊綻ホコラカキ根ニ菊

酒傾菊花菊花ヲ酒ニ黃菊向

菊花が開テ人見 秋已老 重陽ハ暮秋
ヨト云ヤウナトナリ ナレハ秋己老

濁酒誰同 重陽ハ友ナキカ 黄金花
ソト云ヤウナトナリ 誰ト酒ヲ酌ニナリ

半黄金ノ色ナク 紅葉樹間 紅葉シ花
ナリノホトリト云フソ 林ノ中ナリ

登高一醉 高知ニホリ酒ヲノミ 回首
酔スルリ重九ノナラハシク

斜陽ニ秋ナレハ遊山ノ間モナキニ
斜陽ニナリタルトナリ

熟語 黄菊向人殊有意 古詩
此ク言ハ今日佳節ナルニ黄菊花開テ我興ヲ

催スハ此詩人ノ意ヲ知テ開キタルヤウナリ
向人有意トハ花ヲ人ニ見ヨト開クカトナリ

無情ノ花木ヲ人ニ向ヒト云意アリトハ皆此ノ
格ト知ルベシ後ノ夕ニ味フベキソ

清樽今日定須開 同上
此ク言ハ前ノ對タナリ言ハ佳節ナレハ清樽モ

今日ハ必定開テ酒ヲノミ遊ブベキト黄菊花モ
アラドジメヨク知リタルカト云意ソ前ノ夕

ノ向人有意ノ字ヲ此クノ中へ入シテ意味
ヲ知リ 詩作ノ夕作リナスル

酒邊泉溜寒侵骨 朱文公
此ク言ハ酒ヲクム邊ニ淺水アリテ其イサキヨク

冷カナル人ヲ侵シテ骨ニトラルホド寒キリ
寒侵骨ハ水ニカキラズ他人ノ詩ヲ復テ詩

意ガイサキヨクテ寒侵骨如ナルト用ユルアリ
坐上山嵐光翠染衣 同上

此ク言ハ九日ナレハ高キニ登リタルユヘニ坐上ニ
山嵐ノ光カシカシク其坐ルカウツロコニ翠

カ衣ヲ染メタルト見ユル翠染衣ノ上子山嵐
光ニカギルベカラス山色水ノ色皆用ユル

故山此日還佳節 朱文公
上ノ八字ノ對一瘦一肥ノ体ナリ此ク言ハ故

山ニ此ノ重陽ノ日又佳節ナレハ黄菊ニ對
シ清樽ヲ開テ遊ニテ晚暉ニ及トナリ

故友 無逸題壁 山堂肆考ニ謝無逸
カ潘大臨ニ書シツカ

ハレテ近コト新詩ヲ作ヤト問ケレハ答曰秋
來ノ景物皆佳致ナリ昨日風雨ノ林ヲ吹声

ヲ聞テ起テ壁ニ題シテ日滿城風雨近重
陽ト作リシ時夕ニ催租ノ人來リテ詩

ノ意ヲミキラカシ破リタルユヘ只此一ウナリ
ナリ此ヲヨセタテニツルトアリ 催租ノ人トハ
地子ヲハナリ 宋公登臺 南齊書ニ宋ノ城
ニ來ル人ニ 彭城

アリし時九日ニ出ラ、項羽ガ戲馬臺ニ登リテ遊ビシナリ其ヨリ後世ニイタリ故またナリテ九日ニ陸羽煎茶傳、皎然九日陸此臺ニ遊トナリ、羽ト茶ヲ煎ス東坡カ詩ニ明年又桑苧煎茶、今良餌長壽、西京雜記ニ漢武帝ノ宮人西貢佩蘭九月九日茱萸ヲ佩、餌ヲ食、菊酒ヲノミテ壽人命ヲ長ストアリ、餌ハ米粉ニテ作タル餅ナリ

○古詩

齊山九日

杜牧

江涵雲影鴈南飛、與客携壺上翠微、塵世難逢開口笑、菊花須插滿頭歸、但將酩酊酬佳節、不用登臨怨落暉、古往今來只如此、牛山何必淚沾衣、
一、二ノ句、言ハハ秋水ニスミワタリテ雲影ヲミシ、鴈ハ南ニ飛リ今日重九ナリ遊客ト壺ノ酒ヲ携テヘテ翠微ニ上ルソ三四ノ句、言ハバトニ逢ガタキソサルホトニ人日ハ意ニニ遊テ菊花ヲ滿頭ニサシテ歸ルヘキリ五ノ句、言ハバ酒ヲノミ酔ツブレテ佳節ニ酬ユベキソ登臨シテ落暉ニナリ日ノ暮ルガ殘多トウラムルハ無用ナゾトナリ其モ覺ヘヌホドニ酔タルガヨキソ

七ハ一ロモ今モ人間ノ身ハ同コトソ、眞愛喜悲、歡シノカル、コトハナラヌソ、必シモ牛山ニ登リテ將來ノコトニテ悲シミテ淚衣ヲ沾スハオロカナルゾトナリ

九日

杜少陵

寒花開已盡、菊蕊獨盈枝、萸酒摘人頻、異香酒斲隨、地偏初衣袂、山擁更登危、萬國皆戎馬、酣歌淚欲垂、
一、二ノ句、言ハハ秋ノ寒花開テ己ニ盡タリソ、三四ノ句、言ハハ日々ニ此菊獨リ枝ニ盈タルソ、五ノ句、言ハハ日々ニ此ノ菊ヲ摘ム人カワルホドニ日摘ト云ソ、輕香ヲ愛スル人モ日ニカワルホドニ酒ニバツク隨ト云ソ、五六此ノ地偏ニシテ寒、暖常ナケレバ初テ袂ヲキルソ、山カメグリ擁マアレハ危キ処ヲツタヒテ登ルソ、七八秋景如此ナレハ國家騷亂ニテ戎馬ノイトニナケレバ愁ニタヘヌホドニ世ヲイタミ君ヲ憂テ酣歌シテ淚ヲ垂ルバカリソ

全

王介甫

九日無歡可得追、飄然隨意歷山陂、將陵西曲月煙慘、也、有黃花三四枝、
一、二ノ句、言ハハ今日重九ハ古ヨリ歡遊ノ佳節ニ上ル人ノ如クナル歡ビテ追テ遊フコト得ニシキニアラズ、飄然トシテ隨意ニ山陂ヘノボルソ

三四ノ言ハ昔ハ齊ノ武帝ノ君臣ヲ令
日燕セラシ蔣陵ノ跡西曲ノ風烟ヲミル
今ハ古ニナリテ慘然トイタミシ昔ノ名
残ハ黃ハ花カ三兩枝アルノミトナリ

地理

○山總論

山上遊覽ノ詩ハ石路苔徑ノ曲折アリテ遠ク
上ル意或ハ山石清泉岩谷溪流ノ物古リテ
幾千年トモ知らズ綠樹煙霞深ク幽カ
意木コリ山人ノ往來スル景或ハ仙客道士モ
コニ遊ビ怪禽奇獸モムベキナト作ルメシサ
リナガフ其ノ土地ノ村落へ遠キカ近キカ山ハ
淺キク深キカノ意得テ恰合ヨクツラヌ
情ヲノブルニハ醉吟狂歌シテ物外ニ遊ブ
上意塵世ヲ出テタル意ヲ作ルメシ景ト情
トカヌルヲ肝要ナリ假山ハ庭前ノ築山ナド
モ詩ニ作ルニハ廣大ニ説キ出し深山岩窟
ノ意ニ作ルメシ假山ノ大意ノ文字ヲ以テア
シラコ作ル假山ノ詩トナルヲ設ルハ一筆秀
碧石ナドニ云コ庭前縮地來ナドニ云ハ假山ノ詩

トナルメシ古詩ニツビニカニ記ス今略此
大意 附郊野

青山碧山 山ノ形青タル
翠黛畫屏 翠黛畫屏 山

ノ色ハミドリノニユズミノ如
送青從翠 山色カ

遠キ處ニテ見エワタル送
遠キ處カ獨立ニテ見ユラ從
山ノカサナリ 萬仞青 山ノ高キ

侵碧落 碧落
ハ天ヲ

從青空 上宿雲端 山上ニ宿スルハ雲
端ニ宿スルカト思

石磴山路ノ石ノキガ
綠画眉 山ノミドリ

半山雲 山ノ中ホドノ雲
無限好山 好山ノ多

屏寒 山ニ松ナドナラビテ
無上好山 好山ノ多

細看好山 山ヲ愛シテ子ニ
佳絶處 山ニ

孤猿幽鳥 鳥モアルニトナリ

風煙蕭索 山景ノ気色
不知處 山家ヲ

雲深ク山遠シ 看ミ不厭トモアカマソ 長松

倒臥ス古松トモ古木 日映山ス山 嵐光ナリカスミ

時聞啼鳥ツツリク鳥ノ 煙收ヒキ

翠色ツク翠色ハ山ノ夕烟ガ立 青壁潤ハ山ヲ

雲閑雲ノ客モシツカナリ 我心ガ

見リ如翠浪湧カハミドリノ 浪

溪水大意 水作羅帶水ノミドリス

淡如油水ノ色淡クシテ 風雨來溪水ノ音

僧眼碧天空ノ僧ヲ胡僧ト云 眼

向醉中水ノ流ル声ハカニ

倚枕聞溪水カ面白サ枕

青羅帶溪水ノミドリハウス 泉声暗咽泉

暗泉溪水ノ下又ハ草ノカゲニ

細き泉ノスミ流ル声ハ

遠山大意 天表天外雲表雲外皆此

一望千里遠

連雲接水遠山ハ雲ト連リ

連芳艸遠シテ芳艸ノ

微茫山遠クテカス

雲端雲間皆遠ク

極目遠キヲ 一點暮雲一點ハカスカ 青山

横空遠山ハ天ニ横

春山春山ハ若草モ 春山草香香アルモノナリ 艸木

野花幽野草ノ花モ秀

野燒野燒シテ草ヤケタル

春入燒痕痕ソノヤキニタルアトノ青クナリ

ソノ推声聞キコリノ歌ナドカ 勝事多春

ニ面白キ賞翫忘歸春山ヲ賞遊シテ 翠

微深處春山ノ青々トシタル處カ 鳥語多

春山ハ鳥モ 青帳展青々タル山カ青 畫屏

開春山ノ圖画ノ屏 桃花流水春山ノ流水ニハ

崖樹綠キレノ樹モ翠 煙雨ケフリノ如クニ

不可畫春山ノ景ハ 碧更濃山色ノミトリ 淡

青春山ノ色ハ青ク 清遊春山ノ遊ハ塵世

天晴鳥語天氣ヨクク鳥モ

秋山 蕭疎秋山ノサヒ 寂寞同秋

容清秋山ノイサギ 景氣醒秋ノ景氣ハキ

如ナ風霜揺葉 風煙冷秋

草木黃草木モ色ツキ

落草木黃 寒澗水鳴秋ハ澗水ノ声 窸

黃落山ヘノボレハ黃葉 半山黃半分ノ山

四山盡秋四ノ方ノ山 天遠秋ハ天モ遠シ 萬壑

風烟萬山ノ風烟 風渡深林風カ秋林ノ深

△假山假山ハ庭前ノ築山ナリ大方山ノ大意

壘石奇石アツクタニシテ 栽花山

築テ花宜庭中 小山

川庭前ニテ 人工山川ハ天地造化ノ作 疑在

野此假山ヲミシバ我ハ 移來幽院カスカカニ

寫真山色ノ真ノ形 一拳秀碧假山

几席間假山ハ几席ノ

几席間間ノ山川ト云意ソ

春野 萬樹春紅 萬木ニ花サ 万川紅

雨 花落テ川流 揚花撲面 柳絮カキリ

桑麻肥 農家ノ 鳥語呼客 春野草花

春野ノドカニテ鳥 百艸千花 春野草花

烟村路細 村々モ烟リ起テ路 迷燒痕

野燒ニシテフトガミニテ 柳岸橋低 柳ナド

テ野徑ノ橋ニテ 平野雲垂 遠キ野ノ末ニ

耕ニ緑野 農夫ハ春ヲ得 四望寛 望ニテ

サワリモナク 擣隱意 春野ニ寛クト遊歩スルハ

キ意 迎鄰叟 野外ニテハ田舎ノトナリノ農

事足 春雨モフリ農者イツカク 淡烟疎竹

モトノヒカツニヨキリ

ウス〜トタツ烟ヲロク 村々緑暗 春野ノ

山如染 山ノミドリ 村路斜 村々ハ行路 牽

恨柳條 春ノ歸ルヲ恨ミカ柳色ヲ 蒙々小

雨 春雨ノクワ

秋野 西風北落日 秋風ノサミ 瀟洒寂

寒 皆秋ノサミ 稻花風香 子ノ花ツキ風

疎林宿鳥 木葉落テテソロソカナル 林煙淡々

見ユルトナリ 高樹夕陰 秋日ノタカク

紅葉過雨 紅葉ニ 供醉眼 秋野ノ景醉ハス

黃花落 木葉モ黄ニナリ 行人少 秋野ハ行人モ

牧童 牛馬ヲ野 村童 同上 秋野ニ必アルヲ大

此類ハ初學ノ 寒蟬高鳥 秋ハ蟬モ声ム世鳥

ノ為ニ記ス

遠岸秋沙 遠岸ニ秋ノ沙カミハ 日荒蕪 秋ニテ野

邊カ日々ニ 曉露重 アカツキ露カワリ 禾半熟 稲

ハも色ツ 橘柚香 秋モホニナリクチダナ 折葦枯

荷 アレモカレニラシ 路 鷺 鷺閑暇 サキナドカ魚

閑ニ 晚林紅 夕日ニテリテ 林モ紅ナルリ

熟語 連天凝黛色 王維

山ノ色カ天ト一色ニミテユズミノ如ク

經年吟不得 活法

盡日看無厭

經年ハ年々ナリ此山ヲ年々見レドモ景ゾ色無

數ニテノ詩ニモ吟ツツサレヌソノ面白サニ盡

看レトモアカヌツ

樓閣出煙蘿 白居易

山上ノ樓閣ヲ仰テ見レバツツカツラノ中ヨリ屹ト出

テハ見ユル

絶壁層雲 許盡胸 朱元晦

世上風塵ノ中ニテハ胸ヲ洗フナリガタシ絶壁層

雲ニテヤウク胸ヲトラカスゾトナリ

廻崖疊嶂 凌蒼々 李白

蒼々ハ天ヲ云メグレルキレカサナル山ヲ凌クトニ

忽然ハ天ヲ語ス 半天上 劉禹錫

忽然トワラヒカタルモ地カ高クレバ遠クニキテ半天

ノ上カト思フナリ

歩々相携不覺難 同上

友生ト山ヘノボレバ相ツツサヘテ互ニカタリテ上

ホドニケハレキ難シオホヘナリ

山花得雨新如洗 黃順之

山花ガ雨ニウレホテニテ色カ新ニ染メ出シ多クニ

杖藜踏破幾重雲 戴笠 見ユル

杖藜ニテ山ヘ高クノボリタルガ幾重ノ雲ヲ

フミヤブリテ來リタルトナリ

沿溪一徑入青霞 張籍

溪ノ曲折ニシタガヒテ一徑アルガ何處ヘ行

路カト見レバハテハ青霞ニ入ル

故友

龍蟠 山堂肆考云鍾山舊名金陵山諸

葛亮曰鐘山龍蟠石城虎踞ト云ヘリ

山ノ貌ヲ詩ニ作シ羊飛 同上羊飛山ハ夔州

龍蟠虎踞ト用メシ

ニアリ昔人仙ヲ字シ

テ此ノ山ニ居リシニ羊アリ一日童子ニ戒テ

曰羊ヲ放ツナカレト然ルニ童子放ケレバ羊

天ニ飛ノボルト也故夏ニ用ニハ仙ト
 羊ノ飛ニシテナラベテ用ユヘシ
 洛陽山ニ王次仲カ廟アリ秦始皇カ時蒼
 頤カ舊廟アリ秦始皇大ニ怒テ檻車ヲツ
 カハシテメシ取ニトセシ次仲大鳥ニ化シテ飛
 去リ西門山ニテニツノ融ソカ洛ニタリ
 ソレコリ落陽山ト名ツケタリトナリ釣魚
 山上釣魚山ハ合州ノ東ノ山南ニ太石ノ礎
 ノ如ニ平ナルアリ昔シ異人アリテ此ノ石ノ上ニ
 坐シテ江ニツリヲタシシムナリ
 大ナル足アトアルトナリ
 敷系馬同上海
 州ノ東
 ニアリ世ニ傳フ秦ノ始皇此ニ遊ニテ州ヲ結
 テ馬ヲツチギキトシ今ニ此ノ山ノ巔ハ結ビタル
 如クナリト
 紫帽同上紫帽山ハ泉州西南ニ
 アリ唐ノ泉州ノ人洛陽ニ
 客タリシガ一羽衣ノ道士ガタノミテ紫帽
 山ノ隱者ニ書シヨセタリ其人歸リテ其書
 シ隱者ニトツケタシハ隱者カ米ヲ半舛其人
 ニツクレリ家ニ歸リテコレヲ見ハ金粟ナリト
 ○古詩
 訪古登嶺首憑高眺裏中天清遠峯出
 水落寒沙空弄珠見遊女醉酒懷山公
 李太白

感歎發秋興長松鳴夜風

一三ノ夕ト古ノ人ノ跡ヲ訪フテ嶺首山ハ登リ
 高ニヨリテ襄陽ヲ眺ムリ三四ノ夕ト古ノ秋
 ナレハ天モ清ク木葉モ落テ遠キ峯モアラヒ
 出テ水モ涸カテ落テ寒キ沙モヒロク空ニキリ
 五六ノ夕此ヨリ江湖ヲノゾムニツクテ珠ヲ弄
 ビテハ鄭交甫カ遊ヲ見タル思ヒヲ起シ
 酒ニ酔テ襄中ヲ望シテ山簡カフツ思ツテ
 ハノ夕ハ如此感難シニ悲秋ノ思ヒヲ起セ
 萬古又陳跡トナリテ長松ノ梢ニ夜風カ鳴
 ルバカリトナリ

鐘山

王荊公

澗水無聲遠竹流竹西花草弄春柔
 茅檐相對坐終日一鳥不鳴山更幽
 三ノ夕ト古ノ鐘山ノ澗水流ル声モナクテ竹
 林ヲ遠ルリ此ノ閑ナル山ニ澗水ニゴゾトモセズ
 サシキゾ其ノ竹林ノ西ハ花柳多クアリ
 イニタ花サカ子トモモハヤ春ノ和ヒムツアハ
 シ弄アリ三四ノ夕ハ此ノ山ノ面白サニ茅檐ニ
 相對シテ坐シテ終日居トモ一鳥ノ鳴モキ
 カザルホトニ山更ニ幽ニ思フトナリ

○水總論

水ハ海潮、江湖川流、波池、盆池皆水ナリ
海潮ハ萬里ノ波濤、弥漫トハヒコリ、海潮トワ
キアガリ、天ヲ震、辰ノ地ヲ動、銀山ヲ捲キ
雷霆ヲ起ス、廣大ノ意アリ、江湖ハ流レシツ
カニ扁舟ヲ浮ベ、月帆ノ雪浪ヲ破リ、漁火
幽ナルケ、草蘆花、白蘋、或ハ白鷗、水烟ナド
ツルル、川流、波池ノ大意、月ハ盆池ハ
古詩ニテ、月體ヲ見ルセシ

大意 綠波 水色フカク波ノ色、清浪上

寒鷗浴 鷗カ遊ビ浴ス、小艇横 小舟カ人

立テ鱗 波紋、紋ナシ、練色新 水ノ色白ク

ノ如ナルツ 白鳥雙飛 水邊ノ 蒼波不

盡 水波ノ流ノカキ 清到底 水カスニテ

烟碧 水烟ト共ニ 釣船歸 釣りブ子カ

明鏡 水ノ山ノ間ヨリ流ルハ明鏡 帶花流

水上ニ花カアリトニテ 浮青行 行ハウキ草

花ヲシビテ水カ来ルリ 漂紅葉 秋水ノ流

細 水ノ青ク 清淺キ水ソ 漁火微トモシ火

カスカ 帆影没 遠キ舟ノ帆ノ影モ遠ク

ナルリ 帆影没 ナルホド没シテニテ、ノソ 浩

々長 水流大キニ 茫々江迥 茫々トヒロク

拍天 水色天トハイ 逝不窮 水ノ流イツク

来無盡 水ハイツカタヨリ 江葦亂搖 葦ノ

ミダレテ波ニエ 流盡年光 水ノ流ハハヤキ年

ニ行ソト 水鳥飛、漁人唱、皆水邊ノ 春水生

沢モ春ハ水 綠波平 春ノコロ風モナクテ

藍影 川ノ色カ藍 遠水不絶 水カ長 暖

綠溶々 春ノ波カミドリ 滿浦寒光 水色

寒影水ノ清光上沙鷗靜浮水カモメガ
過石砒スグレル

春水 桃花浪杜詩ニ三月桃花浪ト
アリ水ニ花ノ流ル

一片溪光水ノ色 綠波芳艸緑ノナミカニ

春ノ水 波浮綠春水ノ 蘸柳絲柳枝水ニ

江水平堤水ノミシテ 蘋葉輕漾ウククサカ

夕陽芳草日ノ西ニアルリカラ遠マ

片帆輕絮一片ノ帆ヲアゲテ 舟カユケハ

波拍野橋春水ノミシテ 江頭春盡晚春ノ

秋水 楓ノ紅葉カ水ニ 清徹底秋水モスミワタリ

山寒沈碧秋山カマヤカナル影 楓冷映波

萬頃冷涵萬頃ノ波カヒマカニ 白鳥自飛秋

水流ニ魚ヲウカ 波靜沙洲秋水ノ 雁影度

雁影カ水 雁涵秋影上帆帶 夕陽帆カ

帶ニ 野航小舟ナリ 小サキリワタリ

洲秋影ガニナト 生タ 洲渚水ニ雁ノ 蓼多渡

暮烟萋々ノ花秋ニ 紅井 水邊ノ 扁舟繫

岸水邊ノ 輕舟短棹水邊ニ遊 秋風斜

日秋ノ 晚景ナリ

瀑布泉 飛空掛壁壁ハ山 千丈百

丈 瀑布ノ長 素練白キ練 噴夏雪ツキ

夏雪ヲ 瓊珠進ル水ノ 岩瀑掛岩上

落ル水ガ掛ケ 山上流泉タキ水ノ 玉龍落峽

タルヤウナリ

夕キ水ヲ見シハ白玉ノ龍ガ一派奔流一派分
山アイヨリ落ルカト思トニ 一派奔流 一派分
夕キ水ヲ 風吹不斷 月カフイテモ夕キ水
珠
垂一派 珠カヒトスギラ 一條白練 一スギキ又
客衣濕 夕キ水ヲ見ル人 寒声無盡 水ノ
声カカギリ 噴雲濺月 高処ヨリ落シハ夕キ
ナクキコユル 水カ雲月ニシクニ
寒声帶月 月カ光ニ夕キ水ノ声 銀漢落天
夕キ水ハ銀河カ天ヨ
リ落ルカト思トナリ

江湖 安流 水ニ流 風帆 風ツモ千 江

烟岸樹 皆江湖 山昏木落 江邊ノ 湖平

波暖 湖水 萬里烟消 水面カ烟キハ 雨晴

湖光 雨カハシタレバ湖 一艇 絲竹 舟ニ遊

シナラ 林影翠重 水ニ林ノ影ガカ 浪無痕ノ

跡ヲミレハ浪 釣漁 艇 疾於梭 舟ヲ見
ニアトナキリ 湖水ノ岸ヲ人ガ行ム影カウ
ハヤサヨリ 鏡中行 鏡中ヲ人カ行ク如ク
未回舟 水遊シテイイダ 掉影 悠々 舟ニサホ
ユル 上蘭舟 舟ヲ上スラ蘭舟トハ木ヲ蘭ニ
スルソ 行舟 舟ノ先ヘスミ
ソ行舟 舟ノ先ヘスミ

海潮 銀島王山 海波ノ大ナ 震天 海

ノ声 奔雷 上ノ万疊 波ノ高キ 萬頃 銀濤

白浪ノ万頃 千層雪 千カサナリノ雪 奔浪

ホトニ見ユル 浪ガミユル 潮聲 雄 潮ノ声

浪ノ 晚潮 急 夕ク来ルソ 潮聲 雄 潮ノ声

シキラ 風高吹起 風カ浪ヲ吹テ 破波 舟

順風ヲ得テ 波面潤 水面ノコロ
波ヲ破テ行ク 池 山亭 野亭ノ前ニアル池水百歩ニ百歩ア
池リテモ池塘ナリ又ハ小シクシテ四方一丈

ニテモ同じク池塘ノアヒコヒナレバ池ノ詩意ハ江湖ヲ見ハ意ニ廣大ノ意ヲ以テ作り文字熟字ヲ以テ池トシテスヘシ古詩作例ヲ考合スル

挿柳種蓮 岸ニ柳ヲウケ水ニ蓮ヲウエル 一片遠天ノ影

池水ニ見ルリ一片ト 寶鑑澄光 カツラクモリナクスミルヤ

リナ夜浸寒星 夜ハ寒星カウツリ面白キリ 夜待蟾光

夜ハ蟾光ノ照スラ 一鑑開ク水ノ光ガ一カミニ待ツ蟾光ハ月ナリ

碧秋瓦新 井池ノホトリニアレモノナリ 貯連漪

池ノホリニ連漪ヲタクハヘタリ 細浪翻ガ連漪ヲ貯トハ水ヲタノクタルソ

ノ起ル 葦生蒲長 アレガミナドモ生じタルナリ 茨菰葉

底 フモタカノ葉ノ下トナリ

盆池 小池ナリ上ノ池意ノ大意目前ナリ意味ヲ廣大ニ作りサス

三人清池 小キ池ヲ作り 涵虛不淺 虛ハ天ソ

云天ヲヒタシテ 汲井埋盆 井ノ水ヲ汲テ入レ

フキトナリ 菰葉風声 三コモノ菰ニ月ノヲトガリ小於錢

ナリ 菰葉アルハ水草ノ菰ホカウキテ錢ヨリモ小ナリ 緑葉行小於錢ト古詩ニアルソ荷ニカキラハ

見星辰 星ノ影カワツルトナリ

熟語 伏檻窺東溟 李白

言ハ檻ニ伏シテ東海ヲウカヘ 海水ノ波浪ノ色カ遠山ヲ動スト云々

言ハ檻ニ伏シテ東海ヲウカヘ 海水ノ波浪ノ色カ遠山ヲ動スト云々

言ハ檻ニ伏シテ東海ヲウカヘ 海水ノ波浪ノ色カ遠山ヲ動スト云々

言ハ檻ニ伏シテ東海ヲウカヘ 海水ノ波浪ノ色カ遠山ヲ動スト云々

言ハ檻ニ伏シテ東海ヲウカヘ 海水ノ波浪ノ色カ遠山ヲ動スト云々

言ハ檻ニ伏シテ東海ヲウカヘ 海水ノ波浪ノ色カ遠山ヲ動スト云々

言ハ檻ニ伏シテ東海ヲウカヘ 海水ノ波浪ノ色カ遠山ヲ動スト云々

海瀾孤帆遲 同上

言ハ海カヒロキホドニ舟ハ行フスミヤナシ尺茫々ト海上カヒロクテ孤帆カサツキツ

人遊月自遠去 同上
此夕言ハ水上三月出ルヲ見レハ江城ノ人ハ月明ノ邊ニ遊フ如クニニユツ

言ハ月光カ水ヲ照スニヨリテ舟ヲミレハ虚空ヲ行カト見ルサリ

酒添客淚愁仍濺 周尹潛
浪卷歸心暗自驚

言ハ酒ハ愁心ヲ忘ル物ナレニ却テ客淚ヲソヘテツキ浪靜ニシテ歸心ヲナグサムベキニ却テ狂浪ヲコリニシバく心ヲ驚ヌトナリ此夕殊可味

海眼得錢 山堂肆考云北海縣地ヲ發シテ五銖錢ヲ得タリ取トモ盡ルヲナシ一石アリ其記ニ曰此是

海眼錢ヲ以テコレヲ鎮ストアリ人懼レテ掩タリト海乾ツ日上唐道士葉靜能ト云者アリ海乾ツ日白衣老父來リ泣曰胡僧水ヲ呪シテ海水カレ然レトムトアリケレハ靜能朱衣ノ人ヲ使シ黃符付シ水ニ投ジケレハ海水

モトノ如クニ海中陰火 嶺表錄凡ソ海中ノ水陰晦ノ時ハ火ノモユルガゴトシ物ヲ以テ海水ヲウテハ火散シテ星ノ如ナルアリ月夜ニハミエヌトナリ

巴江與子字 山堂肆考云大巴山ノ水巴縣ニイ

タリ分テニトナシ勢ヒ巴ノ扣舷而還 同上

字ノ如シ又字江トモ云フ 袁天綱ハ江ヲ渡ニトスルトキ船ヲタ、イテ飯或人何トテ飯ゾト問ケレハ船中ノ人鼻ノ下ノ氣黑シ凶直アフト云知ハ足ナハタル男子一人來ルヲ見テ是レ貴人ナリ此人舟ニアラハワタルメシト云テ渡ルニ俄ニ大風ヲコリケレハツカナクワタルトナリ其田カ子ハ妻師徳トナリ有徳

ノ人ナリ榮老獻扇 冷齋夜話ニ手榮老カシトナリ 觀江ヲ渡リシニ風ヲコリテワタルヲ不得アマウクアリシニ父老カキ

榮老ノ奇物ヲクハヘテアルニ江神ニシテニツラバ風ヤミント云ケレハサマク珍物ヲ江ヘ投ケレトモ風ヤミク空ニ書タル扇ヲ

韋應物カ徐州ノ西澗ノ詩ヲ書タル扇アリケルヲ思ツケテ此外ニサシテ珍物ナシトテ江ニナゲ入ケレハ即時ニ色如鴨頭 唐書ニ馬此水

ハ棘鞞ノ白山ヨリ出テ色カ
鴨頭ノ如リ故ニ鴨綠江ト名ク
謝端得螺
螺ヲ得テ家ニタケハタリソレヨリ朝夕食
物ニサレバクヲ誰シトモシレズツナヘタリ謝端
ヒソカニウカビタレバ一女子ノウルハシキアリテ
曰我ハ天ノ白素女ナリ天ヨリ君ヲ飲食ヲ
ソナヘシム今ハカヘレトテ螺ノ殼ヲアタテ
飯タリ此カラニ米常ニ満テ
トレドモ盡キズトナリ

河 千年一清 拾遺記ニ丹丘ハ千年

年ニ一タビスム一タビ
ニ一タビ燒ケ黄ハ河ハ千
年ニ一タビ聖人出ルトナリ 澹臺毀壁 水經註ニ

子羽千金ノ壁ヲ持テ河ヲワタル兩ノ蛟龍
舟ヲハサミテ壁ヲ取ントス子羽ガ云義ヲ以
テハ可求感シ以テシビヤカスベラストテ劍
ヲ拔テ蛟ヲ殺リ波シヅニリテ壁ヲ江ヘ投
入ケレバ三タビ躍リ出シリシヲ子羽壁ヲワ
ツテステタリトナリ

竹竿前流 慎子曰西河ノ流龍門ヲ 漆指
宋ノ徐仲車ガ詩ニ淮之水春風吹 漢舍珠
春風洗青於藍 絲漆指トアリ

荊州記ニ漢舍珠清其域トアリ川流ノ珠
ヲ出ス如ハ水モ必イサキヨキト云フコトリ
漢崖出鏡 宋書ニ漢水ノホドリ異声
ツレテ銅鐘ヲナニ出セリ音清亮ナリ
○古詩

懷灞上遊 杜少陵

悵望東陵道 平生灞上遊 春濃停野騎
夜宿故雲樓 離別人誰在 經過老自
休 眼前今古意 江漢一歸舟
此ノ詩一ニノクミハ嶽州ニアリテ灞上ニアリ
時ノ舊遊ノコトヲ思ヒ東陵ノ道ヲ終ニ望
ニテムカシ遊シ如ソト思ナリ三四ノクハ其昔
春色ノ濃ナリニ遊騎ヲ駐暮ニナレ雲樓ノ
ホガウカナリレニ夜宿シテ遊シソ五六ノク
ハ其時ノ友人ハ皆離別シタリシガ其人ハ今誰
カ在リ一人モナシ今我レ經過シテ遊ブトモ
己ニ老テ遊興モ休タリセハノクハ眼前今古
ノ古又ヲ思ハバ心ヲ傷シムルニミソ 江漢ノ歸
舟ヲカリテ故郷ヘカヘレヨリナリ

新安道中觀流水 吳融

一渠春碧弄潺湲 密竹繁花掩映間 看處
便須終日住 算來爭得此身閑 繁絃似
接迷春洞 清冷應吟有雪山 上卻征車更

回首了然塵土不相關

此詩三ノ夕ハ一ツノ渠ノ水春ノ碧リテ流シテ
其声潺潺後トヒキテ流ルソ此ノ水シテリ
夕ハ竹ノ下盤系キ花ノ間ニ掩ハレ映ジテアルソ
三四ノ夕此水面自キホドニ終日此ニ住シテ
モ好ゾイカニトイハル此身ハイソガハキ身ニ
筭ヘ来ニミシバ何トシテモ開カニナルソ
ミイゾ五六ノ夕ハ水カメクリノテアチダコチ
夕ヘツキタレハ何クヨリ来ルヤラニ春洞ニ迷
テシラヌゾシカモ清冷トスバシクイサキヨクテ
愛スルハ雪山カアルヤリニスサニシク思ゾ七八
夕ハ人ハ山路ヲユク車ガ高キ処ヘ上リテ首ヲ
回シテミシバ了然トシテ世上ノ塵土ノケカ
ラハシキニアツカラヌマウニ思トナリ

望天門山

李太白

天門中斷楚江開碧水東流至北迴兩岸
青山相對出孤帆一片日邊來
三ノ夕ハ天門山中斷テ如門ナル楚江
が見ユルソ碧水東流北ニイタリテ迴リ
流ルソ三ノ夕ハ其ノ兩岸ハ青山カ巍
々トタカク出テアル如ヨリ一片ノ孤帆カ
ギクシバ日邊ヨリ来ル如ニ見ユトナリ

○橋梁總論 附舟

橋ハ水ヲ渡ル梁ナリ獨木ニテ溪川ナドワタ
シタル權ト云亦約トモ云楚人ハ橋ヲ地ト云
舟ヲツツガカケタルヲ浮橋ト云サレドモ詩ニ
作ルニ權約ナド作ルニ至テ稀ナリ總ジテ
橋舟ナト一字題ヲ作ルニ題詠トテ初学
ノ作ルベキニアラズ野橋トカ溪橋トカ云題
ナレハ詩モ題詠ニアラズトコトコト初学ノ人カ
橋ヲ詩ノ中ニ作ルヲ前ノ山水郊野ノ大
意ニ雜ヘ入テ作ルニ舟楫ハ水流江海ノ器
用ナレバ此ニ賦入古詩ニ考ヘ見ルニ

大意

勢如虹

橋横ハリタルハ架天橋

シタルハ青蛟掛堤 青キ蛟龍ノ堤ニ似雁初

飛橋ノ形雁ノ初ニ横月浦 橋カ月ニ映シテ

踏靈敖魚 敖魚ハカノ類ナリ橋ヲワタル敖魚ノ

虹影臥流 虹ノ影ハ水流ニ掛天 蜻蛉 橋ノイ

天ニニジノサシ 一條碧玉 水ノ流一スギ 虹晴臥

波ニ橋ヲ 碧玉無瑕 橋上ヨリ碧玉水ヲ

熟語

虹腰宛轉三百尺
鯨背參差十五舟

古詩

此夕言ハ橋ハ虹腰ノ宛轉タル如クニシテ長ク三百尺ナリ舟ノ連リ繋ギタルハ鯨背ノカタクニナリ如クニ十五舟アルトナリ虹ヲ橋ニトテハ鯨橋ニトテハタリ腰ノ字北背ノ字蛟鯨ノ字ニ熟スニトヘタリ

抑天蟬玉腰閣

此夕言ハ石天ニシテサシハサシタル蟬玉ノ二ビ玉腰カヒロク目見ユルヨク見ルハ橋ナリ海ニシテカ

橋ナリ此ニ夕ハ虹鯨ヲ橋ニ比シテ云ナリ此体ノ夕ハ如此意得ヘシ天ニ抑ムト云ク海ニ跨ルト云フ閣ノト子ト高ノト子トニ熟ス

故友

吹簫 山堂肆考ニ杜牧揚州ノ韓綽判官

何處教吹簫ト云ヘリ是ヨリ二十四橋ヲ吹簫橋ト名ツク月夜ナドノ橋ノ詩ニ吹簫橋ト云ヘ

繫龍 山上東漢ノ時瞿宋武ト云者峨眉ニテリテ歸リ其龍ヲ潭ノ橋ニカケテツキシ故繫龍潭ト云ソ其後龍ニリテ云ナリ

此潭ニ橋アリソレヨリ 龍臥 朝野僉載ニ趙

繫龍橋ト名ツケリ 州石橋ハ初月ノ雲ヲ出長江ノ澗ニ飲ガ如クニ云橋ナリ昔シ向奴南カヘワタラントナリ此橋ニテ來リシカ馬驚テ橋ヲワタラズ是ヲミシレハ青龍カ臥シラルト

ミヘタリワタルフゾアズシテ去トアリ

安平橋 山堂肆考曰安平橋ハ晉江縣ノ

ノ故友ニ用 乘月 作詞 東坡黃州ニ在シ

月橋ノ上ニ卧シ西江月ト云詞ヲ作リト云

○古詩

過垂虹橋 何橋潭

垂虹橋下水連天 一帶青山落照邊 三千

六波烟浦冷 鷺鷥飛上釣魚船

三ノ夕言ハ垂虹橋下ノ水ハ遠クハルカニ流テ天ト一色ニツラナリタルニ一帶ノ如クニヒトスギノ

水カ青山ノ夕日邊ヨリ來ルソ三四ノ夕言

六波ハ此橋ニツキタルツミナリ此橋ヨリ見

ワタセバ三十六波ノ烟波冷ニシテ鷺鷥カツ

リ舟ナドハノボリニ魚ヲウカヒシトナリ

吳江長橋 鄭毅

三百欄干鎖畫橋 行人波上踏瓊瑤 柳天蟬 玉腰閣 跨海 鯨鯨 金背 高

三ノ夕ハ此長橋三百ノ欄干ガ色ドリハ橋
ヲトリミワシテ鎖シタリ橋上ヲ行ク人ハ瓊瑤
ノタミノ如クイサギヨキ波ノ上ヲ行クトナリ
三四ノ夕ハ蜻蛉カ天ニサシハサミシ其ワタリコシ
トナリ玉腰トハ虹ノ色ウルハシキヲ云腰虹ノ
横ナリサテ梅ヲアツトコヒタル鯨ノ金色ノ
北月カ高ク水上ヘ出タル如キミユトナリ鯨鯢
ハツクギラメクギラフト訓ズ大魚ナリ鯨鯢似テ
四足アリ声ノ人ノコドシ

陪李司馬卓觀造竹橋 杜甫

代竹為橋結構同寒裳不涉往來通天
寒白鶴歸華表日落青龍見水中愧吾
老非題柱客知君亦是濟川功合觀
却笑千年事驅石何時到海東
一三ノ夕言ハ竹ヲ代リテ橋ヲ作ニ結構ト
ムスビカニテヨクトナフタリ同トハトノフタル
意リ是ニヨリテ人々裳ヲカゲ水ヲワタル
一ソヤソニ橋ノ上ニ往來ヲ通ズルソ三四ノ
夕天寒ノ時白鶴カ橋前ノ柱ニ皈リ日落
ル時ハ橋ノ影水ニウツリテ青龍カミユルソ白
鶴トハ昔シテ令威仙道ヲ得テ去リシガ後ニ
白鶴ト化シテ遼東ノ華表ニカハリタルトハ故
ソ五六ノ夕ハ杜甫自言ハ愧ベギフカサ吾レ
此橋柱ニ題セシ昔ノ司馬相如カオナシ今此ノ

橋ヲ見テ君カ濟川ノ功ヲ見タルトナリ題柱
トハ昔シ司馬相如成都ヲ出ル時橋柱ニ題シテ
曰駒馬ノ車ニ乗ズニ復此ノ橋ヲワタルニキト
カキツケテ通りシ故吏ナリ七八ノ夕ハ今李司
馬ニ陪シテ此ノ橋ヲ見ニツケテ千年ノ吏ヲ思フ
始皇カ石橋ヲ作り日ノ出ル処ヲ見ニトセシガ
成リ難シイタツラゴトソ今竹橋容易ニハ
ソトリタルトナリ

舟大意 孤蓬柔櫓 孤蓬ハ一孤舟ニ
柔櫓ハツツカシク舟

一葉片帆 孤舟ノ衝煙望月 水煙ヲツキ破
リテ行コトソ

舟ニテハサワリナク月ヲ望ムトニ 舉棹ヲ舟ヲユ
以上ノ字ニ字ツ切テ用ユ

迴舫歸ルコトソ 一枝柔櫓 一棹ニテミツカ
ニゴトナリ

輕烟漠々 水煙ノ天色微茫 天色ノカスミテ
ミユラムソ

迤邐上天 月明洲渚 月明洲渚ニ月ノ明
ナルヲ示ス

一秋孤烟暮 水煙ノ裏ヲ 紅蓼岸 紅蓼ノ花
見ル景ノ 霜空極天 霜空ノ野曠

天低日得意風 順風ヲ得 湍艇霜夜

綠楊堤畔 柳岸ヲヨセ 驚宿路 舟ヲサ

間ナド行ハ 月入船窓 月光カ舟ノ一帆千

里 天氣順風ニテ 篙穿明月 月明ノ中ニ篙

送歸舟 上モ夕陽ニテモ送ルモソ見好山

舟カ行ハ先々ニ好山カアリテ見リ

逢疎夜々通明月 浪靜時々見好山

ニウ言ハ舟ノ逢カ疎ニテ明月ヲ通ジ

タレハ夜ノ寂寥ヲ忘レルソ浪靜ナル舟

仍連故鄉水 萬里送行舟

ニウ言ハ今人ノ行舟ヲ送ガ 此水ハ我カ故郷

ノ木ナレバ万里ノ外ニ居テ旅人 ヲ送ルリ故

北背人山嶺重々去 照鵲梅花樹々殘

ニウ言ハ舟カ行ハ山嶺カ人ニ背テ去ル如ニ

ミユルソ山カ去トミユルハキコハ背人ト云

字ニテ舟ニミル山トキユナリ 鵲舟ヲ照ス

梅花カ殘ルトバカリニテハ無詮ソ樹々ト

アレル舟ノユクサキニテ 梅花カ鵲舟ヲ照ス

トミユルナリ 故友

檜楫松舟 詩經ニ 泛樓船 漢武帝辭ニ

濟汾河 操舟若神 莊子ニ顔回ハ醴酒ノ

操舟若神 浮家泛宅 活法ニ張志和湖州

謁シタル真鄉舟ノ破名ヲアラタメヨト請

ケル張志和カ曰固ニ浮家泛宅ヲ以テ苦雲

ノ間ニ往來スルニ云タリ 馳馬 崔豹古今注ニ

浮家泛宅ハ舟ヲ云リ 逐龍 洞冥記ニ露池ノ西ニ良

名ツケテ 逐龍 洞冥記ニ露池ノ西ニ良

馬ト云レト 逐龍 洞冥記ニ露池ノ西ニ良

逐龍舟 鴻毛舟 日上海蟻池ノ 沙棠舟

山海經ニ山其出命ニ沙棠木アリ其ノ實ツ
食スレバ水ニシボレヌトアリ其木ニテ舟ヲ作ル
水ニ沈リ蘭舟字書ニ本蘭ハ木ノ名戴月
ナシトアリ蘭舟舟ニ作ルメシ
歸傳燈錄ニ船子和尚ノ詩ニ千尺絲綸直
下垂一波纜動萬波隨夜靜水寒魚泉
餌滿船空載風波險山谷ガ漁父詞ニ西
月明歸波險塞山頭白鷺飛桃
花流水鱖魚肥朝廷問覓玄真子何處
如今更有詩青筠豈綠衰衣斜風細雨不
須飯人間若避風波險馮夷借夕涼東坡
一日風波十二時トアリ
昔段瑄が舟ヲ泛タリニ江風カスシカリケ
レハ段瑄欣然トシテ云ハ馮夷カ我ニ夕ノ涼
カシタルト云シトナリ馮夷ハ水神ノコトソ
○古詩

早發白帝城李太白
朝辭白帝彩雲間千里江陵一日還兩
岸猿聲啼不盡輕舟已過萬重山
二三ノ夕言ハ白帝城ヨリ早天ニ舟ニノリテ
彩雲ノ間ヨリ碎シテ去ルノ九百四十里
江陵ニテノ舟路一日ニ還ルノ三四ノ
夕舟路ノ兩岸ノ猿聲無限啼不盡
是ハキクニ夕ヘ子ト輕舟ニテ行ホドニ方重ノ

山ヲ過テ片時ニ行ベキトナリ

泛舟全
日落沙明天倒開波搖石動水聲迴
輕舟泛月柔溪轉疑是山陰雪後寒
三ノ夕ハ日落ル時ハ沙モ白ク明カニ天ノ影モ
水中ヘ倒ニ開テニル舟カユケバ波モウゴキ
水ニセカレニ山石モウゴクヤウナリ三四ノ夕此
ノ夜輕舟ノ月ニウカベニ遊ハ月モ水モ
影ガ白ク雪如ナルホドニ疑ラクハ王子猷カ雪
夜ニ舟ヲウカベテ戴安道ヲ訪ヒタルヤウニ
山陰ヘ雪後ニ来リタルカト思トナリ

○園總論

園ハ瓜果ヲ植草木ヲ養テ一家ヲ養備
隱退ノ人ハ遊觀盤旋シテ生涯ヲ送ル地之
官人モ公暇ニハ逍遙ノ為ニ山莊別墅トテ
花木ヲ植第宅ヲ作り行樂ノ地トス此詩
ハ古人佳客屢多シ先ツ仲長統カ樂志論
温公ノ獨樂園ノ記ナドアリ其作意ヲカリ
テ大意ノ語ニヨリテ作ルメシ我カ任居ノ
園或ハ友人ノ園ニテ招カレタル時モ詩意情
景トモ同前ナリ園ニテノ詩ヲ作ル為スモ
四時ノ大意山野ノ大意ノ外ニ出タルナリ
園ニテノ大意ノ中ニ考合セ用ユル園亭
ノ詩トナルメシトハ種松栽竹曲欄ト云ヒ

石徑ト云ニ緑上階ナドイハ皆園亭ノコト
ナリ人ノ招ニ應ジタニ時ハ主人ヘアイサツアム
其作爲ハ宴飲ノ部ニテ考見ル
大意

種竹栽松曲欄石徑以上園亭ノ松窓爽ヤカ

松林ノミユル窓スレシクサワマカサリ石徑清モナキリ芳艸和

烟ニ青草ニ烟ノ開窓見山ミ山カミニ景ニ

翠拂簷竹ナドアリテ綠上階草色カ階

花影滿簾日影ニテ花ガ一窗秋夏月

ノ風カ涼シクテ一窓ニハ階前山色窓外鳥

声皆園亭ニ野草林花皆園亭ノ忘地

穴地カ面白サニ地ノセバキ醉臥醒吟園亭

酒ニ酔ニハフシ醒テハ詩ヲ作り吟スリ千峯入萬嶺環園亭

万嶺ノ景カ松陰轉日モ夕ニナレハ花片

飛花カクダケ捲簾看四方ノ景ヲ見ニ

苔侵牀石苔カ生シテ蝶戲奇花蝶

奇花ニ風涼綺席涼風カ綺席ニ荷風驚

鳥荷葉ニ風カ吹テ荷薰枕簟荷葉ノ

ラタカムシロ魚吹柳如池ヘ柳如カ落タル

滿座山光山光カ座中ヘ紅塵不到地カキ

世間ノ紅塵ハ酒入荷杯荷葉ナトラ杯ニ

荷揺扇池ノ荷葉ガ扇日易斜園景カ

日ガ斜ナルニ遊テ遊テ足幽香サニクノ

ホドニクシヤスク思ワリ花カ幽カ載酒過

ソ穿花トモ清有餘世ノ久ニイサキ行堪遍

云フヘキリ

此地ハ好景ナレバコトク
ク行ベキゾトナリ 一榻 風来リテ一榻
如美人ノ花ニ對スレハ 翠掩門
步照景 地ナドノ息遣ヲ行テ
熟語 我カゲナドワツテ
駱賓王

惟有當秋月 空照野人園

此ノ夕ノ言ハ秋ノ月ハ愛スベキコトナレバ心有ル人
園ナラバ當景ナルベキニ野人ノ園ヲ照セバ見
ル人モナキト云フ

細挑泉眼尋新脈 活法
輕把花枝換宿香

此ノ夕泉眼ハ泉ノワク穴ナリ言ハ泉ノ来ル
泉脈ノスグヲ尋テ泉眼ヲアツコトト挑
セリテミルリ又ハタビク花ノ枝ヲトリテフ
ルキ花香ニカヘテ見ルトナリ

雨声偏向竹中好 古詩
山色漸從烟際無

此ノ夕ノ言ハ雨声ハ園ニキニテ一面白ケレ
竹中ニ入ル声カ好リ山色モ面白ケレ烟ノ中
ニ見ル山色カ有リ無シサタミズシテ面白キ
トナリ偏ノ字好字漸ノ字無ノ字皆虚字ニ

虚ヲ用ル意味ヨクク学フベシ
故夏

翻車灌園 山堂肆考曰魏馬鈞京師ニ地
アリ園ヲ作ル水ナカリケレバ翻
車ヲ作りテ引ル水ヲ

轉ジテ園ニシカシタルトナリ 水車 魏志ニ水車
馬鈞作りテ

園ニソキ社山躑躅 山堂肆考云社山ノ絶
頂ニ葛洪カ丹ヲ鍊シ

トアリ葛仙園ト云ハ 三々徑 見聞錄ニ宋楊
其処ニ躑躅花多シ 誠齋東園ニ新

二九徑開テ江海棠桃李橘杏紅梅碧桃
芙蓉ノ九種ヲ各一徑ニウエテ三々徑ト名ツ

ケ詩ヲ作テ曰ク三徑初開蔣卿再開三徑
是淵明誠齋奄有三々徑一徑花開一徑行

アリ大字寺園 洛陽名園記ニ大字寺園ハ
唐白樂天カ園ナリ白樂天カ

云五畝第ハ復道坊ニアリ五畝ノ宅 羅隱南
十畝ノ園水一池アリ竹千竿アリト云

唐羅隱ガ南園ノ詩ニ曰擗擊路終迷
南園且灌畦敢言逃俗去自是樂幽棲

トアハハハハ 吳興沈公ノ園ヲ自定園
リ園名自定ト名ク葉水心先生園ノ記
ヲ作ル
○古詩

題崔端公南園 李端

上士愛清輝 開門向翠微 抱琴看鶴去 枕石待雲歸 野坐苔生席 高眠竹挂衣 舊山東望遠 惆悵暮花飛 此詩一二ノ句ハ上士カ清輝ノキヨキ光ヲ愛スル 故ニ門ヲ翠微ノ見ユル処ヘ開クソノ三四ノ句ハ 此処ニスミテ隱退シタル體ハ琴ヲ抱テハ鶴 ノ飛去ヲ見ル石ヲ枕ニシテハ雲ノ歸ルヲ待ツテ 久シク臥シテ居リ隱者ノスミカノ体ヲ云フ五 六ノ句ハ野ニ坐シテ居ルホドニ苔ガ席ニシツカ シ生ジ高眠シテ臥シテハ衣カ竹ニカシ履カハ ヌソ七八舊山ヲ思テ東ヲ望ム退々ト公カ ナリ只惆悵スルハ故山ノ花モ暮月ニナリ飛 マレト思トナリ

南園

薛能

天子優賢是有唐 鑑湖恩賜賀知章 他年 我若成功去乞取 南園作醉鄉 此ノ詩一二ノ句ハ天子ノ賢人ヲ貴テ優礼シタニ 此ハ右唐ナリ鑑湖ト云堤ヲ恩賜アリテ賀 知章カ遊賢ノ地ニナリトナリ三四ノ句ハ 我モ若シ一功カ成就シテアラハ天子ヘ乞フテマ ツリ南園ヲ酒宴ノ地ニスレトナリ

○寺總論

寺ハ山寺野寺古寺廢寺アリ都テ寂寞清 閑ノ意ヲ要トス大槩山水郊野并四時大意 ニテ作爲スル中禪詩人ノ詩ハ皆禪寺ヲ作 リ禪僧ト遊ノ作ナリ只清淨瀟灑ニシテ俗 塵ヲ離レカ外ニ遊ノ意ナリ今宗門其多 多シ其宗旨法語ヲワキヘイサツアルメシ

大意

禪關靜

禪關ハ寺ヲ云フ境 畧ノ靜ナルヲ云フ

禪心

禪味ヲサトヒラムソ寺ニ遊ベバ世俗ヲ 忘テ心カ淨クナルユヘ禪心カアラハト

紫殿高

此紫殿ハ寺ヲ云フ高キ 如ノ寺ナリ

鐘聲清

鐘聲ノ声カ 蘭若月高 寺ニシテ 見ハ月ノ

風滿迴廊

風カ吹テ迴廊ニ滿ハ 花飛淨界

空廊獨步

サゴシキ迴廊ニ 獨リ歩スルソ

朝鐘暮鼓

朝ノ鐘聲 暮ノ鐘聲

塔影高

塔ノ影カ 樓館參差

目菩提經聲

僧ノ讀經ノ 客尋朝

見ユルソ 見ユルソ

磬ツ山ニ遊フ人カ磬ノ声 綠葉陰下綠樹ノ陰リ

靈峯寺閣靈山ニアハル寺 佛閣晴烟佛寺カ晴

靈巖殿ト云意リ 靈巖殿有路神靈ナル山寺ヘ 無路アリニ来ト

僧寒殿僧モミエ又仏殿 古松籠寺古松

但餘鐘聲境界寂實ト 涼露古木蕭蕭

清夢遠寺院ニ遊ニテハ夢モ 雲開ナリ

淨几僧ノ意モ閑ニ 非人世寺ノ境界人間

僧鎖半扉僧ノ居トボソラ 山門古山門ニ苔

度山閣山上ノ廊閣ヲアチタ 空院タルリ

懸岩亂水花ガカリチルリ 鐸聲鳥声カ林葉

鳥聲林葉鳥声カ林葉 鐸聲鳥声カ林葉

林ノ外ニテ 樓臺突兀寺樓カ山上アルニ

千岩殿閣千岩ノ上ニ 遠庭松徑寺ノ

雲外鐘聲遠キカ子ノ 清梵落讀經ノ

自成空世間ノ相ハ皆 雲生古木雲カ

璃泉ナドスミワタ 起香雲仏殿ノ烟雲

泉遙遠ク取リ 倚崔嵬寺カ高キ如ニ

石磴盤空石ノ坂ノ高キ如ニ 石室虚空ヲメグレ如ナリ

苔痕イハヤナドニ 踏破高キ如ヘ

一榻對雲ユカノ上ニ坐シテ 一榻臨水水邊ニ

水ヲミル道場古 禪房花川モ同シ

木禪房カ花木 物外身此ノ身ヲ万物ノ外

深深キ如ニ 物外身此ノ身ヲ万物ノ外

深深キ如ニ 物外身此ノ身ヲ万物ノ外

深深キ如ニ 物外身此ノ身ヲ万物ノ外

一空門 心裏清淨 淨隔世塵 世間ノ塵

清閑蕭索 サビシクシ 過々引望 高処ヨリ

ワタ謝人世 高山遠寺へ上ル人 半空笑

語 高処ノ望ノ半空ニ 行烟雨裏 山上ノ 畫

棟凌雲 高山ニ雲ヲ 攀飛星 星ヲ

高キヲ 天河へ上ルカト 與山齊 高キヲ

千里勝景 見渡ス 千里目 千里モ遠キカタ

熟語 景ヲ云 花濃春寺靜 杜甫

竹細野池幽 言ハ花ハ開キ多ククド遊人少クシ春モ境

野潤煙光薄 月上

沙暄日色遲 言ハ野カウレホク故ニ烟カ起テウスくと云

ソ春ニシカアタカニナリテ日色モ遲ソト

ナリ此ノ夕モ潤薄ノ字暄遲ノ字虚字ニ

テ照應幽美ナルソ 樓玫瑰

水從何來不知處 魚若空行無所依

此ノ夕水魚ノ二字ヲ虚字ヲ以テ言カナヘタリ

此ノ體ヲ字ニ知ルナシ 白居易

林間煖酒燒紅葉 白居易

此夕林間ナクハ酒ヲ煖ルニ紅葉ヲ燒ソ石

上ルユハ詩ヲ題スルニ綠苔ヲ拂ソ熟對

ノ夕ニシテ工甚ダニキリ

故夏 佛宇如殿 夏文類聚ニ魏ノ

ル胡太后永寧寺ヲ作ル皆空殿ノカタハフニ

アリ僧房千間珠玉錦綺人ノ心目ヲ敬第ス

太極殿ノ如ク捨宅為寺 同上王荊公金陵

密坊 雞蹠集ニ給孤

半山ト號セシナリ 長者黃人ヲ布

ニタル地ニ伽藍ヲ作ル 潜確類書ニ寺

故ニ寺ヲ宝坊ト云フ 本宗園ト称ス

自馬寺ニ本林 天竺本記曰達親國ニ

アリ故ニ云フ 雁堂 迦葉佛ノ伽藍アリ大

石ノウカツテ此ヲ作ル五重アリ最上三雁
形ヲ作ル潜確類書ニ班舎離佛ノ為ニ堂ヲ
作ル形雁ノ衆香國維摩經曰上ノ界
字ノ如アリ佛土ニ國アリ衆香
名ツクノ維摩居士化菩薩ヲ遣ニ鹿苑
衆香國ニ住テ佛ヲ祀セシムトアリ
西域傳ニ大林中堂六佛調達ト昔シ鹿王
佛ノ為ニ乃子鹿ノ命ニ代ル鹿野ノ號此
ニ因テ名ヲ傳タリ

○古詩

陪四使君登惠義寺 杜甫

春日無人境 虛空不住天
營花隨世界 樓閣倚山巔
暎暮身何得 登臨意
惘然誰能解 金印滿西天
此詩一二ノ夕言ハ此寺ニ登レハ春日モ寂寞
夕ハ無人ノ境見ナリ僧ノ生涯モ不住相ト
テ物ニ著セヌ処アリ不住ノ天ハ不住相ソ
三四ノ夕ハ見ル処ノ早景ハ營花ハ同世界ニ夕
ガヒニ花ヒラキ營サハツリ樓閣ハ山ノ夕
夕キニアリ五六ノ夕ハ今衰老ニテ何ノ得ベキ
事ナシ此寺ヘノボリテ意惘然トホシクト
シタルソ誰カ能ク名利ヲ逃シ去テ金印ヲ
解スニ安禪ヲ學ベキソトナリ四使者ヲ
諷シタル詩也

宿山寺

項斯

栗葉重兮覆翠微 黃昏溪上語人稀
月明古寺客初到 風度閑門僧未歸
山
菓經霜多自落 水虫穿竹不停飛
中
宵能得幾時睡 又被鐘聲催著衣
此詩一二ノ夕此山寺ハ栗葉カ重カサナリ
翠微ヲ覆タルノ黃昏ノ時ハクニハモヤサシ
クナリテ人声モナキソ三四ノ夕ハ古寺ニ月ノ
明ナル時ハ月ミント客初テ来リ閑門ハ人ノ
出入モ少キニ風バカリヲトツテ僧ハイマダカラ
ヌソ五六ノ夕ハ山寺ナルホドニ山菓カ霜ヲ經
テ落テ多クアレヒエロフ人モナク水虫ハ竹ヲ
ウカチテ寂寞タル処ニカニニ火ヲトボスソ
七八ノ夕ハ寺ニ宿シテ幾時カ睡ル間ノアル
ベキソ子ラレヌゾトナリトカウスルホニ又寺ノ
鐘声カキユエテハ夜ヲ著テ起ルトナリ
身ガイソガワシケレハ寺ニ宿シテモ公古又ニ
イトニナキ意ト見ヘタリ

詩林良材後編

是迄五冊ナリ
抜萃シテ一冊トナス

寬政八年丙辰冬臘月穀旦

法海寺現住

智道榮致寫之

